文部科学省認可通信教育

学1課程

2024年度

シラバス

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程

Syllabus

Correspondence Course, College of Art and Design, Musashino Art University

2024

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程

2024年度

シラバス 学1課程

学生ハンドブック	はじめに読んでください。
↓	
履修ガイドブック	履修登録の際によく読んでください。
↓	
シ　ラ　バ　ス	授業科目の概要をまとめたものです。履修登録の参考にしてください。 履修登録後は、教科書・学習指導書等の教材に基づいて学習を進めてください。

Syllabus 2024

Correspondence Course, College of Art and Design, Musashino Art University

目次

授業コード	授業科目名	ページ
	造形文化科目	7
2530	レポート入門 I	8
2540	レポート入門 II	9
0030	コンピュータリテラシー I	10
0040	コンピュータリテラシー II	11
2130	コンピュータリテラシー III	12
2140	カメラリテラシー	13
2470	美術入門	15
2480	デザイン入門	16
0050	文学	18
0060	歴史学	19
0070	哲学	21
0080	社会学	23
0090	経済学	25
0100	憲法	27
0110	民俗学	29
0120	心理学	30
0150	色彩学	32
0170	著作権法	34
0180	音楽論	36
0130	数学	38
0140	生物学	40
0190	物理学	42
0200	自然科学概論	44
0210	英語 I	45
0220	英語 II	47
2160	フランス語初級	49
2170	フランス語中級	51
2180	フランス語上級	53
0260	健康と身体運動文化 I （フィットネス）	55
0270	健康と身体運動文化 II （フィットネス）	
0280	健康と身体運動文化 III （フィットネス）	
0290	健康と身体運動文化 IV （フィットネス）	
0260	健康と身体運動文化 I （テニス）第1期	56
0270	健康と身体運動文化 II （テニス）第1期	
0280	健康と身体運動文化 III （テニス）第1期	
0290	健康と身体運動文化 IV （テニス）第1期	
0260	健康と身体運動文化 I （護身武術）第2期	57
0270	健康と身体運動文化 II （護身武術）第2期	
0280	健康と身体運動文化 III （護身武術）第2期	
0290	健康と身体運動文化 IV （護身武術）第2期	
0260	健康と身体運動文化 I （バドミントン）第1期	58
0270	健康と身体運動文化 II （バドミントン）第1期	
0280	健康と身体運動文化 III （バドミントン）第1期	
0290	健康と身体運動文化 IV （バドミントン）第1期	
0260	健康と身体運動文化 I （バドミントン）冬期	59
0270	健康と身体運動文化 II （バドミントン）冬期	
0280	健康と身体運動文化 III （バドミントン）冬期	
0290	健康と身体運動文化 IV （バドミントン）冬期	
0260	健康と身体運動文化 I （ダンス）第2期	60
0270	健康と身体運動文化 II （ダンス）第2期	
0280	健康と身体運動文化 III （ダンス）第2期	
0290	健康と身体運動文化 IV （ダンス）第2期	
0260	健康と身体運動文化 I （ゴルフ）第2期	61
0270	健康と身体運動文化 II （ゴルフ）第2期	
0280	健康と身体運動文化 III （ゴルフ）第2期	
0290	健康と身体運動文化 IV （ゴルフ）第2期	
0260	健康と身体運動文化 I （エチュード）冬期	62
0270	健康と身体運動文化 II （エチュード）冬期	
0280	健康と身体運動文化 III （エチュード）冬期	
0290	健康と身体運動文化 IV （エチュード）冬期	
0260	健康と身体運動文化 I （卓球）第1期	63
0270	健康と身体運動文化 II （卓球）第1期	
0280	健康と身体運動文化 III （卓球）第1期	
0290	健康と身体運動文化 IV （卓球）第1期	
0260	健康と身体運動文化 I （武器術と護身）冬期	64
0270	健康と身体運動文化 II （武器術と護身）冬期	
0280	健康と身体運動文化 III （武器術と護身）冬期	
0290	健康と身体運動文化 IV （武器術と護身）冬期	
0300	健康と体力研究	65
0310	身体運動文化研究	66
2290	美術の歴史と鑑賞	67
0320	日本美術史	69
0330	東洋美術史	71
0340	西洋美術史 I	72
0350	西洋美術史 II	73
0360	建築史	75
0370	デザイン史	76
2190	演劇史	78
0380	民芸論	79
0390	美術論	80
0400	現代芸術論	81
0410	工芸論	83
0440	映像文化論	85
0450	デザインマネージメント	87
0460	アートマネージメント	89
0470	情報社会倫理論	91
0480	情報職業論	92
0490	演劇空間論	94
0500	工業技術概論	96
2200	絵画空間論	98
0520	美術解剖学	99

授業コード	授業科目名	ページ
2210	日本画材料学	100
0540	ワークショップ研究 I	101
0550	ワークショップ研究 II	103

造形総合科目 …… 105

0560	造形基礎 I	106
0570	造形基礎 II	108
0580	造形基礎 III	110
0590	造形基礎 IV	112
0600	デッサン I	113
0610	デッサン II	115
2150	デッサン研究	117
0620	絵画研究 I	119
0630	絵画研究 II	121
2300	絵画研究 III	123
2310	絵画研究 IV	124
2320	版画研究 I	126
2330	版画研究 II	127
0640	彫刻 I【塑造クラス】	128
0640	彫刻 I【木彫クラス】	129
0650	彫刻 II	130
0660	彫刻 III【塑造クラス】	131
0660	彫刻 III【木彫クラス】	132
0670	彫刻 IV	133
2340	彫刻 V【塑造クラス】	135
2340	彫刻 V【木彫クラス】	136
0680	工芸 I	137
0690	工芸 II	139
2350	ガラス基礎実習 I	141
2360	ガラス基礎実習 II	142
2370	テキスタイル基礎実習 I	143
2380	テキスタイル基礎実習 II	144
2390	金工基礎実習 I	145
2400	金工基礎実習 II	146
2410	陶磁基礎実習 I	147
2420	陶磁基礎実習 II	148
2430	木工基礎実習 I	149
2440	木工基礎実習 II	150
0720	デザイン I	151
0730	デザイン II	152
0740	ブックバインディング	154
0750	映像メディア表現 I	156
0760	映像メディア表現 II	157
0770	レタリング	159
0780	タイポグラフィ	161
0790	イラストレーション	162

授業コード	授業科目名	ページ
0800	絵本	164
0810	パッケージデザイン	166
0820	ファッションデザイン	168
0830	図法製図 I	170
0840	図法製図 II	171
0850	マルチメディア基礎	173
0890	コンピュータ基礎 I	175
0900	コンピュータ基礎 II	177
2490	デジタルファブリケーション実習	179
0920	絵画 I	180
0930	絵画 II	182
0940	日本画 I	184
0950	日本画 II	186
0960	版画 I	188
0970	版画 II	190
0980	プロダクトデザイン I	192
0990	プロダクトデザイン II	194
1000	インテリアデザイン I	196
1010	インテリアデザイン II	198
1020	グラフィックデザイン基礎 I	200
1030	グラフィックデザイン基礎 II	202
1040	情報システム基礎 I	204
1050	情報システム基礎 II	206
1060	デザインリサーチ I	208
1070	デザインリサーチ II	210

授業コード　授業科目名　ページ

造形専門科目 …… 213

油絵学科

1080 絵画表現 I …… 214
1090 絵画表現 II …… 216
1100 複合的表現 I …… 218
1110 複合的表現 II …… 220
・絵画コース
1120 絵画 III …… 222
1130 絵画 IV …… 224
1140 絵画 V …… 226
1150 絵画 VI …… 228
1160 絵画 VII …… 230
1810 卒業制作 …… 232
・日本画コース
1170 日本画 III …… 234
1180 日本画 IV …… 236
1190 日本画 V …… 238
1200 日本画 VI …… 240
1210 日本画 VII …… 242
1820 卒業制作 …… 244
・版画コース
1220 版画 III …… 246
1230 版画 IV …… 248
1240 版画 V …… 250
1250 版画 VI …… 252
1260 版画 VII …… 254
1830 卒業制作 …… 256

授業コード　授業科目名　ページ

工芸工業デザイン学科

1270 工芸工業デザイン基礎 I …… 258
1280 工芸工業デザイン基礎 II …… 260
・生活環境デザインコース
1290 生活環境デザイン論 …… 262
1300 生活環境計画 I …… 264
1310 生活環境計画 II …… 266
1320 生活環境デザイン研究 …… 268
1840 卒業制作 …… 270
・スペースデザインコース
1330 スペースデザイン論 …… 272
1340 空間設計 I …… 274
1350 空間設計 II …… 276
1360 スペースデザイン研究 …… 278
1850 卒業制作 …… 280

授業コード　授業科目名　ページ

芸術文化学科

1370 ミュゼオロジー I …… 282
1380 造形民俗学 …… 284
1390 メディア論 …… 285
1400 編集研究 …… 287
2240 博物館資料保存論 …… 288
2250 博物館展示論 …… 289
2260 博物館教育論 …… 290
・造形研究コース
1410 造形学概論 …… 291
1420 資料情報処理 …… 292
1430 媒体組成研究 …… 294
1440 造形学研究 …… 296
1860 卒業制作 …… 297
・文化支援コース
1450 生涯学習概論 …… 298
1460 ミュゼオロジー II …… 300
1470 博物館実習 …… 302
1480 文化支援研究 …… 304
1870 卒業制作 …… 305

授業コード	授業科目名	ページ

デザイン情報学科

1490	メディア環境論	306
1500	マルチメディア表現	308
	・コミュニケーションデザインコース	
1510	イメージ編集 I	311
1520	イメージ編集 II	312
1530	コミュニケーション研究 I	314
1540	コミュニケーション研究 II	316
1880	卒業制作	318
	・デザインシステムコース	
1570	情報通信ネットワーク	320
1550	画像表現研究	322
1560	データベース	324
1580	デザインシステム研究	326
1890	卒業制作	328

授業コード	授業科目名	ページ

教職に関する科目 …… 331

1640	美術教育法 I	332
1650	美術教育法 II	334
1660	美術教育法 III	336
1670	美術教育法 IV	338
1680	工芸教育法 I	340
1690	工芸教育法 II	342
1600	教育原理 I	344
1590	教師論	345
1610	教育原理 II	346
1620	教育心理学	347
1900	特別支援教育	348
1720	道徳教育の理論と方法	349
1910	総合的な学習の時間の指導法	351
1730	特別活動の理論と方法	352
1980	教育方法（ICT 活用を含む）	354
1740	生活指導の理論と方法	356
1750	教育相談論	358
1770	教育実習 I	360
1780	教育実習 II	361
1790 2100 2110	教育実践の理論と方法	362
2270	教育実践演習（中・高）	364
1800	介護等体験	366

造形文化科目

科目名	レポート入門 Ⅰ						
授業コード	2530	授業科目名	レポート入門 Ⅰ			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特にルールやマナーの理解に重点を置く。

【課題の概要】

○メディア授業課題
引用ルールを中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○メディア授業
・前期（5月～ 8月）、後期（10月～ 1月）の年 2 回開講。
・各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
・全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
　開講時期や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること。

（メディア授業の構成）
１回　レポートに取り組もう
２回　情報を集めよう
３回　資料を読み解こう
４回　問い掛けながら考えよう
５回　レポートを組み立てよう
６回　表現と表記を工夫しよう
７回　ルールとマナーを確認しよう
８回　仕上がりを追求しよう

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること

○備　　考
履修年次は問わない。いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	レポート入門 Ⅱ						
授業コード	2540	授業科目名	レポート入門 Ⅱ			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特に表現上のチェックポイントや文章の練り上げ方に重点を置く。

【課題の概要】

○面接授業課題
資料の読解と文章表現を中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○面接授業
１日目午前：大学におけるレポート、資料の探索ほか。
１日目午後：レポートの構成と文章表現ほか。
２日目午前：レポートのルールとマナーほか。

【成績評価の方法】

授業内レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー Ⅰ						
授業コード	0030	授業科目名	コンピュータリテラシー Ⅰ			担当者	清水恒平教授、須田拓也講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

コンピュータの使用が日常化し、通信教育の学習を進める上でもコンピュータやインターネットの利用が不可欠になりつつある。しかし、ただソフトウェアを使用しているだけでは、なかなかコンピュータの基本と知識についての正しい理解が難しいという側面もあるだろう。

この科目は、通信教育課程でコンピュータを利用していくことを念頭に置いた、コンピュータやインターネットの必要最低限の知識を学習する、導入的授業と位置づけられる。

面接授業ではコンピュータやインターネットの基本的な知識の講義と併せ、コンピュータでの作業の総合的トレーニングとして Web ページの制作を行う。その作業を通じ、コンピュータの基本的な知識の理解や一連の作業を体験することを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストエディタを使用し、HTML を記述することで Web ページを作成する。

【授業計画】

○面接授業
講義と実習を織りまぜて授業を行う。

第１日　全日： コンピュータ（ハードウェアとソフトウェア）の仕組み、インターネットの仕組みの解説／通信教育課程の Web サイト（https://cc.musabi.ac.jp/）の紹介／インターネットのセキュリティやマナー、Web ページ作成方法の解説（HTML の書き方、文字、色、画像についての説明を含む）、および Web ページの作成
第２日　午前： Web ページの作成（続き）　提出・講評

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。
特に日常あまりコンピュータに触れる機会がなく、「コンピュータ基礎Ⅰ」や学1課程は「情報システム基礎Ⅰ・ⅠⅠ」、学2課程は「デザイン基礎ⅠⅠA・ⅠⅠB」の履修を考える学生は、これらの科目以前に履修することが望ましい。
スクーリングで使用するコンピュータは、Machintosh を予定している。
導入的授業なのでコンピュータ操作が不馴れな学生へのサポートは適宜行うが、基本的な用語や操作は理解しておけば授業内容の理解が容易である。マウスやキーボードの操作に不安のある学生は、入門者向けの書籍を参考に操作の練習を行うなどし、理解した上で授業に臨むこと。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー Ⅱ						
授業コード	0040	授業科目名	コンピュータリテラシー Ⅱ			担当者	清水恒平教授、松本亜実講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）						

【授業の概要と目標】

この科目では課題作成や連絡に利用しているコンピューターやスマートフォンの利用を見直し、アプリケーション、サービスなどについて理解を深めることを目標とする。
Web利用時に利用しているアプリケーションやサービスの利用方法、提供される情報などについて、どのように提供されているのかどのように利用するとよりよい学習につながるか、などを、自分自身で調査し、図解により知識の定着をすることを目標とする。

【課題の概要】

課題1
「文章でコミュニケーションをとるツール」について自分の利用状況を振り返り、自分がデジタル上「文章でコミュニケーションをとっている」か、複数のツールの調査・報告する。
課題2-1は日常生活に密着している「検索」という行為を、どのように実施しているか、周囲の人々からリサーチを実施、その内容を報告する。
課題2-2では周囲の検索状況の調査から得られたポイントを活用し、Web上でよく求められる「許可」について、指定された3用語のうち1つを選択し調査、説明する。

【授業計画】

教科書『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局　2018年）を通読し、特に第7章「電子メールを使う」第8章「ウェブ（World Wide Web）を使う」第9章「情報護身術」の内容を理解したうえで課題に向かうこと。
自分のコンピューターやスマートフォンの利用や、周囲の利用方法に意識をむけ、調査内容などをよく考えてから、課題作成に向かうこと。
わかりやすいレイアウト、どのように説明すればよいかを自分なりに調査、学習し、取り組むこと。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。
インターネットに接続でき、Web ブラウザを使用できるコンピュータを所有するか、もしくは利用できること（OS は問わない）。

【教材等】

○教科書
佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー Ⅲ						
授業コード	2130	授業科目名	コンピュータリテラシー Ⅲ			担当者	清水恒平教授、小笠原幸介講師、古田裕講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「グラフィック系ソフトウェア入門」
コンピュータを利用する上で、ソフトウェアの操作の理解と同様に重要なのが、扱うデータの理解といえる。特に美術・デザイン系の大学においては、グラフィック系ソフトウェアの理解と、各種画像データやグラフィックデータの正しい理解は必須である。
この科目は、グラフィック系ソフトウェアを利用するための導入的授業という位置づけであり、代表的なソフトウェアの基本的な利用方法、および画像・グラフィックデータの扱い方などの理解を目的とする。

【課題の概要】

◯面接授業
Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用しながら簡単な画像、図形、テキストの作成を行い、最終的にＡ４サイズ１枚程度の印刷物を作成する。

【授業計画】

◯面接授業
第１日　全日
・Macintoshの基礎
・Adobe Photoshopの基本操作、ビットマップグラフィックス、画像の解像度と色情報、RGBカラーとCMYKカラーなどのについての講義と実習
・Adobe Illustratorの基本操作、ベクターグラフィックス、デジタルフォント、各種画像のファイル、フォーマットなどについての講義と実習

第２日　午前
・前日の講義内容を踏まえ、練習課題の制作

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
入学初年次での履修が望ましい。
特にデザイン情報学科の必修科目または推奨科目では、この科目で使用するソフトウェアを使用する機会が多く、画像データなどに関する知識も必要となるので、それらの科目以前に履修することが望ましい。スクーリングで使用するコンピュータは、Macintoshである。
MacOSの概説や、操作が不慣れな学生へのサポートは適宜行うが、マウスによる基本的なコンピュータの操作や文字入力等、最低限の操作は受講前に理解した上で授業に望むこと。
データバックアップ用のUSBメモリを用意しておくこと。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	カメラリテラシー						
授業コード	2140	授業科目名	カメラリテラシー			担当者	上原幸子教授、谷口泉講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

写真はデザイン系の学生に限らず、画像に記録することや資料として提示するなど、さまざまな局面で求められることがある。そのためカメラや写真の基礎的な知識は、多くの学生によって必要不可欠な要素である。その知識は、カメラが銀塩からデジタルに進化した現在でも、基本となるレンズの絞りとシャッター速度との関係、すなわち露出という問題が写真の基礎であり、デジタル写真になった現在でも不変と言える。

この科目では、表現としての写真技法ではなく、カメラの基礎的な知識や構造、レンズの特性などの講義を中心に、初歩的なカメラの使い方からその仕組み、レンズの効果など、写真表現の基礎となる技術的な知識の習得を主な目的としている。そして写真のほとんどがデジタルになっている現在では、当然その技術的な問題にも触れることになる。

科目の内容を理解し、その知識を写真表現に活かすことや記録という意味でデジタルアーカイブの質をより一層高めることを主な目的としている。

【課題の概要】

・カメラの種類と特性
・露出の原理
・レンズの絞りとシャッター速度による映像効果
・レンズの選択と映像効果
・デジタルカメラを正しく使うための知識
・デジタルデータを扱う知識

【授業計画】

○メディア授業
前期（５月～８月）、後期（10 月～１月）の年２回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること

（メディア授業の構成）
1 章　カメラを選ぶ
2 章　露出の原理と映像効果
3 章　露出を操る
4 章　レンズの役割とオートフォーカスの活用
5 章　絵づくりと色彩の設定
6 章　デジタルカメラの基本
7 章　デジタルイメージング概論1（RAW現像/カラーマネジメント）
8 章　デジタルイメージング概論2（フォトレタッチ基本/用紙選び）

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること。

○備　　考
履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

〇参考図書
谷口泉監修『林檎の秘密（DIGITAL）すぐに役立つデジタル写真の基礎知識』（リコーイメージング　2003年）
谷口泉著　『デジタル撮影の適正露出と色彩調整』（日本カメラ　2008年）
谷口泉著　『カメラマンのためのカラーマネージメント術』（翔泳社　2011年）
谷口泉著　『デジタルモノクロ撮影完全マスター』（学研　2014年）
谷口泉監修『写真を最高に仕上げるRAW現像と写真補正の基本』（MdN　2015年）
谷口泉著　『もっと撮りたくなる写真の便利帳』（MdN　2015年）
谷口泉著　『デジタルカメラ撮影講座　ふんいき辞典』（日経ナショナルジオグラフィック　2018年）

科目名	美術入門						
授業コード	2470	授業科目名	美術入門			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、美術領域の広さや表現する楽しさを知ることを目的とする。進行としては、創作に向かう基本的な姿勢や考え方、絵を描く上で考えることになる様々な造形表現などを含めながら、油絵学科の担当教員が順次に講義を行う。

【課題の概要】

講義内容をふまえ、造形の在り方や創作に向かう姿勢についての所管を記す修了テスト（レポート）を行う。

【授業計画】

○メディア授業
講義動画の構成
1章　世にも奇妙な絵の話（1）
2章　世にも奇妙な絵の話（2）
3章　世にも奇妙な絵の話（3）
4章　作品の誕生と成立過程 1
5章　作品の誕生と成立過程 2
6章　作品の誕生と成立過程 3
7章　東洋と西洋の違い 1
8章　東洋と西洋の違い 2
9章　様々な日本画家

前期（5月～8月）、後期（10 月～1月）の年2回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること。

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	デザイン入門						
授業コード	2480	授業科目名	デザイン入門			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、金子伸二教授、荻原剛教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、デザインの幅広い概念と領域、デザインの基本的な考え方や方法を理解し、また、現代デザインの動向などを学ぶことによって、視野を広げ、知識の吸収や創作意欲の向上につなげていくことを目的とする。日常生活の中で見過ごされがちなモノ・ヒト・コトを観察してデザインに結びつく問題を発見することや、誰もが持っている造形的な感覚と能力を自ら活性化させていくことの重要性を理解し、現代社会におけるデザインの役割や、新しい技術やメディアと結びついたデザインの可能性などについて考える。

授業は、デザイン系の専任教員他がオムニバス形式（交代リレー式）で行う。

この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授、清水恒平教授、荻原剛教授、福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する各担当教員がデザインの実務経験を基にデザインの分野を紐解く。

【課題の概要】

授業内容を踏まえた修了テスト

【授業計画】

○メディア授業
前期（5月～8月)、後期（10月～１月）の年２回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること。

（メディア授業の構成）
イントロダクション　デザイン入門について
１章　デザインの基礎体力①
２章　デザインの基礎体力②
３章　環境形成のデザイン―①
４章　環境形成のデザイン―②
５章　デザイン×テクノロジー①
６章　デザイン×テクノロジー②
７章　デザイン×プロジェクト①
８章　デザイン×プロジェクト②

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続できること。

○備　　考
デザイン総合コースの必修科目。
履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	文学						
授業コード	0050	授業科目名	文学			担当者	大石紗都子准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ここでは文学が言語芸術であることを認識することがまず要請される。一般的には、文学は隣接するジャンルである歴史や哲学や思想などと同じような内容と性質を持つものであるように思われがちだが、文学がそれら以上に言語による芸術表現であることを認識しながら、文学の大まかな輪郭や相貌を提供することが本科目の概要である。そこから文学という概念を知的に把握して、受講生みずからが主体的に文学作品に接して自分なりの深い文学体験を明瞭に自覚しつつ、その結果を客観的に報告できるようにすることを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
2 単位の通信授業であるので２回のレポートが課せられる。それぞれ教科書の内容に即した課題が主であるが、一方で個々の文学作品に接することが求められる。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
面接授業は行わない。まず教科書をよく読んで内容をよく理解した上で、みずから選んだ作品によって自分なりの文学経験を深めて、それを明瞭に自覚することが肝要となる。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
佐久間保明『文学の新教室』（ゆまに書房　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

教材以外の参考文献については上記図書の巻末を参照のこと。

【その他】

なし

科目名	歴史学						
授業コード	0060	授業科目名	歴史学			担当者	廖赤陽教授、金田真滋講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちが社会生活を送る上で、過去の歴史を学び、理解することは大切なことです。この科目では、特に現代の日本で生活する皆さんに是非とも知っていて欲しい、アジアの歴史を学習します。教科書や学習指導書、参考文献などを読んで基礎的な知識を身につけた上で、出題するレポートを自分の手でまとめることで、私たちの社会がどのような歴史を歩んできて、どのようにして現代の社会が作られてきたのかを学習しましょう。それにより現在の身の回りのできごとや状況への理解も深まるはずです。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の各章から、自分が関心を持った章を一つ選び、その内容をまとめよ。

○通信授業課題 2
自分と関係がある地域（現住所や出身地などの都道府県・市町村区・地区。またはそれに関連する出来事・文化・人物等）の歴史をまとめよ。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『もういちど読む 山川世界史 PLUS アジア編』
第 1 章　西アジアの古代文明
第 2 章　南・東南アジアの古代文明
第 3 章　東アジアの古代文明
第 4 章　イスラーム世界の成立
第 5 章　内陸・東アジア世界の成立
第 6 章　モンゴル帝国
第 7 章　明・清時代の東アジア
第 8 章　イスラーム諸国の興隆
第 9 章　イスラーム諸国の危機と改革
第 10 章　インド・東南アジアの植民地化
第 11 章　東アジアの開港と近代化の試み
第 12 章　帝国主義とアジア・アフリカ
第 13 章　第一次世界大戦と民族主義の新展開
第 14 章　第二次世界大戦とアジア
第 15 章　冷戦とアジア
第 16 章　グローバル化する世界

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

〇教科書
木村靖二、岸本美緒、小松久男＝編『もういちど読む 山川世界史 PLUS アジア編』（山川出版社　2022 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	哲学						
授業コード	0070	授業科目名	哲学			担当者	平岡紘准教授、大厩諒講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

哲学（フィロソフィア）と呼ばれる営みは、おおよそ紀元前六世紀から五世紀にかけて古代ギリシアで生まれました。フィロソフィアというギリシア語は、二つの部分からなる合成語で、「フィロ＝愛し求めること」、「ソフィア＝知」を意味します。哲学とは「知を愛し求めること」であり、そうして求められた結果としての「知」を意味するのではないということに留意してください。往々にして、哲学とは過去の人たちが考えてきたのことの集積であり、それゆえ、哲学を学ぶとは、そうした知識をできるだけたくさん覚えていくことであるかのように思われたりしますが、それは誤解です。

哲学という営みがいつ、どこで、どのようなものとしてはじまったのかを振り返ることで、哲学に対するこうしたありがちな誤解を取り除くことが、この科目の概要であり目標です。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書をもとに、「功利主義」と「カントの定言命法」を簡潔にまとめたうえで、「良い（善い）」、「悪い」についての論述を求める課題。

○通信授業課題 2
教科書をもとに、プラトンの「洞窟の比喩」を簡潔に説明したうえで、教科書の筆者が哲学という営みをどのようなものとして捉えようとしているかをまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
第 1 章「哲学とは何か」
第 2 章「精神の発見」
第 3 章「ソクラテスと自己の追求」
第 4 章「道徳的価値の探求」
第 5 章「神の存在」
第 6 章「現実とは何か」

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書をもとに出題する。
出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』富松保文訳（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

○参考書

ナイジェル・ウォーバートン『入門　哲学の名著』（ナカニシヤ出版　2005 年）
ウィル・バッキンガム『哲学大図鑑』（三省堂　2012 年）

科目名	社会学						
授業コード	0080	授業科目名	社会学			担当者	小幡正敏教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

現代社会のあり方と諸問題を、家族・労働・テクノロジー・グローバル化などの具体的な諸テーマにそくして考えてみる。また、近代社会の成立とともに社会学という学問が登場してきた理由や背景についても学ぶ。教科書に書いてあることを機械的に読んでレポートを書くのではなく、自分で調べること、自分で考えることが大切である。そのためには、新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集すること、書店や図書館や資料館に出向くこと、現場を歩いてみることなどが不可欠となる。好奇心の旺盛な人向き。

【課題の概要】

○通信授業課題１
教科書のいずれかの部から任意の１つの章を選び、そのテーマについて理解したことを具体例などをあげながら説明する。

○通信授業課題２
課題１で選んだテーマについて「コミュニケーション」という視点から考察を加える。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書のいずれかの部から任意の１つの章を選んで学習する
第１部：近代と社会学
　１　近代と新しい社会認識：近代社会の成立とマルクス
　２　近代との格闘：デュルケームとウェーバー
　３　近代の暗黒：戦争とトラウマ
第２部：社会の舞台
　１　近代家族の変容：親密性と私秘性の高まり
　２　連帯の変容と社会保障：福祉国家の解体と保険による生－政治
　３　労働と職場：フォーディズムからポストフォーディズムへ
第３部：社会学と現代
　１　テクノロジーと社会：鉄道・自動車・原発・メディア…
　２　新しい行為主体：子ども、老人、女性、障害者、クイア…
　３　グローバル化と現代社会：地域社会と生活空間の変容
補論
Doing Sociology：社会学をすること

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容および授業課題に準じた問題（記述式）を出す。
教科書を通読しておくことが望ましい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
橋本梁司・小幡正敏著『社会学のまなざし』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参照すべき事典類として『現代社会学事典』（弘文堂）、『福祉社会事典』（弘文堂）などを挙げておく。

科目名	経済学						
授業コード	0090	授業科目名	経済学			担当者	新堂精士講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

経済学を学ぶ意味はいくつかあるが、市民として経済学を学ぶ意味を考えるのなら以下の２つではなかろうか。第一に、現代社会において私達の社会に大きな影響を及ぼすと考えられる「格差・経済成長・デフレ・貧困・失業・貿易摩擦・エネルギー・環境」などの問題の解決には、経済学の知識が必須であること。第二に私達が日常行う様々な意思決定において経済学の考え方が役立つということである。この授業では主に後者、したがって経済学の考え方を学ぶことを目標とする。具体的には日本人の優れた経済学者である宇沢弘文先生が経済学の考え方について書かれた本あるいは過去の偉大な経済学者について森嶋通夫先生をはじめ日本の一流の学者が解説した本を読んでいくことで経済学に固有の考え方の習得を目指す。なお、過去の経済学者の考え方の単なる解釈を問題にしているわけではないことに注意してほしい。過去の経済学者の考え方が実際どうであったのかという観点はそれほど重要ではなくて、現代経済（学）の視点から見て過去の経済学者の評価できる点あるいは、彼らから学べる点を掴もうというのがこの科目の趣旨である。もう少し言えば、過去の経済学者を通して現代経済学の考え方の一部あるいはその思想的背景を学ぼうというのがこの科目の目的であることをしっかり認識して課題に取り組むこと。

○学習の到達目標
自身が選んだ経済学者あるいは学派の考え方のポイントをおおむね理解する。

【課題の概要】

○通信授業課題１
教科書１『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考書１『思想としての近代経済学』、参考書2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。

○通信授業課題２
教科書1『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考書１『思想としての近代経済学』、参考書2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。あたり前であるが課題1とは違う章・節を選ぶこと。

【授業計画】

教科書を使用する。
1.「経済学の考え方」の１章を読む
2.『経済学の考え方』の２章　アダムスミスの国富論
3.『経済学の考え方』の３章　リカードからマルクスへ
4.『経済学の考え方』の４章　近代経済学の誕生
5.『経済学の考え方』の５章　ソーンストン・ヴェブレン
6.『経済学の考え方』の６章　ケインズ経済学
7.『経済学の考え方』の７章　戦後の経済学
8.『経済学の考え方』の８章　ジョーン・ロビンソンの経済学
9.『経済学の考え方』の９章　反ケインズ経済学の流行
10.『経済学の考え方』の 10 章　現代経済学の展開
11.『経済学者はこう考えてきた』第一章　資本主義とは何か
12.『経済学者はこう考えてきた』第三章　教科書に馴染まなかった人たち
13.『経済学者はこう考えてきた』第四章　経済学者の思考法を比較する
・11 ～ 13 回についてはそれぞれ各１節を選んで学習してよい。

【成績評価の方法】

◎科目試験
科目試験。
科目試験は持ち込み不可の論述試験１から２問を基本とする。論述試験の内容は、教科書に出てくる経済学者あるいは教科書の１章を選んで、考え方を要約し、それに対する批判的な検討を加えて述べるというものである。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
1. 『経済学の考え方』　宇沢弘文　岩波新書　53　1989 年
2. 『経済学者はこう考えてきた』　根井雅弘　平凡社新書 893 2018年

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

・課題 1・2 共に教科書 1、2 に加え、参考書 1 、2から章を選んでもよい。
・教科書2『経済学者はこう考えてきた』からレポート課題を選ぶ場合は、「章」単位ではなく、個別の経済学者等について書かれた「節」を選んでもよい。なお、対象となる「章」は第1章（除く「疎外された労働」マルクス）、第3章、第4章とする（第2章、第5章も対象外とする）。さらに、レポート課題として第1章「有効需要の原理」（ケインズ）を選んだ場合は、もう一つの教科書『経済学の考え方』のⅣ章「ケインズ経済学」を必ず参照し、レポートの内容に生かすこと。
・参考書2 については 2章F・ブローデル、17章ピーター・ドラッカーは対象外である（18章ハーバート・サイモンは選択可能である）。
・ 2 章以上にわたって取り上げられた経済学者、例えば『思想としての近代経済学』のケインズやパレート等を一つの課題で取り上げてもよい。

○参考書
1.『思想としての近代経済学』森嶋通夫　岩波新書　321　1994 年
2.『世界を変えた経済学の名著』日本経済新聞社編　日経ビジネス文庫　2013 年

科目名	憲法						
授業コード	0100	授業科目名	憲法			担当者	志田陽子教授、川口かしみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この講座では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、憲法で保障されている事柄を学ぶ。（著作権法をはじめとする知的財産権の分野については、「著作権法」の講座で学ぶ）。

法学系の科目を学習するにあたっては、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、憲法上わたしたちに保障されたさまざまな「人権」や、民主的な政治システムと関連づけて考えることが必要となる。本講座では、具体的な社会問題について考えながら、「法の精神」を生かした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず憲法の全体像をつかむため、教科書の全体を通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。
レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。
課題条件の中には「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、これについてはインターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。
課題１・課題２とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。

○通信授業課題１
教科書と「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にする作業に力を入れてほしい。課題１では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを主な評価対象とする。

○通信授業課題２
課題１で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、課題１の添削指導や資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、重要な評価対象とする。

＊課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

まず教科書全体を読み、憲法の内容について総合的に学習する。このとき、憲法が誰に向けられた法か（憲法は国家に向けられた法である点で、他の法律と異なる）、「立憲主義」とはどのようなものか、なぜ憲法が「最高法規」なのか、といった基礎的な共通前提について、各自で把握しておいてほしい。
次に、学習指導書に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマについて、もう一度教科書の該当する章を注まで読み込む。教科書の注や参考文献一覧に挙がっている資料も参考にして、より詳しく学習した上で、自分の見解を述べよう。

【成績評価の方法】

◎科目試験
大まかな出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
志田陽子『表現者のための憲法入門　第二版』（武蔵野美術大学出版局　2024 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本講座での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	民俗学						
授業コード	0110	授業科目名	民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

わたしたちの生活には、古い時代の民俗文化を投影しているものが意外と多い。この科目は、ふだん見過ごしがちな奉納物、年中行事を注意深く観察することで、庶民信仰のあり方や何げなく行っている行事の意味を考えていこうとする。

課題で取り上げるような民俗文化は、表面上は新しい様式が主流になったように見えてもその根底には庶民の願いが流れていると考えられ、またある行事が変化するには変化の要因が必ずあると考えられる。そこで、ここではまずは民俗文化の様相に触れることを手初めとし、変容しつつも伝承される民俗文化を考えたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「寺社・小祠に寄進された奉納物を調査し、庶民信仰のあり方について考察せよ」
対象とする奉納物には、たとえば鳥居や玉垣、常夜燈、狛犬、絵馬などさまざまな種類があるが、これらの形態や銘文等の観察・記録をもとに、必要に応じてこのことを熟知する人に話を聞く。以上の調査を終えたうえで、文献や資料を参考とし、奉納する庶民の信仰のあり方を考察すること。

○通信授業課題 2「自分の住んでいる地方または自分の家の盆、あるいは正月行事を調査し、考察せよ」
盆あるいは正月行事についてできるだけ全体を見ることが望ましいが、そのなかの一部、例えば盆踊り、盆礼、小正月の行事などを重点的に取り上げてもよい。行事の変化（消滅・変容・創造）の様相を視野にいれた考察が望ましい。

どちらの課題にも調査対象のスケッチまたは写真を必ず添付すること。レポート本文を補充するような資料があればそれも添付すること。それらの添付資料には学籍番号、氏名を記入すること。
各自の参考文献、引用文献、調査年月日、場所、話を聞いた人の氏名・年齢などはレポートの最後に必ず明記すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
各課題は、現地での調査が前提となっている。ふだん見過ごしがちなこれらの調査対象を注意深く観察、調査のうえ、まとめあげるよう心掛けること。
また、具体的な事実と各自が行う解釈とは明確に区別して記述する必要がある。
それぞれの課題を調査し、まとめあげるには相当の日数が必要となる。1 つの課題が終了したら速やかに提出し、講評を受けること。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
宮本常一『民俗学への道』（未来社　1983 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	心理学						
授業コード	0120	授業科目名	心理学			担当者	荒川歩教授、浅井千絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

心理学と造形活動というのは、パラレルな２つの世界です。心理学も造形活動も、人(私)にとって世界がどのようにあるかを考え、私はなぜこのようにあるのかを考え、そしてどうすれば人に何かを伝えることができるのかについて考えるので、その意味で２つの領域の重なる部分は少なくありません。ところが、その方法がまるで違います。造形活動では、ある意味で現象学的に立ち現れている現実に対して葛藤して表現を行いますが、心理学は、還元論的に要素に分けて実験や調査を行い実証的に分析します。造形活動をしている人から見れば、造形活動が簡単に言葉にせずに大切に画面の中で表現していることを、心理学は簡単に言葉や数字に置き換えてしまって、それで扱える範囲で研究しているように見えるかもしれません。
この授業のテーマはパラレルワールドを知ることです。造形に関わる心理学の研究を例に、還元論的に要素に分けて実験や調査で得られた知見から見た、世界、人、造形活動について学ぶことを通して、自らの視点を改めて理解するとともに、心理学的な考え方もできるようになることを目指します。

【課題の概要】

以下課題1、2とも「論理的」な文章表現を重視する。
○通信授業課題1
教科書に基づいて、造形を下支えする心理的メカニズムについて分析する課題。
○通信授業課題2
教科書の各章、及び通信授業課題1の結果を参考に(あるいは応用) して、作品を心理学的に考察する課題。
*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

[通信授業]
教科書を使用。
教科書
第1章　ものを見るとはどういうことか：世界は色づいてなんていないのか！？
第2章　ぼくらの視覚のチューニング方法：世界の共有可能性について
第3章　脳は世界をどう再構成するか：人間は機械だってあなたはいうけれど
第4章　イメージはどこから来るのか：丸は四角よりも甘いのか
第5章　美的なバランスの起源：偏りはこの期に及んで何を語るのか
第6章　醜いけど美しい：わたしがこれを美しいというのを誰も思いとどめさせることはできない
第7章　絵やデザインのある風景：異次元への入口を探して
第8章　動物は造形をおこなうか：目の前のリンゴ、心の中のリンゴ、絵の中のリンゴ
第9章　ヒトが描く絵はどのように変化していくのか：痕跡は語る。様々な価値の時代を
第10章　絵には何が現われるか：タヌ吉悩む！？
第11章　創造性とはなにか：人はいつこの壁の向こう側に行けるのか

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当個所から出題(記述式)。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。

【教材等】

〇教科書
荒川歩『はじめての造形心理学－心理学、アートを訪ねる』(新曜社　2021年)
※初版には一部誤記があります。
2024年3月15日付Webキャンパスのお知らせ"「心理学」履修者へ”に正誤表を再アップロードしていますので、履修者は各自、ダウンロードしてください。なお、月刊誌3・4月号にも同じ正誤表を掲載します。
郵送希望の場合は、5月号以降の月刊誌に、請求方法を掲載します。

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』(武蔵野美術大学通信教育課程　2024年)

【その他】

なし

科目名	色彩学						
授業コード	0150	授業科目名	色彩学			担当者	江森敏夫講師、井上弘介講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

色彩学は英語では Science of Color といい、光学や生理学、心理学などの学問との関連が深く、“学際的”であるのが特徴である。学生の中には「色の勉強など必要ない。経験だけで十分だ」と考えている人がいるかもしれないが、「色とは何だろう？」という疑問に答えられる人はきわめて少ない。

本講では、この疑問に答えるのに必要なさまざまの知識を学ぶ。たとえば、「色は光である」、「色は目ではなく脳で見るものである」、「色は情報である」、「色は数式で表せる」、「色は感情を操る」等々。そのために教科書を精読し、4 つの課題に取り組んでもらう。そして、通学生なら教室で聞き流すところを自分の目と手足を使って確かめ、その成果を報告してもらう。これにより、色に対する理解が深まり、色による表現力が向上することを期待したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
色を記号や数値で表す表色系（ひょうしょくけい）について調べ、白から黒までの見た目に等間隔のグレースケールを作成する課題。

○通信授業課題 2
スーラによって編みだされた点描画法とテレビ画面等にも応用されている並置加法混色について研究し、自画像（顔）を描く課題。

○通信授業課題 3
色の対比と同化について教科書で学習し、この 2 つの現象を踏まえたブックカバーのデザインを行う課題。

○通信授業課題 4
色（赤や青など）の連想を調べ、教科書のデータと比較・検討する課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書のすべての章を学習する。
色の世界の成り立ち／色の表し方／混色の原理と応用／色の感覚的・知覚的作用／色の認知的・感情的作用／色の美的作用

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。但し、1・2 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
千々岩英彰『色彩学概説』（東京大学出版会　2001 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

各課題レポートの提出順序は特に定めない。

科目名	著作権法						
授業コード	0170	授業科目名	著作権法			担当者	志田陽子教授、比良友佳理講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この授業では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、とくに「表現」に関わる法律を具体的に学ぶ。この分野に属する法律は、憲法 21 条「表現の自由」とこれに関連する法律、また、著作権法をはじめとする知的財産権の分野の法律である。
法学の分野について学習するためには、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、わたしたちに保障されたさまざまな「権利」や、民主的な制度や理念（公共性）と関連づけて考えることが必要となる。本授業では、具体的な問題について考えながら、こうした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず教科書の全体を 1 度、通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。
レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。
課題の詳細については、学習指導書を必ず参照すること。また、課題条件の中には、「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、課題作成にあたって、インターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。
また、課題１・課題２とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。とくに本授業では、著作権法上の「引用のルール」を実践できているかどうかが大きな評価対象となる。

○通信授業課題 1
「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、必ず具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にすることを目標としてほしい。課題 1 では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを、主な評価対象とする。

○通信授業課題 2
課題１で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、添削指導、新たに読んだ資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、主な評価対象とする。

【授業計画】

まず、教科書全体を読み、対応する条文を参照しながら、「表現の自由」や「知的財産権」や「情報社会のルール」について総合的に学習する。この分野ではさまざまな法律が関連しあいながら登場するが、教科書を読み進めながら、今自分が学習している権利（問題）がどの法律で扱われている権利（問題）なのかを常に把握するように努めること。とくに憲法上の「人権」とそれ以外の多数の権利との区別、「憲法」と「著作権法」との区別をしっかり意識してほしい。
次に、学習指導書に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマと事例について、もう一度教科書の該当箇所と条文を読み、他の資料も参考にして、より詳しく学習する。課題条件にしたがった課題作成をつうじて、法学的な思考を実践する。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
志田陽子・比良友佳理『あたらしい表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本授業での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、各人で、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	音楽論						
授業コード	0180	授業科目名	音楽論			担当者	白石美雪教授、丸山洋司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

美術大学の学生にとって、音楽とはどのような存在であろうか。音楽を日々の生活の大切な友としている学生もいれば、あまり音楽に興味がない学生もいるだろう。「音楽論」の授業では、時代、国、ジャンルといった枠組みにとらわれることなく、「音楽とは何か」「声」「楽器」「音楽の伝え方」「音楽とパフォーマンス」「聴取とメディア」「音楽と想像力」「音楽を語る」「21 世紀における音楽の諸相」といった観点から音楽文化を広く見渡していく。
音楽に親しんでいる学生は、これまでとは異なる音楽への視点を得て、自らの音楽観を一層深みのあるものにしていっていただきたい。あまり音楽に馴染みのない学生については、本科目履修が、音楽の世界の探究を始める切っ掛けになることを願う。

【課題の概要】

○通信授業課題１～４
教科書を以下のように４つに分け、各部分を各回（全４回）の課題にあてる。
課題１　序章～第１章
課題２　第２章～第４章
課題３　第５章～第７章
課題４　第８章～終章
該当部分に記されている音楽家、楽曲、術語、内容などと関連づけて独自のテーマを設定し、論述する。

作成の上での留意点：
・テーマ設定の切っ掛けとなった教科書の部分（章や節など）をレポートの冒頭に記すこと。
・テーマと関連のある音・音楽を聴くこと。
・音楽体験についての詳細な報告を期すこと。
・本論の内容を簡潔に示すタイトルを考え、「課題」欄に記すこと。
・論考作成にあたって参照した音源、資料のデータを記すこと。

【授業計画】

序章
第１章「音楽とは何か」
第２章「声」
第３章「楽器」
第４章「音楽の伝え方」
第５章「音楽とパフォーマンス」
第６章「聴取とメディア」
第７章「音楽と想像力」
第８章「音楽を語る」
第９章「21 世紀における音楽の諸相」
おわりに（終章）

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容を理解した上で、独自の考察・探究を深めて臨んで欲しい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
白石美雪編『音楽論』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	数学						
授業コード	0130	授業科目名	数学			担当者	正井秀俊准教授、嶺山良介講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間の精神と文化は、有史以来、パターンを捉え、その基本法則や性質を探求する思考体系を発展させて来た。その思考体系のひとつである数学は抽象的なパターンの科学である。このような現代的な認識に立って、数学的な見方や考え方とその重要性を身近な題材や馴染み深い図形を通して明らかにしていく。教科書では、数のパターンに関する実用的な話題と、形のパターンに関しては、私たちの思い込みによって 2000 年以上もの間異なる見解を許容することができなかった幾何学の歴史を背景に、それまでの幾何学的な見方からの自立として生まれた新しい幾何学、さらに複雑な自然を捉えようとする現代的な幾何学のひとつを取りあげた。一方で、数学の言葉で語られる概念を理解するには、時には単調な基礎的訓練も必要である。Task（タスク）と呼ぶ実技を含む問題演習によって、テーマに関心を持ち、理解を深めることができるよう手引きした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 2、3（Chapter は章のこと）を中心に出題する。

○通信授業課題 2
下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 6、7 を中心に出題する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の Chapter 1、2、3、6、7 を使用する。
Chapter 1　パターンの科学
数学とは／クイック・トリップ／数学の言葉
Chapter 2　数当てゲームをしよう
マジック・カード／フロッピーディスクは原稿用紙で何枚分？／アルゴリズム
Chapter 3　いまさら電卓？
美のある秘密／電卓を見直そう／この先どうなるの？／フィボナッチ数列
Chapter 6　多角形と多面体
フラットランドのタイル職人／立体では／タイルやブロックを作ろう
Chapter 7　見方を変える
新しいアイディアが生まれた／ふたたび多面体／新しい幾何学

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の Chapter 1 を除く上記授業範囲を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
圓山憲子『もういちど数学を』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

数学を学ぶには、自ら手を動かし自ら問いを立て、積極的に考えることが大切です。その試行錯誤の中で、数学が持つ美しさを感じとり、面白さを発見されることを願っています。

科目名	生物学						
授業コード	0140	授業科目名	生物学			担当者	伊藤海講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「生物学」には、幅広い分野の学問が含まれている。高等学校理科教育の生物では、遺伝学、生理学、植物学などを網羅的に勉強する。本大学は美術大学である。そのため、この授業では、生物の体の「かたち」について学ぶ。生物学の中でも特に、解剖学と比較形態学に焦点をあてる。

ヒトと動物のからだのしくみを比べ、これらがどのようにして進化してきたかを学ぶことで、からだについての認識を深めることを目的とする。私達の祖先となる生物は基本的な構造を変化させることなく、わずかな改変を積み重ねることで、様々な生物へと進化した。我々もそのさまざまな生物の一種である。この授業で使用する教科書「ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト」では、魚類からヒトが誕生するまでの進化の経緯が解りやすく説明されている。自分のからだを教材にしながら、解剖学や形態学を通して、からだのかたちについての理解を深めてほしい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書 1 ～ 5 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

○通信授業課題 2
教科書 6 ～ 11 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

留意事項
教科書を含む引用を明記すること。
インターネットからの引用は不可。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書を使用する。
（1）内なる魚を見つける（2）手の進化の証拠を摑む（3）手の遺伝子のかくも深き由緒（4）いたるところ歯だらけ（5）少しずつやりくりしながら発展していく（6）完璧なボディプラン（7）体づくりの冒険（8）においのもとを質す（9）視覚はいかにして日の目を見たか（10）耳の起源をほじくってみる（11）すべての証拠が語ること
（ ）内は教科書の章を示す。

【成績評価の方法】

科目試験の評価による。
科目試験は教科書全般から出題する（記述方式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ニール・シュービン『ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト 最新科学が明らかにする人体進化 35億年の旅（ハヤカワ文庫 NF）』（早川書房　2013 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

〇推奨参考文献
遠藤秀紀『哺乳類の進化』（東京大学出版会）
日本進化学会『進化学事典』（共立出版）
『岩波 生物学辞典』（共立出版）

科目名	物理学						
授業コード	0190	授業科目名	物理学			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちの周りには、様々な興味深い自然現象があり、一見するとそれらがどうして起こるのか不思議に思うことが多くあります。なぜ空は青いのか、なぜ夕日は赤いのかなどの日常生活の中で感じる多くの疑問、さらには、物質は何でできているのかといった深く物事を考えることによって持つ疑問、それらの疑問に答えるのが物理学です。物理学は自然現象を記述する最も基本的な学問として発展してきました。物理学の魅力は少数の基本的な法則から驚くほど様々な現象が理解できることです。例えばニュートンの 3 つの基本法則はたった数行の文章または数式を使って書くことができますが、これによって太陽系の惑星の運動などあらゆる物体の運動を正確に予言することができます。

物理学は実験あるいは観測によってその正しさを確かめていく科学で、実験によって新しい発見があればそれを説明する理論が構築さて、さらにその理論が新しい現象を予言する。そして、実験がその予言が正しいかどうか確かめるといったように実験と理論がキャッチボールをするようにして発展していくのが物理学です。このような物理学の基本的な手法や考え方を理解することがこの科目の目標です。具体的には、ニュートンの法則、光や音の性質、電気と磁気などに関して学びます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
自分でできる簡単な物理実験を実際に行い、その内容と結果などについてレポートとしてまとめよ。

○通信授業課題 2
教科書の中で最も印象的だった物理現象を取り上げて説明せよ。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 9 講までを使用する。内容は
1. 物理学を学ぶことの特権
2. 物理学は測定できなければならない
3. 息をのむほど美しいニュートンの法則
4. 人間はどこまで深く潜ることができるか
5. 虹の彼方に
6. ビッグバンはどんな音がしたか
7. 電気の奇跡
8. 磁気のミステリー
9. エネルギー保存の法則

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

〇教科書
ウォルター・ルーウィン著　東江一紀訳　『これが物理学だ！』（文藝春秋　2012 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	自然科学概論						
授業コード	0200	授業科目名	自然科学概論			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間は大昔から夜空を眺めそこにある星や銀河の美しさや壮大さに感動し、宇宙はどうやって始まったのか、宇宙の果てはどうなっているのか、宇宙は将来どうなっていくのか、といったことを考えてきた。このように宇宙は身近でありながら深遠で謎めいたものとして私たちの好奇心を刺激してくれるものです。宇宙創世の理論は古代では神話として人間の想像力のみを用いて考えられてきましたが、ようやく 17 世紀になって望遠鏡を用いた観測が行われるようになり、宇宙は自然科学の対象として学問的に研究が行われるようになりました。近年における宇宙論の発展は目を見張るものがあり、誕生間もない時期から現在に至るまでの宇宙の進化が物理法則に基づいて理解されるようになってきました。

この科目では自然科学の中でもっとも古くから人々を魅了してきた宇宙論を学ぶことによって、自然科学の手法や考え方、科学的発見に至る科学者たちの努力を知ってほしい。具体的な内容は、宇宙膨張、宇宙を満たしている光である宇宙背景放射、宇宙の最初の 3 分間に起こる元素の合成などを学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を読んで宇宙マイクロ波輻射がどういうものか説明しなさい。

○通信授業課題 2
次の 2 つのうちから 1 つを選んで答えなさい。
1. 教科書を読んで、宇宙の最初の約 3 分間までに陽子と中性子からヘリウムが合成される過程を説明しなさい。
2. 宇宙膨張や初期宇宙で起こる現象について、疑問に思われることを取り上げ，それを自分なりに説明しなさい。

【授業計画】

○通信授業
教科書では以下の項目について説明しています。
1. 宇宙の膨張
2. 宇宙マイクロ波背景輻射
3. 熱い宇宙の処方
4. 最初の 3 分間
5. 最初の 100 分の 1 秒間
6. 1976 年以降の宇宙論

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ワインバーグ著　小尾信彌訳　『宇宙創成はじめの 3 分間』（筑摩書房　2008 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	英語 Ⅰ						
授業コード	0210	授業科目名	英語 Ⅰ			担当者	野口克洋教授、相原優子教授、トーマス・マイヤー教授、小澤智子教授、水谷明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の What is Art？（Oxford University Press）を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の P.4 ～ 17 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の P.18 ～ 29 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 章から第 3 章を使用する。
第 1 章　Looking and seeing
第 2 章　What’s art for?
第 3 章　Magic and making things happen

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
Rosemary Davidson, What is Art？（Oxford University Press）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）
『英語Ⅰ　［解説書］』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2002 年）

【その他】

なし

科目名	英語 Ⅱ						
授業コード	0220	授業科目名	英語 Ⅱ			担当者	野口克洋教授、相原優子教授、トーマス・マイヤー教授、小澤智子教授、水谷明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の What is Art？（Oxford University Press） を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の P.30 〜 49 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の P.50 〜 67 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 4 章から第 6 章を使用する。
第 4 章　Telling a story
第 5 章　Face to face
第 6 章　Body language

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
「英語 I 」の単位を修得していること。
ただし、編入学生で「英語 I 」に相当する学習歴を有する場合は履修できる。

○備　　考
なし

【教材等】

〇教科書
Rosemary Davidson, What is Art？（Oxford University Press）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年)
『英語Ⅱ　［解説書］』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2002 年）

【その他】

なし

科目名	フランス語初級						
授業コード	2160	授業科目名	フランス語初級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

初めてフランス語を学ぶ学生を対象に初級文法の習得と日常会話の練習を主な目的としたフランス語入門の授業です。教科書には『パリのミュゼでフランス語！』を使用します。芸術の都パリには、その名の通り数多くの美術館があります。世界的に有名なルーブルやオルセー美術館、ポンピドゥーセンター内の国立近代美術館、ピカソ美術館、クリュニー美術館、また生前の芸術家の住まいやアトリエを改造したロダン、モロー、ザッキンなどの個性的な美術館もあります。この授業は、そのようなパリの美術館紹介を通してフランス語を学べるようにという意図で開設されています。フランス語の発音とつづり字の読み方の基本から始めて文法の規則を少しづつ学び、同時に、実際にパリの美術館を訪れたときに役に立つ会話の練習をしていきます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の「フランス語の文字と発音」～ Leçon 5 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の Leçon 6 ～ Lecture の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
「フランス語の文字と発音」から Lecture までを使用します。
「フランス語の文字と発音」
Leçon 1 Le Musée du Louvre
Leçon 2 Le Musée d'Orsay
Leçon 3 Le Musée National de l'Orangerie
Leçon 4 Le Musée d'art moderne
Leçon 5 Le Musée de Cluny
Leçon 6 Le Musée Jacquemart-André
Leçon 7 Le Musée Gustave Moreau
Leçon 8 Le Musée du cinéma - Henri Langlois
Leçon 9 Le Musée Rodin
Leçon 10 Le Musée Picasso
Lecture Le Musée Zadkine

それぞれの課で該当する文法を最低１～２時間かけて予習してから取り組んでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に、本文、会話文の日本語訳や文法練習問題などから出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし ※2006 年度までに「フランス語Ｉ」の単位を修得している場合は履修できない。

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮・小幡一雄著『パリのミュゼでフランス語！』補助教材CD付（白水社　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年)
『フランス語初級「パリのミュゼでフランス語！」教科書解説書』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2007 年）

【その他】

○推薦辞書
『ディコ仏和辞典』（白水社　2003 年）
『クラウン仏和辞典』（三省堂　2015 年）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（欧文社　2010 年）

○推薦参考書
『CDエクスプレス　フランス語』筑紫文耀著（白水社）
『フランス語のABC』数江譲治著（白水社）
『仏検対策5級問題集』（白水社）

科目名	フランス語中級						
授業コード	2170	授業科目名	フランス語中級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「フランス語初級」の学習を終えた学生を対象に、初級文法の完成とフランス語で書かれたテキストの読解力を養うことを目的とした授業です。教科書は『星の王子さまの教科書』を使用します。『星の王子さま』が優れた文学作品であることは、誰もが承知のことと思いますが、その美しいフランス語のテキストは、同時にフランス語文法を学ぶ上で格好の教材なのです。基礎的なフランス語の文法事項は、ほとんど網羅されていると言ってよいでしょう。教科書は、『星の王子さま』のテキストの抜粋と、初級文法の教科書では学びきれなかった難度の高い文法事項の解説、そして練習問題から構成されています。教科書には、CD が付属されており、練習問題の中にも聞き取り問題がありますから、何度も繰り返し聞くことによって、フランス語の発音に対する感性も磨かれていくことでしょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
Leçon 1 ～ Leçon 5 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

○通信授業課題 2
Leçon 6 ～ Leçon 10 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
Leçon 1 から Leçon 10 までを学習します。
Leçon 1　bon と bien の比較・最上級　[avoir + 無冠詞名詞] の熟語表現／vouloir と pouvoir の直説法現在の活用／直説法複合過去
Leçon 2　直説法半過去　半過去と複合過去　dormir, partir, servir 型不規則動詞の活用／さまざまな否定表現
Leçon 3　直説法大過去／直説法単純過去
Leçon 4　指示代名詞／直説法単純未来
Leçon 5　条件法現在／中性代名詞
Leçon 6　接続法現在／所有代名詞　前置詞とともに用いられる疑問代名詞
Leçon 7　分詞節／接続法過去／接続法半過去
Leçon 8　接続法大過去／接続法を要求する表現のまとめ／命令法現在／複合時制における過去分詞
Leçon 9　直説法前未来／直接話法と間接話法
Leçon 10　直説法前過去／疑問代名詞および前置詞とともに用いられる関係代名詞

それぞれの課で該当する文法を最低１～２時間かけて予習してから取り組んでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の中から、本文テキストの日本語訳、文法問題およびその応用問題を出題します（聞き取り問題は含みません）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし（フランス語初級文法の知識を持っていること）

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮編註著『星の王子さまの教科書　中級フランス語文法読本』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年)

【その他】

○推薦辞書
『ロワイヤル仏和中辞典　第２版』（旺文社）
『新スタンダード仏和辞典』（大修館）
『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）

○推薦参考書
『仏検対策4級問題集』（白水社）
『仏検対策3級問題集』（白水社）

科目名	フランス語上級						
授業コード	2180	授業科目名	フランス語上級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

原文で美術関係の文献を読むことによって、フランス語の読解力を養うとともに 20 世紀美術界の大きな流れを理解する手がかりにしたいと思います。教科書は『マン・レイ「インタビュー」』を使用します。

この本は、Man Ray, Ce que je suis et autres textes （Paris, Hoebeke, 1998）から «L'interview de　camera» という章を抜粋し編集したものです。この教科書の中でマン・レイはあるときは皮肉っぽく、またある
ときはユーモアに富んでいて、まさに彼の作品を彷彿とさせるようなさまざまな表情を見せています。彼のことばに接することによって、私たちは 20 世紀美術という大きな流れの一端に触れることができるでしょう。文章はおおむね平易ですし、巻末には詳細な注が付けられていますから、フランス語の初級文法を習得した学生なら辞書を使って読み進めることができると思います。ともかく、一年間で一冊を読み上げてみましょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の p.5 〜 p.21 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の p.22 〜 p.39 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書本文全体 p.5 〜 p.39 までを使用します。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
「フランス語初級」（2006 年度以前では「フランス語Ⅰ」）の単位を修得していること。または、相当する学習歴を有すること。
※2006 年度までに「フランス語Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できない。

○備　　考
フランス語の初歩を学び終えた学生を対象にした上級クラスですから、辞書を使ってある程度フランス語の文章を読むことができる必要があります。
またフランス語に多少とも興味があり、原文で美術関係の文献に接してみたいというやる気を持った学生の履修を希望します。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮編注『マン・レイ「インタビュー」』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年)

【その他】

○推薦辞書
『ロワイヤル仏和中辞典』第2版（旺文社）
『新スタンダード仏和辞典』（大修館）
『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）
○推薦参考書
『パリのミュゼでフランス語！』（白水社　2002 年）
『仏検対策準2級問題集』（白水社）

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(フィットネス)					第1期:7月23日～7月25日 第2期:7月30日～8月1日 冬　期:12月15日～12月17日	
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現代社会においては、年齢やライフスタイル等を考慮した多層化・多様化した健康への取り組みが大変重要となってきている。この授業では、自己の健康を自主管理できる基礎知識を身につけ、各々のライフステージで健康で豊かな社会生活を実現するための幅広い知識と実践力を学習する。具体的には、身体組成・骨密度・体力測定などのデータを測定し、自分自身の身体の現状を理解し、実感と想像のズレについて追及する。それを踏まえた上で、身体運動の重要性とエクササイズ実施の方法について理解する。

【課題の概要】

○面接授業課題
自身の身体の内部(身体組成)と外部(体力)に対する機能の現状を理解するために、基礎代謝量、筋肉量、体脂肪率、骨密度などの計測と、各種体力テストを実施する。各データの点検・評価をもとに各自のコンディショニングと照合し、運動処方について考察する。

【授業計画】

○面接授業
この授業は実技授業を3日間受講する。実技の実践のほか、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の持参と学習後のショートレポートの提出を求める。
大学スポーツ施設において 3 日間の実技が行われる。
第 1 日　午前: 1. 前提講義 ／2. なぜ運動は大切か
第 1 日　午後: 3. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義／ 4. 身体組成の測定、体力測定①
第 2 日　午前: 1. 体力測定②／ 2. 体力測定の評価
第 2 日　午後:3. 健康と運動、「体力」とは何か／4. ペアトレーニング、バランストレーニング、器具を使わないトレーニング
第 3 日　午前:1. 骨格筋の構造と機能、トレーニングの原則／2. トレーニングマシンの使い方とトレーニングの記録
第 3 日　午後: 3. ストレッチポールを利用したエクササイズ ／4. まとめのレポート
※ペアや3～4人のグループでの活動が多く含まれます。
※音楽や太鼓など、大きな音を出して学修する場面があります。

【成績評価の方法】

年齢差を勘案した評価と現状の自己の認識度の評価を点検するためにいくつかの項目にわたってチェックを行う。その内容は、記述式と身体表現によって行う。面接授業は出席が成績評価の重要な要素である。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

補助教材として授業展開に応じて資料を配付する。

【その他】

資料:武蔵野美術大学身体運動文化研究室編
青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』(武蔵野美術大学出版局　2022 年)
この授業は実技授業を 3 日間 12 コマ(30 時間)受講する。実技の実践の他、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の義務づけと学習後のショートレポートの提出を求める。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(テニス)　　第1期:7月23日～7月25日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	青沼裕之教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

硬式のテニスのゲームは、サーブから始まり、グランド・ストローク(フォア、バック)、ボレー(フォア、バッグ)、ロブ、スマッシュ等の技術を駆使しておこなうものであり、プレイヤーは、打点やタイミングの習熟とともに、コースや高さの打ち分け、ゲームの駆け引きについて理解する必要がある。フォアハンドのグランド・ストローク 1 つをとっても、フラット、スピン、スライスの打ち分けがあり、これらをマスターするには、習熟への執着心とかなりの時間が必要である。
そこで、この授業では、ダブルスとシングルスのゲームにおいて、それぞれの技術(打ち方)がどういう場面で必要となるかを理解するとともに、練習の仕方を体験し理解することを目標とする。
また、この授業は、グループ学習によって、学生自身が授業へ自主的、計画的に参加することが前提となっている。教師からの一方的な伝達と指示によって技術習得がなされていくような授業ではなく、学生自らが技術を学び取っていく授業にしたい。技術学習の系統、練習方法、自己の技能やその向上過程についての認識を大事にし、そうした認識を自己の内にとどめず、交流し、互いに確認してほしい。

【課題の概要】

○面接授業課題
・テニスのゲームで必要となる技術(打ち方)とルールの理解
・グループで学習する練習方法の理解

【授業計画】

○面接授業
大学のテニスコートにおいて 3 日間の実技がおこなわれる。
第 1 日　午前:学習計画の確認、リーダー・係決定、グリップやコート等の説明、ボールを面でとら える練習
第 1 日　午後:ボールをスイートスポットでとらえる、いろんな高さのボールを打つ
第 2 日　午前:グランド・ストロークの打点とコースの打ち分け
第 2 日　午後:ボレー(フォアハンドとバックハンド)とサーブ
第 3 日　午前:ゲームで必要なルールと戦術の確認
第 3 日　午後:グループ対抗戦(ダブルス)とまとめ

【成績評価の方法】

テニスの技術の練習方法とゲームに関するルール、ポジション、戦術の理解度、及び授業出席状況をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

ラケット・ボールは大学で用意する。テニスシューズを用意してくること。
練習・ゲームでは、楽しき中にも知恵と工夫を盛り込んでほしい。
技術学習と関連させて、室内でテニスに関する講義を行う。
参考書、解説書は図書館に所蔵されているので、各人それを利用する。バリエーションある練習方法、技術・戦術等をそこから学ぶ。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(護身武術)　　第2期:7月30日～8月1日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	服部由季夫講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

武とは戈を止めるという意味で、武術とは身を護る術のことである。また、英語では martial arts と呼ばれ、そこでは美的センスも問われることもある。例えば空手の型や太極拳の表演などは美しさを競う場合が多い。
この授業では、参加される学生の性別や年齢、体力を鑑みながら、空手、合気道、太極拳、気功などを行い、護身の基礎を養い、武術の楽しさや難しさを味わうことを目標としている。合気道のようにお互いに技を練る武術もあるし、空手のようにミットを蹴ったりしながら鍛える武術もある。太極拳や気功などは、現在健康への指向が強い。それらを適宜行っていく。
従って老若男女の参加を歓迎する。なお、この授業における空手は、極真空手を中心とするフルコンタクト空手であるが、授業において相手に突き、蹴りを当てることはない。
なお、護身とは即ち身を守ることであり、単に技だけのことではない。病気等から身を守ることも護身である。そのようなことも適宜説明していく予定である。

【課題の概要】

○面接授業課題
・武術における身体運用の理解
・身を護ることと健康への理解

【授業計画】

[面接授業]
大学の卓球場にて 3 日間の実技が行われる。
第 1 日　午前:オリエンテーション、学習計画の確認、様々な武術の紹介、簡単な体ほぐし
第 1 日　午後:受身と歩法、簡単な技
第 2 日　午前:合気道の技
第 2 日　午後:空手の技
第 3 日　午前:太極拳や気功
第 3 日　午後:武術と護身、総括

【成績評価の方法】

技だけでなく、授業への取り組み方や、出席状況を勘案して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に適宜配布する。

【その他】

運動出来る服装、即ちジャージ等を持参すること。長ズボンが望ましい。
また軍手を持参すること。
ペアワークを行う。特に合気道では相手の手を掴んだり、相手に掴まれたりといった技の練習を行う。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ（バドミントン）　第1期：7月23日～7月25日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	森敏生教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

バドミントンはいろんな年齢やレベルで楽しむことができます。その共通の面白さは、軽いラケットと独特のフライト性能をもつシャトルを介してラリーのなかで相手と多彩な「駆け引き」（戦術）を展開することでしょう。ラケットワーク（ストローク）を磨き、様々なシャトルワーク（ハイクリア、スマッシュ、ドロップなど）が使えるようになることで、「駆け引き」を伴うラリーの面白さが深まっていきます。この授業ではダブルスのゲームを中心にバドミントンの面白さを探求していきます。

【課題の概要】

○面接授業課題
下記授業計画による。

【授業計画】

○面接授業
この授業は、大学スポーツ施設において実技を 3 日間 12 コマ（30 時間）受講する。
1. 受講登録とオリエンテーション／ねらい・計画と学習の進め方、バドミントンのゲームと基礎技術、アンケート
2. ストロークのテクニック（1） ドロップ・スマッシュ・ハイクリア
3. ストロークのテクニック（2） ヘアピン、アンダーハンド
4. ストロークのテクニック（3） バックハンド
5. 試合の戦術（1） サーブとサーブリターン
6. 試合の戦術（2） 前後のゆさぶり・スマッシュにつながる配球
7. ダブルスのフォーメーション（1） サイド・バイ・サイドのポジショニングとコンビネーション
8. ダブルスのフォーメーション（2） トップ・アンド・バックのポジショニングとコンビネーション
9. 練習ゲーム（審判、記録、ゲームの運営の方法）
10. グループ対抗戦 試合の作戦と運営法、ミーティング
11. まとめ（学習を総合的に講評、まとめのレポート）

【成績評価の方法】

定められた受講時間数の出席を要する。「駆け引き」を伴うラリーを味わえる「技能と認識」及びグループワークの取り組みを重視する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う（多数の場合抽選による）。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

①体育館シューズを用意する。
②適宜休息を取りながら進める。ミーティングやミニ講義など知的な学習時間を設ける。
③夏期は発汗も多い。水分を小まめにして熱中症の予防に努める。タオル・予備の T シャツなどを準備する。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ（バドミントン）　　冬　期：12月15日～12月17日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	浅井泰詞講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業ではバドミントンの初心者を対象とすることを想定し、バドミントンの基礎技術ならびにルール（シングルス・ダブルス）や用具の取り扱いを理解し、実戦的なゲームからバドミントンの楽しさや、スポーツを行う習慣などを見つめる機会とすることを授業の目標とする。
授業は男女混合・経験者初心者混合のペア、またはグループに分けて行い、コート用具等の準備・整理は学生が主体で行う。第1日目と第2日目は主に基礎技術の習得とミニゲームを行い、第2日目午後と第3日目はリーグ戦を行う。試合ごとにペアやグループを代えて、より多くの学生と交流する機会を持てるようにする。

【課題の概要】

○面接授業課題
・バドミントンの基礎技術、ゲームのルールや用具設置の理解と習得
・ペア、またはグループによる活動

【授業計画】

○面接授業
第1日　午前：オリエンテーション／授業の進め方、グループ作り、コートと用具の説明・準備、ラケット操作、ラリー
第1日　午後：基礎技術の習得（クリア・ドロップ・ヘアピン）／ミニゲーム
第2日　午前：基礎技術の習得（スマッシュ・サーブ）／ミニゲーム・ルールの理解
第2日　午後：ゲーム
第3日　午前：リーグ戦
第3日　午後：リーグ戦、総括

【成績評価の方法】

授業の出席率、集団的学習・運営能力を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　考
1年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち1科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う（多数の場合抽選による）。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動に適した服装（ジャージ等のスポーツウエア）を着用し、室内用シューズを準備すること。ラケット、シャトル等の用具は大学で準備するが、個人のラケットを使用したい場合は持参しても構いません。
また水分補給ができるように飲料水を持参しておくことが望ましい。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(ダンス)　　第2期:7月30日～8月1日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

スペインの南部、アンダルシア地方を発祥とする「フラメンコ」について学ぶクラスです。まず手始めに、セビリア民謡の「セビジャーナス」の踊りをマスターします。これはスペイン人の老若男女、誰もが踊れる最もポピュラーな踊りで、フラメンコの練習生はまずこの踊りから始めます。毎年 4 月の末に「フェリア」と言われる春祭りがあります。一週間、「カセタ」という沢山の大きなテントの中で皆セビジャーナスを踊り明かします。いつかスペインを訪れた時、その踊りの輪の中へ自然に溶け込んで一緒に踊れる様になりましょう。また、ヨーロッパに於けるスペインの歴史や、スペイン芸術の中に於ける「フラメンコ」や「ロマ」についての資料を配布します。好奇心とチャレンジ精神と、不思議だなと思う心を持って授業に参加して下さい。今までとは一味違ったスペイン感、フラメンコ感を持てると思います。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、踊る上で大事な知識をまず説明します。(基本的なリズム等)

【授業計画】

○面接授業
大学の剣道場に於いて 3 日間行います。
第 1 日　午前:学習計画の確認、グループ分け。基本の説明。(できればビデオ等も活用する)担当教師の手本の実演。
第 1 日　午後:「一番」「二番」の振り付け
第 2 日　午前:前日のおさらい。「三番」の振り付け。
第 2 日　午後:「四番」振り付け。講義。
第 3 日　午前:セビジャーナスの総仕上げ。
第 3 日　午後:「フィエスタ」を行う。その後、スペイン談義やフラメンコ論、ダンス論など大いに花を咲かせましょう。

【成績評価の方法】

出席を重視し、授業参加度も合わせて総合評価する。
まず絶対に出席する事。踊れる様になる事。「休まない、覚える、忘れない、楽しむ。」の精神でやりぬいて下さい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

とにかく汗をかきますから、上着は汗をよくとるTシャツ(替えがある方が良い)下はスパッツでもトレパンでも良いですが、女性は長めのフレアースカートがあれば尚良い。
必ずくつ下をはいて下さい。男性は革ぐつ、女性は中ヒールパンプスを用意して下さい。フラメンコ用に、裏の砂や泥をはらっておいてください(サンダル、ミュール、スニーカーは不可)。少し長めのタオル。
資料はプリントして配布します。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(ゴルフ)　　第2期:7月30日～8月1日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	鈴木タケル講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ゴルフは 500 年以上もの歴史を持つスポーツである。近年では、2016 年リオデジャネイロオリンピックから約 100 年ぶりに正式競技への復帰を果たし、人気の高いスポーツとして国内でもゴルフ人口は多い。本授業では、ゴルフとはどのようなスポーツであるかを理解し、プレーをする上で最低限必要なエチケット・マナー及びルールを学習するだけに留まらず、巧くプレーを行うための道具の知識やスイング動作の基本練習を行う。ゴルフは、イギリス生まれの紳士のスポーツとして知られているため、特にエチケット・マナーやルールについての理解も重視する。授業前半は、クラブの握り方やスイング動作の基本を学習し、授業後半では、グラウンドに仮設コースを設定し、スコアを記録しながらラウンドプレーの方法を学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題
・ゴルフの歴史と基礎知識
・ゴルフ用語と用具の知識
・ゴルフスイングの基本
・ラウンドの基本

【授業計画】

○面接授業
大学のグラウンドで実技を行う。
第 1 日　午前　学習計画の説明　基礎知識の説明
第 1 日　午後　グリップ・アドレス　小さいスイング
第 2 日　午前　前日の復習練習　　ハーフスイング
第 2 日　午後　フルスイング　　各クラブの練習
第 3 日　午前　パッティング　アプローチ
第 3 日　午後　ラウンドの方法

【成績評価の方法】

授業出席状況 60%、技術マナーに対する理解度 40%

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動着、運動靴(ゴルフシューズでなくてもよい)、ゴルフ用手袋の用意をすること。
ゴルフクラブ、ボール等については大学で用意する。
屋外での授業が中心となりますので、各自、暑さ対策をお願い致します。帽子や着替えの用意が必要です。
暑さ対策のためのファンウェア貸し出しや氷などは、大学で用意しています。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(エチュード)　　冬　期:12月15日～12月17日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

実技では「からだ造り」という点から「柔軟な筋肉」「しなやかなボディライン」「力強い動き」を持つ事を目指す。機具を使わず自分の骨格や筋肉で支える事が出来る様にして「コントロールする事」をからだに覚えさせる。「存在する肉体」という観点から、表現する事とは存在を証明する事とはどういうことかを、演劇、美術、音楽、文学等あらゆる芸術的手法と日常の所作等の手法を用いて「思考する身体」あるいは「心が宿る器」つまり「人間」そのものを追及する体験を実験的、前衛的な方法でやってみる。発想の転換が必要。自己の内面を意識する為の行為を体験してその結果「内なる他者」を見出し、対話し、真に個として確立された存在を造り上げて行く。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、課題を進めて行きます。

【授業計画】

○面接授業

【成績評価の方法】

出席、参加度を重視します。
まず絶対に出席する事。「楽しむ」の精神でやりぬいて下さい。授業への熱心な取り組みを望みます。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に演劇台本(「鹿鳴館」「天守物語」「マクベス」等)を配布する。授業終了後に返却のこと。

【その他】

“ダンス”“パフォーマンス”“演劇”という先入観を持たず、好奇心を持って臨んでください。
授業以外ではなるべく様々なジャンルの芸術に触れて、ボーダーレスな感性を培ってください。
授業の時必ずくつ下をはく事。必ず着替える事(特にジーンズ等体を締めつける服装は不可)。
長めのタオルを持参すること。アクセサリーははずすこと。体育館シューズ、バレエシューズ等を用意できない場合は、足裏にすべり止めのついた厚手のくつ下を使用すること。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(卓球)　　第1期:7月23日～7月25日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	浅井泰詞講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

卓球は年齢、性別に関わらず体力に応じて楽しむことができるスポーツです。木製の台の中央のネットをはさみ、ボールをラケットで打ち合い得点を競います。返球のための時間が短く、瞬時にボールのコースを読み、打ち返すなどすばやい判断力と敏捷性が求められるスポーツです。そして、実力と体力に合わせゲームを楽しむことでレクリエーショナルなスポーツとして生涯を通じて続けることができるスポーツでもあります。授業ではラケットの持ち方から、サービスの仕方、ボールへの回転の付け方など基本技術から地道に学び、ゲームを楽しみ、スポーツのある生活の意義を考えてもらいます。

【課題の概要】

○面接授業課題
・卓球の基本テクニックを学び、シングルス・ダブルスゲームを経験する。
・シングルス・ダブルスゲームを実力に合わせ楽しみ、スポーツのある生活の意義を考える。

【授業計画】

○面接授業
大学の卓球場にて、3 日間の実技を行う。
第 1 日
①チーム編成、用具の説明と具体的な授業の進め方の説明。
②ラケットの握り方(ペンホルダーグリップ、シェークハンドグリップ)。
③打法の習得　ショート打法(プッシュ、ストップ)、ロング打法(フォアハンド・バックハンド)、カット打法(フォアカット、バックハンド)。
④サービスの技法の習得(フォア、バック)
⑤ルールの習得(シングルス・ゲーム)
⑥サービスからラリーへの入り方の練習
⑦クロス・ラリーの練習と練習試合
⑧シングルスルールの学習と練習試合と審判実習
⑨戦術の研究と練習試合
第 2 日
①ゲームを中心にした授業へ移行
②ダブルスのローテーションの練習とルール(ダブルス・ゲーム)の学習
③戦術の研究
④チームワークの研究
⑤シングルスゲームとダブルスゲームによる練習試合
⑥チーム対抗試合の企画と運営
第 3 日
実力に合わせた対抗試合を楽しみ、卓球のテクニックを磨く

【成績評価の方法】

全授業の出席状況を基に、ゲームへの取り組み方、テクニックの上達など総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

運動に適した服装(ジャージ等のスポーツウエア)を着用し、室内用シューズを準備すること。ラケット、ボール等の用具は大学で準備するが、個人のラケットを使用したい場合は持参しても構いません。
また水分補給ができるように飲料水を持参しておくことが望ましい。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(武器術と護身)　　冬　期:12月15日～12月17日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	服部由季夫講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現代社会において、身を護る、即ち護身をある程度出来ることは、より安全に生活するために有益である。護身は狭義では暴漢などから身を護ることを意味するが、広く考えれば病気やストレスから身を護ることも包括され得る。従って、武術としての鍛錬を極めた余り、早死にしてしまうとなれば全く無意味であると考えられる。護身について、こうしたことを考えながら取り組むことは大切である。

そして、身を護ることにおいて、いくら鍛錬を重ねても、刃物などに対して素手で立ち向かうことは無謀である。武器があれば武器を使い、無ければ何らかのモノを利用して対抗すべきである。

この授業では、既存の武器の紹介と、使用方法、そして実践を通じて護身について検討を図っていくものである。また、護身について、様々な場面を想定した話もしていく予定でいる。参加される学生も、日常における不安や危険について考えながら、受講して頂くと有意義な時間になると思料する。

【課題の概要】

○面接授業課題
・様々な武器の使用方法への理解
・身を護ることと健康への理解
・日常に潜む危険の把握

【授業計画】

［面接授業］
大学の卓球場にて 3 日間の実技が行われる。
第 1 日　午前:オリエンテーション、学習計画の確認、様々な武器の紹介
　　簡単な体ほぐし
　　午後:空手で使われる武器の紹介
第 2 日　午前:トンファーの使用方法と実践
　　午後:サイ、ヌンチャク等の武器の使用と実践
第 3 日　午前:フィリピン武術のカリの使用と実践
　　午後:武器術と護身、美大生が考える武器、総括

【成績評価の方法】

技だけでなく、授業への取り組み方や、出席状況を勘案して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に適宜配布する。

【その他】

運動出来る服装、即ちジャージ等を持参すること。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と体力研究						
授業コード	0300	授業科目名	健康と体力研究			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

この授業は、通信授業として位置づけられているが、授業の内容からして理論と実践の統一こそが課題であり目標である。この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
交通、通信、宅配、インターネットなど、現代社会は便利なもので溢れている。「便利である」とはどういうことか？を考えた時、それは如何に身体を動かすことなく省力化した日常生活を送るかということとも捉えられる。
人類 10 万年の歴史において、おなかいっぱいに食べられるようになり、前述のような便利な社会が到来したのはごく最近のことである。私たちの祖先はアフリカ大陸からシベリアを経て日本列島に辿り着いた。こうした経緯から、日本人を含む東アジアの人々は欧米人に比べて食事によって得たエネルギーをできるだけため込もうとする、いわゆる“倹約遺伝子”が強く作用していると考えられている。日本においてもファストフードや食の欧米化は既に広く普及しており、現代社会に生きる私たちは「エネルギー摂取とエネルギー消費（インとアウト）のバランス」に注意を払う必要がある。食物の栄養素のバランスも勿論大切であるが、エネルギーのインとアウトのバランスを保つことは、身体運動が省力化された便利な現代社会では困難となっている。
この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【授業計画】

○通信授業
教科書の該当部分を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』（武蔵野美術大学出版局　2022 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

身体と運動、身体と健康、健康と環境、スポーツと健康、運動と健康等に関して、専門情報誌やマスメディア、インターネット等を利用して情報収集することが望ましい。

科目名	身体運動文化研究						
授業コード	0310	授業科目名	身体運動文化研究			担当者	青沼裕之教授、森敏生教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

私たちは様々な理由からスポーツを欲している。「健康やダイエットのため」「仲間との触れあいがほしい」「上達して気持ちよくプレーしたい」等々。しかし、日本の地域社会の現状は、スポーツを愛好する国民の要求を十分に満たしうるにはほど遠い。地域差もあるだろうが、スポーツをする時間、施設、指導者等の客観的な条件が整っていないところが多く、要求があっても活動するまでにいたらないという声をよく聞く。

そこで本講座では、スポーツの環境、国や自治体の政策、国民がスポーツを我がものとするための運動に視点を定めて、問題意識を深めるとともに上述した課題解決の方途を探ってみたい。

【課題の概要】

○通信授業課題
レポート課題の選定にあたっては、以下の点に注意してほしい。
・ 課題 A、課題 B のうち、どちらかを選んでレポートを作成すること。
・ 課題によっては複数のテーマの中から 1 つを選択することになっているので、その点注意すること。
・ テキストや参考文献については学習指導書に書かれているので、参照すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書や参考資料を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』（武蔵野美術大学出版局　2022 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	美術の歴史と鑑賞						
授業コード	2290	授業科目名	美術の歴史と鑑賞			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、杉浦幸子教授、林有維講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

学校の美術教育の現場では言語活動を中心とした鑑賞の授業の重要性が高まっている。また教育基本法や博物館法などの改正のなかで、美術館を含めた広範な場所で鑑賞教育の重要性もまた高まっている。

そこでこの授業では、美術科教員、学芸員または美術の社会的普及を目指す立場の者が、古代から現代までの世界の美術の歴史についての基本的な知識を得て、さらに子どもから大人まで誰にでも開かれた美術鑑賞を担うことを目標とする。その際、特定の時代や地域に限定せず、日本の伝統美術やアジアを含めた世界的な美術の交流について、深い知識と実践につながる構想を持つ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本・東洋・西洋を比較した美術の流れを考える課題。

○通信授業課題 2
鑑賞の意義と構想を論じる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
『美術　表現と鑑賞』のうち「鑑賞編」「資料編」「美術史年表」を中心に学習する。
『求められる美術教育』のうち第 1 章及び第 2 章 第 3 節「鑑賞の題材と教育方法」を使用する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書に記載された日本・東洋・西洋の美術の歴史を題材に、作品が作られた時代の物事の味方や考え方、作品を人に説明する際の基本的な流れについて出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
日本造形教育研究会監修『美術　表現と鑑賞－想いを形に―』（開隆堂出版）
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

教科書（『求められる美術教育』）に補遺（鑑賞事例）が追加されたため、学習の際は参考にすること。
補遺については、3月15日付Webキャンパスのお知らせ“「美術の歴史と鑑賞」履修者へ”を参照すること。
Webキャンパスを開けない学生は、事務局へ問い合わせること。

科目名	日本美術史						
授業コード	0320	授業科目名	日本美術史			担当者	玉蟲敏子教授、坂本明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

生活の中で根付き、育まれてきた日本の造形の歴史を学びます。まず絵画作品を中心に学習し、そこから更に、彫刻や工芸にも視野を広げてほしいと思います。

造形作品には常にそれぞれ固有の価値があると共に、製作者の存在や受容者の意識、社会的な機能・用途があり、更にそれを生み出した時代的、文化的な背景をめぐる問題があります。複数の視点から作品をじっくりみつめ、日本の造形文化を深く理解して頂きたいと思います。加えて学習の過程で感じた事柄などを生かし、受講者の視点がレポートなどの文中にも積極的に盛り込まれることを期待します。

【課題の概要】

○通信授業課題１
12 世紀のやまと絵の技法を伝える「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」の２点を比較し、文化的背景などに留意しながら、それぞれの表現上の特色を述べなさい。

○通信授業課題２
江戸時代の庶民文化の華とも称される浮世絵、その中から任意の一名を選び、作品を挙げて特質を論じなさい。なお肉筆画と版画の役割、技法、時代背景、国際交流などの観点を理解した上で課題を進めること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書は、第１章「生活の造形」、第２章「宗教の造形」、第３章「作家の造形」の項目順に掲載されています。教科書全体を熟読してまず流れを把握し、該当する作品を丁寧に鑑賞した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。
<第１部>　生活の造形
第１章　狩漁民族の造形　第２章　農耕民の造形　第３章　王族の造形　第４章　公家の造形
第５章　武家の造形　　第６章　町衆の造形　　第７章　民衆の造形
<第２部>　宗教の造形
第１章　原始信仰の造形　第２章　神道の造形　　第３章　顕教の造形　第４章　密教の造形
第５章　浄土教の造形　　第６章　禅の造形
<第３部>　作家の造形－美術家の系譜－
第１章　画家　　第２章　書家　　第３章　彫刻家と工藝家　第４章　茶匠と花匠

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は１～３年次に履修することが望ましい。

【教材等】

〇教科書
水尾比呂志著『日本造形史　用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

まずは教科書や関連図書の図版などを丁寧に鑑賞し、作品の特徴を感じ取りましょう。また各種展覧会にも足を運ぶなど、日頃から作品に触れる機会を積極的にもって下さい。作品に親しみ、日本美術の特質を広い視野からとらえて欲しいと思います。
また通信課題 1、2 は主に第 1 部と第 3 部に関連する内容となりますが、教科書全体を熟読して流れを把握した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。更に参考文献なども適宜参照し、課題に関する知識を深めましょう。

科目名	東洋美術史						
授業コード	0330	授業科目名	東洋美術史			担当者	稲葉秀朗講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

東洋とは、西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジア・東アジア地域を総じている。本授業では、西アジアを除くそれら諸地域の美術史を対象とする。課題 1 では、東洋（日本を除く）で生み出された美術作品を通して、美術史の研究方法を学ぶ。課題 2 は、課題 1 の応用である。東洋と日本を結ぶアジア的な視野に立ち、造形活動の交流と展開について理解を深めることを目標としている。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
①～⑥のテーマのうち いずれか一つを選択し、作品 3 点以上を取り上げて、美術史の流れを具体的に論じなさい。
① 仏像の発生及び初期仏像の様式変化について　―グプタ時代までのマトウラー仏とガンダーラ仏を中心に―
② アンコール期の寺院建築と浮彫彫刻について　―バンテアイ・スレイ、アンコール・ワット、バイヨンを中心に―
③ 北魏時代から唐時代までの仏像の様式変化について　―雲岡石窟と龍門石窟を中心に―
④ 統一新羅時代の仏教彫刻について　―仏国寺と石窟庵を中心に―
⑤ 五代～北宋時代の水墨山水画について　―李成・范寛・郭熙を中心に―
⑥ 元～明時代の青花について　―元・洪武・永楽を中心に―

○通信授業課題 2
東洋美術の作品の中から、任意に 1 点を選択し、美術史の視点に立って作品を考察せよ。さらに、その作品が日本美術に与えた影響について考察せよ。

＊課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書を使用する。課題 2 のテーマは、教科書の中から選ぶこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書から出題（論述・記述式）

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得を希望する者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

この授業は、受講者が学習指導書と教科書の序章に書かれている内容を理解していることを前提として成り立っている。したがって、学習方法及び課題の目的と考察方法を正しく、理解していないレポートは、採点の対象にならない。

科目名	西洋美術史 Ⅰ						
授業コード	0340	授業科目名	西洋美術史 Ⅰ			担当者	北澤洋子教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

西洋美術史は、古今の美術作品に触れ、様々な文化と造形表現、創造のありように対する理解を深めることを目的とする。この科目では、紀元前 4 千年紀から 15 世紀までの、古代・中世の美術史を取り扱う。四大文明、地中海文明の成立から古典古代様式という西洋美術の根幹となる規範の確立を経て、キリスト教や他民族の文化の融合によって西洋文明の伝統がいかにして形成されてゆくかを考える。特に、絵画や彫刻に加え建築や工芸の代表作に触れながら、形と意味、物の見方が歴史的にどのように継承されたり、移り変わったりしたのか理解することに努めることになろう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を踏まえて、エジプト、メソポタミア、ギリシャなどさまざまな地域で展開した古代美術の特性について考察する課題である。

○通信授業課題 2
教科書を踏まえて、中世美術の本質とその後代における継承のあり方について考察する課題である。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 章ならびに第 2 章を使用する。
1「古代」
1. エジプト美術／ 2. メソポタミア美術／ 3. エーゲ美術／ 4. 古代ギリシャ／5. エトルリアとローマの美術
2「中世」
1. 初期キリスト教時代／ 2. ビザンティン美術／ 3. 西欧中世初期／ 4. ロマネスク美術／5. ゴシック／ 6. 早期ルネサンスのイタリア絵画／ 7. 初期ネーデルラント絵画

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	西洋美術史 Ⅱ						
授業コード	0350	授業科目名	西洋美術史 Ⅱ			担当者	北澤洋子教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この授業では、西洋におけるルネサンスから現代に至る美術の歴史を学ぶ。具体的には、15 世紀から 20 世紀までのさまざまな芸術の潮流や運動の特徴について、作家や作品に即しながら理解することを目的とする。とはいえ、芸術を独立した現象として捉えるのではなく、それぞれの芸術様式が独立した時代背景を考慮しつつ、その社会的な役割についても理解を深めたい。また、単に教科書や参考文献で得られた知識を整理・羅列することで満足するのではなく、自分自身の眼で画集の図版や実際の作品をじっくりと鑑賞することによって、それらの知識に肉づけをしていくことをも重視する。いわば知性と感性の両面から、西洋美術の流れを多角的に理解することを目指したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書や参考書を踏まえて、特定の美術潮流とその時代背景について論述する。

○通信授業課題 2
受講者が実際に鑑賞した美術作品 1 点について記述を行なう。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の以下の該当部分を使用する。
第 3 章「近世」、第 4 章「近代」、第 5 章「現代」

【成績評価の方法】

◎科目試験
出題範囲は教科書の第 3 ～ 5 章とする（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

平素から近隣の美術館、展覧会等で多くの作品に接すること。

○参考書
教科書巻末（236 ～ 237 頁）の参考文献一覧を参照のこと。

インターネットで複製図版を参照するには下記のサイトが有用である。
Web Gallery of Art （http://www.wga.hu/）

科目名	建築史						
授業コード	0360	授業科目名	建築史			担当者	足立純子講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ヨーロッパを中心とした建築と都市の歴史を、古代から中世、さらには近世から初期近代にわたって通観する。建築の様式や変遷を単にたどるだけではなく、それぞれの時代に特有の社会や経済、そして文化を生み出してきた人類の歴史のなかで、建築や都市は、どのような役割を果たし、どのように変化と発展を遂げてきたかを、各時代において考察していく。そうした学習によって、建築における機能、構造、材料、美学などの時代による変化を理解し、それぞれの地域風土の差異によって生まれた建築様式の多彩な変貌と展開の跡をたどることを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書「序章」（建築史の概念）と「第 1 章　古代およびヨーロッパ建築周辺史」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 2
教科書「第 2 章　中世」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 3
教科書「第 3 章　ルネサンス以降のイタリア建築の展開」「第 4 章　イタリア以外のヨーロッパの近世建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 4
教科書「第 5 章　新古典主義と 19 世紀の建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書「序章」から「第 5 章」と、関連する参考文献・資料（学習指導書参照）を使用し、古代から 19 世紀までの建築史を読み進める。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書に準じて出題した科目試験の成績によって評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
谷口汎邦監修、吉田鋼市著『西洋建築史』（森北出版株式会社　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
課題、授業計画、参考文献の詳細は、学習指導書を参照のこと。

科目名	デザイン史						
授業コード	0370	授業科目名	デザイン史			担当者	木田拓也教授、敷田弘子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

産業革命以降の近代社会において、モノのデザインは人とどう関わることになったのか。いわゆる近代デザインの運動が新しい産業社会に対して様々なアプローチを試みる一方で、消費社会には膨大なモノが氾濫し、人々の欲望を喚起させてきた。単なるデザイナーやその作品の理解にとどまらない幅広いデザイン認識の中で 19 ～ 20 世紀という時代背景を理解しながら、デザインが人々の日常生活をどのように変えていったのかの歴史を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
モダン・デザインの運動を下記の選択群の中からひとつ取り上げ、モダン・デザインのプロジェクト全体が目指したものとの関連の中で論じなさい。
選択群：「アーツ・アンド・クラフツ」「アール・ヌーヴォー」「未来派」「デ・ステイル」「ドイツ工作連盟」「バウハウス」「アメリカのインダストリアル・デザイン」「ロシア・アヴァンギャルド」「アール・デコ」「ポストモダン」

○通信授業課題 2
モダン・デザインと深く関わる「人物」をひとり取り上げ、社会との関わりについて触れながら、その歴史的位置づけをまとめた上で、自分の視点から評価しなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
主に教科書を使用する。
序論 「デザイン史の現在」
1 章 -1 「近代デザインにむかって」
1 章 -2 「近代デザインの展開」
2 章 「グラフィックデザイン」
3 章 「エディトリアルデザイン」
4 章 「ファッションデザイン」
5 章 「クラフトデザイン」
6 章 「プロダクトデザイン」
7 章 「建築」
おわりに 「モダニズムの展望」

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

〇教科書
柏木博編『近代デザイン史』（武蔵野美術大学出版局）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考文献は、学習指導書の「参考資料」欄を見ること。

科目名	演劇史						
授業コード	2190	授業科目名	演劇史			担当者	安冨順講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

舞楽・能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃・落語…。日本では、それぞれ生まれた時代の違う各種の演劇芸能が変容を経ながらも今日なお滅びることなく、生き生きと上演されている。

この授業ではそうした日本の古典演劇・芸能の流れと、それぞれの特色を見ていく。演劇史の基本的な知識を身につけつつ、どうしてこれだけ多くの古典演劇（芸能）が日本に残っているのか、なぜ現代の我々がそれに魅力を感じるのか、といった問題を考えていただきたい。教科書の内容は通史的に展開しているが、単に知識を身につけるだけでなく、そこから自分なりの演劇史に関する考えを作り上げて欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の第 1 章から第 5 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。
タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

○通信授業課題 2
教科書の第 6 章から第 11 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。
タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『日本古典芸能史』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
今岡謙太郎『日本古典芸能史』（武蔵野美術大学出版局　2008 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

教材以外の主要参考文献は教科書末尾に一覧表を掲げるので、参照すること。

科目名	民芸論						
授業コード	0380	授業科目名	民芸論			担当者	玉蟲敏子教授、杉山享司講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

柳宗悦の民芸論が、どのような経緯で生れたかといったことを、先づ初期の柳の諸論文に当って考察し、次いで、柳が純粋美術から工芸へ関心を向けるきっかけになった朝鮮工芸の美を、日本民藝館などの美術館で鑑賞して、柳の工芸美との出会いを追体験していただく。その上で、日本の民衆的工芸品へ関心を向けてもらい、柳の言う民芸論とは何かについて、柳の論文と実際の物を照らし合わせて考察してもらうこととする。そして、これからの民芸の在り方や実生活との関わりについて、各自の理解と関心を深めてもらうことを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題１
「私的民芸論」という論文を提出して下さい。

○通信授業課題２
居住地域あるいは居住する近隣地域で、あなたが民芸と考える品物の製作現場を訪ねて、その仕事の調査を行い、現在の状況等々を報告して下さい。現場に関する写真を必ず添えて下さい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書以外の参考図書も最低二冊は熟読し、その上で通信課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
柳宗悦『民藝とは何か』（講談社学術文庫）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

○参考文献
『民芸大鑑（5 巻）』（筑摩書房）
『柳宗悦全集（22 巻）』（筑摩書房）
『柳宗悦コレクション「ひと」「もの」「こころ」（３巻）』（筑摩書房）
水尾比呂志『評伝柳宗悦』（筑摩書房）
水尾比呂志『日本造形史 ―用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局）
中見真理『柳宗悦』（岩波新書）
志賀直邦『民藝の歴史』（ちくま学芸文庫）
杉山享司監修『もっと知りたい　柳宗悦と民藝運動』（東京美術）

科目名	美術論						
授業コード	0390	授業科目名	美術論			担当者	村上博哉教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「美」とは何かという本質的な問いを軸として、古代から現代にいたるまでの美術の流れを巨視的に考察する。美術史学についての基本的理解を獲得することを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
1450年から1550年の間に制作された西洋の美術作品を一つ選び、その概要と美術史上の意義についてまとめなさい。

○通信授業課題 2
1870年から1970年の間に制作された西洋の美術作品を一つ選び、その概要と美術史上の意義についてまとめなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書および、各自のテーマに沿った参考文献を適宜、参照のこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書を中心に出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

積極的に美術館、博物館、ギャラリー等の展覧会に足を運び、古今東西の美術を体験してほしい。

科目名	現代芸術論						
授業コード	0400	授業科目名	現代芸術論			担当者	村上博哉教授、岡山理香講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「現代芸術」という言葉は、多くのことを意味しえますので、ここでは、20 世紀以降の視覚芸術全般を指すことにします。時代区分として、現代芸術を第二次世界大戦以降のものとするのは、アメリカ美術を中心とした考え方ですので、ここでは、モダン・アートもコンテンポラリー・アートも含みます。

しかし、全ての 20 世紀以降に制作されたものを現代芸術と呼ぶことはできるでしょうか。現代芸術の定義とは何でしょうか？　なかなか答えにくい問いですが、たとえば、ある作品を前にして、それを日常の延長として理解することが極めて難しいものほど現代芸術という範疇に属している可能性が高いと言えるでしょう。

さて、そうした現代芸術を同時代的な現象としてその日々の変化をリアルタイムに追うことはきわめて困難です。多くの作品を実際に見るに止まらず、雑誌、新聞、テレビ等のメディアをも調べなければなりません。その後に蓄積された膨大な量の情報は、理論という篩いにかけられて、はじめて理解可能となるのです。また、今日の芸術は、過去との連続として語られるものです。アクチュアルな問題を扱うには、今日までの芸術の歴史と理論を知る必要があります。

学生諸君が、21 世紀の芸術の制作／享受する者として、現代芸術の理論を作品とともに理解することをこの科目の目標とします。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
20 世紀芸術を概観しながら、芸術における「～主義（イズム）」とは何かを考えるため、一つの「主義（イズム）」を中心として、その派生と終焉／継続についてレポートにまとめる課題。

○通信授業課題 2
それまでの特権的に享受されていた芸術が「大衆化」することによってどのような変化を遂げたのかを考えるため、作品の分析研究に基づいてレポートをまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
像と視線―ポップアート以降のイメージについて　真剣な操作―『リアルな芸術』のありか　フェミニズムの芸術　アートと映像インスタレーション
日本の 20 世紀をめぐる視点　身体の裁縫術―ファッションと性　「デザインとは何か」を考えるために

【成績評価の方法】

◎科目試験
出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
「西洋美術史Ⅰ・Ⅱ」、「東洋美術史」とともに履修することが望ましい。

【教材等】

〇教科書
田中正之編『現代アート 10 講』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	工芸論						
授業コード	0410	授業科目名	工芸論			担当者	玉蟲敏子教授、長岡絵美子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

形（かたち）を生み出す行為は、工人の「技術（わざ、つくり）」と「意匠（かざり）」によって成り立っている。これに加えて「用」の観点がその行為を発する源にある。この授業科目では、このような前提をふまえ、日本の工芸史のうえで特筆されるべき事象について、更なる切り口で考察する。東西の造形的文化交流を視野に入れながら日本の工芸の特質を浮き彫りにしようとする意欲を期待したい。

また教科書では扱わない明治以降の工芸史については、いわゆる「人間国宝」という存在を通して学ぶことにより、現代における伝統工芸へのさまざまな問題意識を持って欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本の工芸のうち、海外との交流から影響を受けたと考えられる作品を選び詳述しなさい。

○通信授業課題 2
任意の重要無形文化財について述べなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書所収「学習の進め方」（必読）の項目で指摘したように、教科書『日本造形史』では、工芸を扱う箇所が様々な視点から折り畳むように扱われているので、そこを丁寧に読み解くこと。
①各人の参考とする美術全集、文献、図版などの選択を行いつつ、教科書の読解を行う。
第 1 部「生活の造形」
全 7 章で、造形史の基礎全般を学ぶ。
第 2 部「宗教の造形」
第 1 章（原始信仰の造形）、第 3 章（顕教の造形）、第 6 章（禅の造形）
ここでは工芸に関係する 3 つの章を学ぶ。
第 3 部「作家の造形」
第 3 章（彫刻家と工芸家）、第 4 章（茶匠と花匠）
ここでは工芸に関係する 2 つの章を学ぶ。
②通信教育課題での学び方
課題 1 では教科書と参考文献を利用してテーマを絞り、海外との比較を通して日本の造形を学ぶ。
課題 2 では人間国宝を学び、身近にあるわざの伝承を調査し、認識する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
科目試験には、教科書の内容、及び課題 1、2 に関連した問題を複数問、記述式で出題する。少なくとも教科書に掲載される工芸の図版（カラー、白黒とも）についての説明はできるように学習しておくこと。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
水尾比呂志『日本造形史　用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

身の回りの工芸品から博物館などで見られる工芸品まで、常にその世界に触れることを心掛けよう。

科目名	映像文化論						
授業コード	0440	授業科目名	映像文化論			担当者	林司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

今日は映像化社会といわれるが、その「映像」技術の原点は、いまから約 180 年前に発明された写真である。写真術の出現は、人々の知識や経験の共有を豊かにし、社会の近代化を加速するとともに、映画を始めさらなる映像技術の開発を促した。また映像メディアの実用化は、造形表現、視覚認識の方法、そして技術的学問的な面での方法論に、 大きな変革をもたらした。本講ではそれらの変遷に関心を払い、写真の歴史を軸として「映像」の関与という観点からの文化論を展開する。

【課題の概要】

4 単位の学習成果をあげるために、4 回の通信課題を提出する。
教科書の消化を前提とした上で、各学生のこれまでの映像体験を照らし合わせ、きわめて身近なテーマを分析、考察する段階から始める。回を重ねるごとに、各人が映像文明についての洞察的姿勢を獲得していくことを望む。なお、web・郵送ともに、レポート文字数の中に参考資料・参考 URL 等の注釈は含まない。

○通信授業課題 1
「写真」とは何かを、自身の体験をもとに述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 2
写真の発明と発達が、社会に及ぼした影響を写真の歴史をふまえて考察しなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 3
芸術としての写真について、19 世紀半ば以降の写真の歴史をもとに考えるところを述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 4
デジタル技術やネット社会におけるデジタル写真の利点と問題点を述べ、デジタル写真ならではの作品を制作している写真家の例をあげなさい。図版、写真等 1 ～ 3 枚まで添付のこと。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
序「写真史」を学ぶことについて―写真と現代生活の関係を捉え直す
1. 写真前史―その知識伝統の系譜
2. 写真術の誕生―発明者達
3. 写真活用の第一歩―旅行・調査・記録
4. 肖像写真と新しい社会―市民社会の息吹を受けて
5. メディアとしての写真の台頭―社会の実相を映す鏡
6. 新しい芸術思潮と写真―両大戦間の前衛芸術の興隆
7. グラフジャーナリズムの時代―雑誌文化と市民社会
8. 芸術行為としての写真の始動―ドキュメンタリー写真の新たな意味
9. 映像化社会におけるアイデンティティー―現代芸術に見る写真の応用
10. 転換期の写真表現と未来への展望―デジタル写真技術の可能性と視覚伝達の文化

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
平木収『映像文化論』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

写真を中心として映像全般を鑑賞する機会を大切にすること。
美術館やギャラリー等の展覧会に足を運んだり、写真集や雑誌、Web などを活用して、様々な写真に触れて“見る目”を養うこと。

科目名	デザインマネージメント						
授業コード	0450	授業科目名	デザインマネージメント			担当者	荻原剛教授、渡辺衆講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

デザインは単なる造形行為ではなく、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる知識を人間性、社会性、芸術性の基に統合して問題を発見し、課題を構築し、総合的に解決する活動である。デザインマネジメントはその目標の実現に向けて、デザインの機能、能力、組織を有効に発揮させるための経営管理である。急激に進展する情報社会の中で、デザインマネジメントに対する要求はより高度化、複合化しており、他分野とのコラボレーションはますます重要になって来ている。デザインマネジメントを学ぶには、デザインを理解していることが前提であると考え、デザインの歴史的考察からはじめ、豊かで持続可能な生活環境の形成に向けて、今後のデザイン／デザインマネジメントはどのように活動して行くべきかを考察する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
道具は人々の生活にとって欠かす事ができない。使用場面における問題や要求を明示し、それを大胆に解決する新しい道具（機器、装置）のデザインを提案すること。なお教科書の「3.5デザインの評価」を参考に提案を自己評価すること。企画意図、使用シナリオやシーンをスケッチや図面と併せて1600 字程度のレポートとして A4 サイズ 4 ～ 6 枚に美的にまとめる。

○通信授業課題 2
「コンビニエンスストアのデザイン提案」
次の 1）から 5）の項目から 1 つ選び、現地調査の上、ビジネスとしての将来性、文化性、社会性などの視点からの論評と大胆で具体的なデザインを提案すること。「求められるデザインマネジメントの活動姿勢」から適切と思われる姿勢を反映した提案とする。必ず現地・実態調査をすること。また、その調査を基にして顧客特性（性別、年代、職業、ライフスタイル、ニーズ特性など）を示すこと。調査と提案は、地図、写真、スケッチ、図面、概念図などの視覚的な説明資料を使って説明すること。2000 字程度のレポートとして A4 サイズ4 ～ 6 枚に美的にまとめる。
1） コーポレートアイデンティティ：シンボルやロゴマーク・コーポレートカラーなどの企業姿勢を可視化する表現、イメージキャラクタ・包装紙・サイン・店舗イメージカラー・従業員のユニホームなどのデザイン展開
2）宣伝戦略：宣伝ポリシー、宣伝メディア（ちらし・CM・カタログ）、イベント企画など
3）商品戦略：商品品揃え、商品特性、デザイン傾向、新サービスの導入など
4）流通：価格政策、受注や支払い方法、流通方法など
5）売り場、店舗デザイン：展示特性、売り場レイアウト、商品の取り扱いなど

○通信授業課題 3
高度情報化時代を迎え、これからもますます人間疎外の進行が予測される。そこで、デザイナーの視点から、ICT を活用したサービスビジネスの提案をすること。とくにバーチャルとリアルの両視点の特徴を活かした提案を期待する。
提案にあたっては社会課題の理解やターゲットユーザの気持ちの把握など、「情報の収集と理解」に意識的に取り組んでほしい。どうしたらアイデアの発想に必要な情報が手に入り、技術的にも妥当な提案になるのか。身近にいる専門家やうまく使っている人から意見を吸収することも有効かもしれないし、ターゲットユーザに近しい人を見つけてインタビューすることも良いかもしれない。発想したアイデアを他者に披露しながらより良くしていくことも一種の情報収集と言えるでしょう。情報収集を計画的に試行錯誤すること自体をマネジメントと捉え、学生らしく夢のある楽しい提案を期待している。

○通信授業課題 4
あなたは、ある大手老舗酒造メーカーの社員であり、これから発売が予定されている、ある新しい日本酒の販売企画の総責任者でもある。この新製品は、これまであまり日本酒に親しみのなかった若い女性をターゲットとしている。教科書「5.1.5 情報的価値を付加してゆくデザイン」を参考にしながら、あなたであれば、商品ネーミングや容器デザイン、広告、宣伝、流通ディスプレイ、営業の販促ツール作成など、どのようにしてこの新製品を計画し、展開するでしょうか。様々な人々が関係し、多種多様なツールが生み出される営業施策であることを想定しながら、一貫したメッセージを生み出すことをマネジメントの視点で考案してほしい。
A4サイズ用紙4～6枚で（視覚的説明資料含む）具体的に論ずること。ただし、日本酒の味、容量などは、ターゲットを想定して、自由に考えてよいものとする。言葉だけでは説明しにくいと思われるものに関しては、ラフデザインなど、視覚的な説明資料を添付すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
（教科書から）
1. 人間とデザイン。
2. 近代デザインの展開、企業とデザインの関わり。
3. 企業経営とデザインマネジメント。
4. 企業におけるデザイン実務とそのデザインマネジメント。
5. 情報化社会とデザインマネジメント。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
坂下清、鶴田剛司、竹末俊昭、佐藤典司『デザインマネジメント』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	アートマネージメント						
授業コード	0460	授業科目名	アートマネージメント			担当者	新見隆教授、河原啓子講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

ここで学習する「アートマネージメント」のアートとは「美術」を基本としたマネージメント講座である。そのアートの範疇は、絵画・彫刻・版画・写真・映像・インスタレーション・デザイン等を含む視覚芸術とする。

アートは、社会の様々な人々のサポートによって世の中に発信され、受信者としての鑑賞者や収集家がいて、はじめて芸術として成立するものである。人々がアートに接することで、アートは市民社会の中に機能する。その意味においてアートは創り手と受け手の協働作業でもある。

アートマネージメントとは、アートと社会の橋渡しとして、展覧会やアートプロジェクト、アートイベントを企画制作することを最終目標とするが、アートの現場、例えば美術館・画廊等に接することが重要となる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「アートマネージメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 2
「美術館のマネージメント」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 3
「地域社会におけるアートマネージメント」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 4
「アートプロジェクトのプランニング（企画）」をレポートにして提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
事前に予習しておく内容・時間
第一課題　教科書を参照しレポート作成に反映させてください。2時間
第二課題　対象の美術館のホームページを参照してください。2時間
第三課題　対象地域の芸術文化活動を調査し、レポートに反映させてください。2時間
第四課題　各地の展覧会、アートイベント、ワークショップを参照して、オリジナルな企画書を作成し、実施可能なところまでブラッシュアップしてください。5時間

【成績評価の方法】

レポート提出により評価する。成績評価基準は、独自性の高い私見や視点を高く評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

〇教科書
新見隆ほか『アートマネージメントを学ぶ』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

自分の住む地域の博物館・美術館・画廊・寺院の宝物殿等を訪れ、鑑賞体験を積極的に行う。地域の芸術文化活動にアートボランティアとして参加し、アートの現場を体験することも重要である。

科目名	情報社会倫理論						
授業コード	0470	授業科目名	情報社会倫理論			担当者	上田卓司講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

情報化に伴う社会問題と可能性を概観し、著作権等の知的財産権、プライバシー保護、セキュリティ管理等を含む今日に不可欠な倫理や社会的ルールのあり方と動向について講義する。特に、美術・デザインとの関連を踏まえ、今日の情報社会のあり方と倫理を追求する。

【課題の概要】

〇メディア授業課題
授業内容を踏まえ、情報に関する倫理観の問題と今後のあり方、情報社会と個人との関係について論述を行う。

【授業計画】

〇メディア授業
・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
・授業の2日前までにwebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングURLを送付する。
・開講予定については「面接授業［スクーリング］日程表 メディア授業［リアルタイム］日程表」を参照すること。
・3日間全ての出席が必要。

（メディア授業の構成）
第１日目　情報化社会の現状と情報倫理/情報セキュリティと人間行動
第２日目　著作権・知的財産権と創作/情報の受容と発信について
第３日目　個人情報の保護とプライバシー

【成績評価の方法】

授業内で提出した課題による評価。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1年次～

〇履修条件
インターネット接続環境があり、本学Webキャンパスに接続できること。

〇備　　考
・履修年次は問わない。
・授業内ではコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。文書の保存、ファイル操作、ブラウザやメールソフトなどの基本ソフトが扱えること。
・操作に不安のある学生は事前に練習を行い、授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要である。
・ZoomはWebブラウザで利用できるオンラインツールである。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても良い。その場合は、最新バージョンを使用すること。

【教材等】

なし

【その他】

参考文献：授業内で知らせる。

科目名	情報職業論						
授業コード	0480	授業科目名	情報職業論			担当者	坂口和敏講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

インターネット、スマートフォン、SNSに代表される情報通信技術の進化により、私たちの生活は大きく変化してきた。情報社会（Society4.0）は従来の対面型コミュニケーションから時間や場所に依存せずに個と個がつながる新しい体験を可能にした。
我が国が目指すべき未来社会の姿として、内閣府はSociety5.0を掲げている。具体的にはサイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会の実現を目指している。
本講義では人間中心設計やサービスデザインの手法を学び、Society5.0が求められる社会背景を考察した上で人を中心とした社会の新たな価値を描くことを目的とする。具体的なテーマに沿って各自PCでオンラインツールを使って調査、分析、提案を行うアクティブラーニング形式で行う。

【課題の概要】

◯メディア授業課題
以下のテーマから各自1つを選択する。テーマに対する課題発見を行った上で課題解決の提案を作成する。
1.医療・介護
2.ものづくり
3.農業
4.食品
5.防災
6.エネルギー
※ 一部、状況に応じて変更する場合がある。

【授業計画】

◯メディア授業
・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
・授業の2日前までにwebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングURLを送付する。
・開講予定については「面接授業［スクーリング］日程表 メディア授業［リアルタイム］日程表」を参照すること。
・3日間全ての出席が必要。

（メディア授業の構成）
第1日（問いのデザイン）
　・オリエンテーション
　・デザイン手法について
　・デザインワーク
第2日（解決策のデザイン）
　・オリエンテーション
　・人間中心設計について
　・サービスデザインについて
　・デザイン手法について
　・デザインワーク
第3日
　・オリエンテーション
　・デザインワーク（プレゼンテーション準備）
　・相互評価
　・上位者によるプレゼンテーション
※ 一部、状況に応じて変更する場合がある。

【成績評価の方法】

授業内で提出した課題による評価。
時間内に課題が提出できない場合は欠格とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1年次～

〇履修条件
インターネット接続環境があり、本学Webキャンパスに接続できること。

〇備　　考
・履修年次は問わない。
・授業内ではコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。文書の保存、ファイル操作、ブラウザやメールソフトなどの基本ソフトが扱えること。
・操作に不安のある学生は事前に練習を行い、授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要である。
・ZoomはWebブラウザで利用できるオンラインツールである。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても良い。その場合は、最新バージョンを使用すること。
・演習では以下のオンラインツールを使用する。
・Webブラウザ
・slack（チャットツール）
・Miro（オンラインホワイトボード）
・Googleスライド（プレゼンテーション）
授業では上記ツールの簡単な使い方の説明は行うが、PCの基本操作（テキスト入力、マウス操作、ファイル移動など）の説明は行わない。Miroはアプリケーションを事前にインストールすること。
・各オンラインツールへは授業の1週間前までに大学より招待メールを送付する予定である。必ず事前にWebキャンパスにアドレスを登録すること。また、Googleスライド（プレゼンテーション）を使用するためにGoogleアカウントが必要となるので、WebキャンパスにはGmailを登録すること。

【教材等】

事前課題として以下参考資料を読んだ上で参加すること。

・サービスデザイン実践ガイドブック（内閣官房IT総合戦略室）
https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/guidebook_servicedesign.pdf

・Society5.0資料（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf

【その他】

本講義で学ぶ「情報職業」は情報技術の活用による企業活動を想定している。実在の社会における事業／ビジネスをテーマとして取り上げ、情報技術のデザインスキル定着が目的である。
そのため講義スタイルではなく、アクティブラーニング形式のデザインワークで行う。デザインワークを通して潜在ニーズを理解し、どのような価値提案を行っていくかを評価のポイントとする。

科目名	演劇空間論						
授業コード	0490	授業科目名	演劇空間論			担当者	荻原剛教授、吉村朋果講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

古代ギリシャを源流とする演劇の流れと、それを上演・観賞する劇場空間の関係を、美術的視点から比較検討して、演劇及び演出された空間の特質を考察する。それによって、非日常的な祝祭空間への理解と認識を深めることになり、空間における演出の役割、造形的演出の具体的な手法、舞台美術や舞台照明・映像等の概要も把握してもらう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「生活の中の祝祭性について考察する」
日常生活の中でメモリアルな行事や慣習を通して祝祭の役割を考える。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 2「劇場―演ずるための場について考察する」
身近にある劇場・ホールが日常の生活とどのように結びついているか考える。
あるいは実演や祭事の実例を挙げて生活の中での役割について考察する。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 3「舞台や都市空間における光の演出効果を考察する」
自然光や人工照明は、その使い方によって日常的な風景や事物に新たなイメージを表出する。その具体的事例と効果について説明する。レポート 1200 字以上、1500 字程度及びスケッチ又は写真を添付する。

○通信授業課題 4「実際に観た舞台や芸能、映画・TV、動画の作品の空間と演出について考察する」
単なる作品批評ではなく、その成立背景やテーマを浮き彫りにする演出手法などを説明する。レポート1200 字以上、1500 字程度。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。
＊なお、レポート作成にあたっては、自己体験から生まれる考えや思いを起点に分析的な考察を行い、論の展開を図ってほしい。

【授業計画】

○通信授業
教科書の目次より。
第 1 章と第 2 章「演劇空間の理念と移り変り」
第 3 章と第 4 章と第 5 章「舞台美術と演劇空間と劇場の構造」
第 6 章「舞台照明」
第 7 章「舞台衣装」
第 8 章「舞台化粧」
第 9 章「設計」
第 10 章「音響」
第 11 章「映像空間」
第 12 章「演劇の境界領域」
実際の作品を観賞する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容を中心に出題。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スペースデザインコース進学希望者は、1 ～ 2 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
小石新八『演劇空間論』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

教科書の他に、演劇、劇場等に関する参考書、雑誌は多数あるので、適宜に選択してほしい。TV や舞台公演も教材である。
日常生活の中で、様々な演劇的状況（祭事・イベントも含む）を注目し、様々な演出された空間を発見してほしい。

科目名	工業技術概論						
授業コード	0500	授業科目名	工業技術概論			担当者	荻原剛教授、近藤嘉男講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

私たちの生活は、住宅や衣類、用具、情報機器、交通機関などさまざまな人工物を基盤として成り立っている。これらの人工物は、人類が道具を利用することを覚えて以来様々な工夫があり、発展を遂げてきた、 いわば人類の英知の結晶である。特に産業革命以降の近代工業技術による工業製品は人間の生活を快適で豊かにするために必要なものを設計・製作し、あるマス（量）を前提にして生産されている。

一方、工業製品の氾濫で地球規模でのエネルギー問題や環境問題もクローズアップされている。これらの問題を解決する方法もまた、科学技術の発展をベースにした工業技術といえる。

いろいろな工業製品を作るバックボーンになる工業技術の概要を理解し、生産技術とは何か、“もの”のあり方とは何かを考察し、生活者として正しい視点を持ち、デザインを正しく理解し、評価できる基礎的な知識と考え方を学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日常的に使用している身近な品々から量産されている20種類を取り上げ、その材料、加工方法、表面処理を推測して報告する。

○通信授業課題 2
自動車のプラモデルのキットを購入し、そのパッケージに入っているパーツをよく観察してプラスチックの生産技術を分析、その結果を考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 3
自動車は多くの部品から構成された工業技術の粋ともいえる製品の代表である。プラモデルも樹脂射出成型技術の粋ともいえる。この二つを比較して技術とは何かということについて考える。
課題 2 で選んだプラモデルを組立て、実際に存在する自動車と比較して、プラモデルとの比較を行いその違いを考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 4
いくつかの部品で構成された生活用品を取り上げ、その素材と加工技術を特定し、機能と造形にどのように関連しているか、それぞれの素材と加工技術を論じる。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
1. 身の回りの品々を観察し、デザインの基本になる技術、技術と造形の関連性を認識する。
2. 多くの製品に利用されるプラスチック技術の概要を、プラモデルの部品を例に考察する。
3. 材料と加工技術、造形の関連を認識しその概要を理解する。
4. 製品の部品構成を観察することにより、素材の加工技術と造形の関連を学ぶ。
5. 各課題を行うことにより、素材と加工技術、造形との関連性やもの造りのコンセプト、デザインの視点を理解し、クリエーターとしての造形における視点や生活者として消費における問題意識の視点を身に付ける。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、図面を描く基礎的な知識を持つことを前提とするため、「図法製図Ｉ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

【教材等】

〇教科書
　クリス・レフテリ著、水原文訳『「もの」はどのようにつくられているのか？』（オライリー・ジャパン　2014年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	絵画空間論						
授業コード	2200	授業科目名	絵画空間論			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

絵画として、表現される画面には、さまざまな表情がある。その表情のひとつとして「絵画空間」は存在する。そのことを知るために、作品の鑑賞を通し、画面分析と自己の考えをまとめることを目的にする。導入としては、西洋と東洋の絵画空間の変遷を通し、画面にはどのような空間が存在し、その空間がどのような役割や効果を生んでいるのか考察しながら追求していく。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
作品に於ける画面の成り立ちを分析する。
ラスコーの壁画が描かれた時代から 20 世紀初頭までの絵画と言われる作品を選択し、その作品の画面がどのような空間の処理がされているかを考察する課題。

○通信授業課題 2
自己の絵画空間論について述べる。
平面絵画に現れる絵画空間について、自己の考え方や自己が理想とする空間をレポートにまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を通読した上で、通信授業課題 1、2 に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
堀内貞明、永井研治、重政啓治『絵画空間を考える』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	美術解剖学						
授業コード	0520	授業科目名	美術解剖学			担当者	伊藤恵夫講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(郵送提出のみ　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

美術解剖学では、ヒトや他の動物の体の中にある骨格や筋肉について学ぶ。体の内部構造に関する知識は、体表に現れるレリーフを意味のある「かたち」として認識するための助けとなる。ただアウトラインを追うだけの観察ではなく、立体としての形態やバランスを把握する力を養成する。また、実際に造形作品を作成する際に、何を表現し何を省くかを、自分で選択できる目を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題１「四肢の骨格を意識して動物の全身を描く」
動物園などに行き、四肢（まえあし、うしろあし）の骨格を意識して、動物の全身像をスケッチする。
哺乳類を２種以上（ただし、霊長類“サルの仲間”を除く）、鳥類を１種以上。それぞれの動物の肩、肘、手くび、膝、かかとの位置を示すこと。提出はＢ4 サイズ、３～６枚。動物の名前も明記すること。課題解説をよく読むこと。

○通信授業課題２「人物画または人物彫刻のポーズで骨格図・筋肉図を描く」
造形作品（絵画または彫刻：全身像とする）を１点選び、トレースした図２枚に骨格および筋肉を描き込む。課題解説をよく読んで作品を選ぶこと。使用した図版（コピー）１枚、骨格図１枚、筋肉図１枚。Ｂ4 サイズに統一して提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・美術解剖学を学ぶにあたって
・骨格について
・筋肉について
・プロポーション

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ルイーズ・ゴードン『人体解剖と描写法』上昭二訳（ダヴィッド社　1982 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

○参考文献
桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社　2001 年）
アーネスト・T・シートン『美術のためのシートン動物解剖図』（マール社　1997 年）
Fritz Schider “An Atlas of Anatomy for Artists” (Dover, 1957)
Paul Richer, Rovert B. Hale(ed.) “Artistic Anatomy” (Watson-Guptill, 1971)
W. Ellenberger, H. Dittrich, H. Baum “An Atlas of Animal Anatomy for Artists” (Dover, 1956)

科目名	日本画材料学						
授業コード	2210	授業科目名	日本画材料学			担当者	室井佳世教授、中野めぐみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

日本画と言われる領域において、なじみのない言葉は多くある。また特異な言葉もさまざま存在する。それらに関する用語の内容とそのものの深さを知ることは文化の重みや特色も感じることが出来る。

この科目は、制作を通してではなく、古来使われ続けている群青、白緑などから現在多様な色が存在する日本画の絵具を取り上げ、それらの体系的な解説をもとに知識を深める。また、日本画の制作時に用いられる用具用材として、絵具の接着剤、支持体、筆、制作の補助用具など、さまざまな描画材に関わる種類の体系を学ぶ。さらに、日本画の制作時に出てくる独特と言える用語についても、知識を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本画絵具分類表を、指定された形式で作成をする。
生活する身のまわりにある物で日本画絵具の素材になるものを探し、指定された形式に従い分類表の作成をする課題。

○通信授業課題 2
日本画の用具用材について、生活利用調査をする。
日本の地域の中で育った現在日本画と呼ばれている素材が、身近にどのように活用されているかの実態調査と可能性についてレポートにまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
重政啓治監修『日本画の用具用材』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	ワークショップ研究 Ⅰ						
授業コード	0540	授業科目名	ワークショップ研究 Ⅰ			担当者	杉山貴洋講師、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（課題A：郵送提出のみ、課題B：郵送またはWeb提出）　面接授業						

【授業の概要と目標】

ワークショップ研究は、学校や教室のみならず、ひろく社会の場において、造形活動に関わり、つくる、みる、伝えるなどの実践を研究するものである。グループで活動するときに使われる「ワークショップ」という手法を通じて、様々な視点から、コミュニケーションの方法、グループワークの広がり、造形活動の可能性などの在り方を考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題
夏のスクーリングに参加してワークショップを体験する。またワークショップを体験し、議論をおこない、その展開を試みる。
グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題
A「私の参加したワークショップ」（各自の地域や社会教育施設等で開催されているワークショップに参加して、プロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめ、記録とレポートを作成する）、またはB「ワークショップの経験と考察」（スクーリングで体験したワークショップと教科書のワークショップ事例を比較考察してレポートを作成する）の、いずれかを選ぶこと。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

教科書『造形ワークショップ入門』の目次より。
第１章　ワークショップの手法
第２章　ワークショップをつくる
第３章　ワークショップをまなぶ

○面接授業
第１日　実際にワークショップを体験し、その手法と特長を理解する。
第２日 ワークショップの手法をもとに、テーマを設定し、制作や演技・計画などを組み立てる。
第３日２日目に計画されたワークショップを発表し、レポートに簡潔にまとめる。

○通信授業
教科書、学習指導書を理解して、通信授業課題AまたはBを提出する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	ワークショップ研究 Ⅱ						
授業コード	0550	授業科目名	ワークショップ研究 Ⅱ			担当者	杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）　面接授業						

【授業の概要と目標】

「ワークショップ研究 I」を単位修得した者を対象に、さらにワークショップの実践を発展させ、研究するための科目である。とくに、記録と検証を重視する。ワークショップの企画に携わり、実践を試みる。その上で、ワークショップをグループ活動に使う可能性を検証する。また、そのプロセスを記録し、活動に還元し、グループワークの広がりを考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題
「ワークショップ研究I」を履修し、どのような活動に参加し、どのような考察をしたのか、ワークショップ研究 I を振り返り議論を行う。グループで行うワークショップを計画し実践をする。また、その展開の方法を検証する。
グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題
各自の家庭や職場、地域や社会施設でワークショップの企画に携わる。または、美術館や社会教育施設で募集されているワークショップのボランティアに参加する。具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。また、その記録とレポートを合わせて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

○面接授業
第 1 日 ワークショップ研究 I のレポートを発表し、クラスメイトで議論を行う。
第 2 日 1 日目の議論をもとに、クラスメイトを巻き込んだワークショップを企画する。
第 3 日 2 日目に企画したワークショップを成立させ、その案内役を務める。その後、クラスメイト全員で検証する。

○通信授業
実践例やマナーなどについて再考すること。その上で、各自の家庭や職場、地域や社会教育施設等でワークショップの企画を立てる。
または、美術館や社会教育施設等で募集されているワークショップのボランティアに参加する。ワークショップ研究 II では、企画する側からスタートして、グループワークを展開する。そして、そのプロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめる。
また、参加者への招待状や、お礼の手紙を活動の一環として、記録とレポートと合わせて提出する。
具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「ワークショップ研究 I 」の単位を修得していること。

○備　　考
なし

【教材等】

〇教科書
高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

〇学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

造形総合科目

科目名	造形基礎 Ⅰ						
授業コード	0560	授業科目名	造形基礎 Ⅰ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目(学1課程全学科各コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

美術の表現の基底には、常に私達の現実の身体がある。私達の手と身体はそこから様々な表現が紡ぎ出される源である。ここでは手と身体を使ったドローイングを行うことにより、そこから湧き出る多様な表現と身体の関わりを理解し認識を深める。通信授業では、線を引くことから始め、描くこと、イメージトレーニング、コンセプト・ドローイング、偶発的効果によるドローイング等の実践を通じて、造形の基礎を再認識する。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　自分の身体より大きな模造紙にドローイングする。
1-2　1枚の模造紙にドローイングした後、紙面上より気に入った部分（B3 サイズ）を切り取る。
　　また、その部分を切り取った理由を 200 ～ 400 字で解説する。
1-3　音楽を聴きながら帯状の長い紙にドローイングする。
1-4　かつて自分が訪れた場所（自然界や街）の記憶や印象をもとにしたイメージをドローイングする。
　　また、その記憶や印象の内容を 200 ～ 400 字で解説する。
1-5　デカルコマニーをもとに、ドローイングを加え発展させる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『造形基礎 Ⅰ ～Ⅳ　2024年度』の「造形基礎 Ⅰ」を参照。
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題による評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
必修科目（3 年次編入学生を除く）。入学年次に履修すること。3 年次編入学生は必修ではない。

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形基礎 Ⅰ～Ⅳ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

<table>
<tr><th>科目名</th><td colspan="7">造形基礎 II</td></tr>
<tr><td>授業コード</td><td>0570</td><td>授業科目名</td><td colspan="3">造形基礎 II</td><td>担当者</td><td>関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、原一史教授、山本靖久教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松村繁講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td>通年</td><td>単位数</td><td>2単位
(T1、S1)</td><td>学年</td><td>1～4</td><td>指定</td><td></td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="7">造形総合科目（学1課程全学科各コース必修科目）</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="7">通信授業　面接授業</td></tr>
</table>

【授業の概要と目標】

「観察と描写」
具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行う。その際「このように見なければならない。」あるいは「このように描かなければならない。」という一般通念的な先入観を持たないように意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的である。また、対象の克明な追求により「見ること」「描くこと」の基礎体力を養い、基本的な造形要素の理解を深め、描画材との接触を通じて描くことを体験する。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　身のまわりのものを描く。
1-2　物を持つ手を描く。

○面接授業課題
丸太を描く。B2 以上の画用紙または木炭紙。描画材は基本的に鉛筆、木炭。その他コンテ、水彩絵具等の併用可。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ　2024年度』の「造形基礎Ⅱ」を参照。
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』を参照。

○面接授業
第１日　　午前：課題説明・制作／午後：制作
第２日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
必修科目（3 年次編入学生を除く）。
1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形基礎Ⅰ～Ⅳ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	造形基礎 Ⅲ						
授業コード	0580	授業科目名	造形基礎 Ⅲ			担当者	上原幸子教授、福井政弘教授、高崎葉子講師、木多美紀子講師、野崎麻理講師、野呂麻美講師、清水智子講師、竹山加奈子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（学1課程全学科各コース必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

造形基礎Ⅲ「色彩と形」では、色彩の原初的体験と色彩の対比について学ぶ。色は、光が物に当たり反射することによって脳が感じている光の波長である。物質の性質の違いによって私たちには異なった色として見えるが、そんな色に対して私たちは子どもの頃から「美しさ」や「面白さ」を感じ、花や木や太陽をクレヨンなどの色材を使って描いたりしてきた。色は、私たちに様々な感覚や感情を抱かせる魅力的な要素なのである。
通信授業課題では、様々な素材の色を採取する。恣意的に色を選択するのではなく、自然からものを選び、その色の特長や色の組み合わせに美しさや面白さを感じながら、新しい色を発見することが目的である。面接授業ではデザインにおける形について学ぶ。自然の形をモチーフに便化する。すなわち便宜的な形に転化させていく課題を通して、物の形の特徴をとらえ、美しく構成することを学ぶ。デザインを学ぶ上で必要なスキルである単純化や図案化は、ピクトグラムやイラストレーションなどさまざまなグラフィック表現の中で必要な素養であり、造形の基本と言えるだろう。

【課題の概要】

〇通信授業課題
1-1　色のレシピ
1-2　色のハーモニー

〇面接授業課題
3つの手の写真をトレースし、さらに3つを重ねた形を図案化する。図案化された形の構造を基本に、鉛筆を使って表現の可能性を探る。

【授業計画】

〇通信授業
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』を参照。
学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ　2024 年度』の「造形基礎Ⅲ」を参照。

〇面接授業
第 1 日　午前：課題説明／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

〇通信授業
通信授業では課題 1-1 と 1-2 をそれぞれ個別に採点し平均の評価とする。

〇面接授業
面接授業の評価はエスキース、バリエーションと完成作品を合わせた全体評価とする。

科目の評価は、通信授業と面接授業の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
必修科目（3 年次編入学生を除く）。
1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

◯教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

◯学習指導書
学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	造形基礎 Ⅳ						
授業コード	0590	授業科目名	造形基礎 Ⅳ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、竹中義明講師、生川清孝講師、中澤小智子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（学1課程全学科各コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

－立体構成とデッサン－
我々を取り巻く環境は、様々なモノとモノとが互いに関係し、直接、間接に影響を与え合いながら成立している。これを造形的な視点で捉えると、様々な立体が空間と呼ばれる広がりの中で構成され、多様な世界を造り上げている。また、立体を立体として認識し空間を実感するには、光の存在が不可欠で、光を抜きに語ることは出来ない。
造形基礎Ⅳでは、自ら作り出した立体を空間に構成し、光を照射することで生まれる空間の様々な表情を観察して欲しい。立体に明かりを当てることで生まれる、光と影が作り出す豊かな空間の表情を発見することが、立体、空間を考察する起点となる。造形基礎Ⅳで行う一連の作業を通して、立体、空間を思考する手掛かりになることを目標としている。

【課題の概要】

立体構成の作業を行うにあたり、制作意図を想定しながら作業を繰り返し、その意にかなった作品制作を行う。

〇通信授業課題
1-1　紙の造形
切り出された紙片からパーツを作り、立体的に組み合わせ配置することで、立体や空間の表現の可能性を探る。
1-2　空間を描く
立体構成によって生まれる光と影の美しい空間を発見し、イメージとして平面に定着させる。

【授業計画】

〇通信授業
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』を参照。
学習指導書『造形基礎 Ⅰ～Ⅳ　2024 年度』の「造形基礎Ⅳ」を参照。

【成績評価の方法】

各課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
必修科目（3 年次編入学生を除く）。1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。

【教材等】

〇教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

〇学習指導書
『造形基礎 Ⅰ～Ⅳ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

<table>
<tr><th>科目名</th><td colspan="7">デッサン Ⅰ</td></tr>
<tr><th>授業コード</th><td>0600</td><th>授業科目名</th><td colspan="3">デッサン Ⅰ</td><th>担当者</th><td>関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師</td></tr>
<tr><th>開講期間</th><td>通年</td><th>単位数</th><td>2単位
（T1、S1）</td><th>学年</th><td>1～4</td><th>指定</th><td></td></tr>
<tr><th>科目区分</th><td colspan="7">造形総合科目</td></tr>
<tr><th>授業形態</th><td colspan="7">通信授業　面接授業</td></tr>
</table>

【授業の概要と目標】

人間を描く。造形性を学ぶ上で、人物は最も適した対象の一つである。人間の形は限定されたものでありながら、その動きや姿勢によって形の変化は無限であり、その複雑さ、微妙さはとても魅力的である。

通信授業では、自分や家族を描き、面接授業ではモデルを使い、人物の骨格や形態、フォルムの美しさ、生命力などの把握を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題「家族・自分を描く」
1-1　家族・自分をクロッキーする。
1-2　「1-1」と同モチーフをデッサンする。

○面接授業課題「人間（ヌード）を描く」
1-1　合わせてB2以上となる任意の紙に描いた複数点のドローイング、デッサンそれぞれ1点以上提出。描画材自由。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『デッサンⅠ・Ⅱ　デッサン研究　2024年度』の「デッサンⅠ」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『デッサンⅠ・Ⅱ デッサン研究　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

<table>
<tr><th>科目名</th><td colspan="7">デッサン Ⅱ</td></tr>
<tr><td>授業コード</td><td>0610</td><td>授業科目名</td><td colspan="3">デッサン Ⅱ</td><td>担当者</td><td>関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td>通年</td><td>単位数</td><td>2単位
(T1、S1)</td><td>学年</td><td>2～4</td><td>指定</td><td></td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="7">造形総合科目</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="7">通信授業　面接授業</td></tr>
</table>

【授業の概要と目標】

自然（風景）は変化に富み、我々に様々な感動を与え、諸々の感情を呼び覚ましてくれる。しかし、これを絵として定着させるためには、このような感動の背後にある造形的な根拠を理解することが必要になる。目の前に広がる我々の住む世界をどう認識し、絵画としてどう捉えて行くかを探究する。

通信授業では、自分の住む町の風景を描き、面接授業では、大学近郊の風景を描く。

【課題の概要】

通信授業では、自分の住む町の風景を描き、面接授業では、大学近郊の風景を描く。

○通信授業課題「自分の住む町」
1-1　自分の住む町をモチーフにクロッキーする。
1-2　「1-1」と同モチーフをデッサンまたは油彩で制作する。

○面接授業課題「風景を描く」
1-1　風景をデッサン（鉛筆淡彩可）または油彩で制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。
　　描画材は鉛筆、水彩または木炭。油彩の場合、15 ～ 20 号キャンバス。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『デッサンⅠ・Ⅱ　デッサン研究　2024年度』の「デッサン Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（風景を描く）
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「デッサンⅠ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
「デッサンⅠ」、「デッサンⅡ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『デッサンⅠ・Ⅱ　デッサン研究　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

<table>
<tr><th>科目名</th><td colspan="7">デッサン研究</td></tr>
<tr><td>授業コード</td><td>2150</td><td>授業科目名</td><td colspan="3">デッサン研究</td><td>担当者</td><td>関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td>通年</td><td>単位数</td><td>2単位
（T1、S1）</td><td>学年</td><td>1～4</td><td>指定</td><td></td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="7">造形総合科目</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="7">通信授業　面接授業</td></tr>
</table>

【授業の概要と目標】

デッサンとは、単に物の形をなぞることではなく、対象の存在と描く側の存在との関係の中で、感覚的な受容と知的な分析を通して行う総合的創造作用である。どのようなモチーフであっても、それを選んだ者の内面が反映されていて、対象を見つめることは自分自身と向き合うことでもある。

通信授業では、自分自身を投影できるモチーフを選び、時間をかけて観察し追求することで、自分自身の再発見を目標とする。面接授業では、人体（裸婦）を対象に、人間の体を生動する一つの生命体として捉え、デッサンによる新たな人体表現の可能性を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題「モチーフとの対峙」
1-1　日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、クロッキーする。
1-2　日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、デッサンする。
また、モチーフを選んだ理由を 200 ～ 400 字で解説する。

○面接授業課題「モチーフとの対峙」
1-1　人体（裸婦）をデッサン（水彩等の併用可）または油彩を制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具等、または木炭。油彩の場合は 20 ～ 25 号キャンバス。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『デッサンⅠ・Ⅱ　デッサン研究　2024年度』の「デッサン研究」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（人体を描く）
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『デッサンⅠ・Ⅱ　デッサン研究　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

<table>
<tr><th>科目名</th><td colspan="7">絵画研究 Ⅰ</td></tr>
<tr><td>授業コード</td><td>0620</td><td>授業科目名</td><td colspan="3">絵画研究 Ⅰ</td><td>担当者</td><td>関口雅文教授、吉川民仁教授、小尾修教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、鈴村敦夫講師、菅原智子講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、米内則子講師、渡辺えつこ講師</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td>通年</td><td>単位数</td><td>4単位
(T2、S2)</td><td>学年</td><td>1～4</td><td>指定</td><td></td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="7">造形総合科目</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="7">通信授業　面接授業</td></tr>
</table>

【授業の概要と目標】

西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に留まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。

通信授業では各技法の基礎と理論を学ぶと共にデッサン及びアクリル絵具、ガッシュ（不透明水彩）による着彩をともなったデッサンが課せられる。面接授業では、テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの４つの技法から１つを選択し、実習を通して学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題「古典技法で描く」
1-1　身のまわりの物をモチーフにクロッキーする。
1-2　1-1 で行ったクロッキーを基に、着色した画用紙又は色画用紙に、鉛筆と白い描画材（コンテ、パステル、色鉛筆など）でデッサンする。
1-3　植物や樹木あるいは食物をモチーフにクロッキーする。
1-4　1-3 で行ったクロッキーを基にアクリル絵具又はガッシュ（不透明水彩）による着彩をする。

○面接授業課題「古典技法等の実習」
1-1　「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの４つの表現技法の中から１つを選択し、制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画研究Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画研究Ⅰ」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

○面接授業
第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（各古典技法による制作）
第 2 日 午前：制作／午後：制作
第 3 日 午前：制作／午後：制作
第 4 日 午前：制作／午後：制作
第 5 日 午前：制作／午後：制作
第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『絵画研究Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

科目名	絵画研究 Ⅱ						
授業コード	0630	授業科目名	絵画研究 Ⅱ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、小尾修教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

油性系、水性系選択。（通信授業課題と面接授業課題は系統を統一すること。）
油性、又は水性のいずれかの絵具の性質を選択し、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。

油性系は、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。また、絵具を不透明や半透明、透明の層として捉え、塗り重ねることで色彩や空間創りにも影響することを知る。通信授業では油絵具とテンペラによる混合技法、面接授業では油絵具による古典絵画の模写を通して、素材と表現の関連を学ぶ。

水性系は、水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶ。通信授業は指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること彩色することを学んでいく。また、水を利用することや基底材がもたらす表現の可能性を、様々な手法を体感しながら構築すること表現をすることを知る。面接授業では絵画表現における造形研究として、伝統的な素材としての墨がもたらす白黒の色調の幅と、和紙の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用法から応用までを学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題

＜油性系＞「透層による色彩表現」
1-1　身の回りの物で静物を組み、1-3で制作する作品と同サイズのデッサンをする。
1-2　1-1で制作したデッサンをトレースして支持体に転写する。
1-3　白色浮出と油彩のグレーズによる混合技法で制作する。

＜水性系＞「構築」
1-1　制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。
1-2　静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
1-3　組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材をともに 3 種類選択し、デッサンする。

○面接授業課題

＜油性系＞「古典模写」
1-1　ルーベンスやレンブラント等の 17 世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。
　　作品の模写を通してカマイユを用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

＜水性系＞「墨で描く作画」
1-1　墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150 号程度の作品を描く。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画研究 Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画研究Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

○面接授業

＜油性系＞
第 1 日　午前：前提講義及び制作（古典模写）／午後：制作（下層描き）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：講義／午後：講義
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：採点・講評

＜水性系＞
第 1 日　午前：前提講義および手本学習　午後：手本学習（附立て）
第 2 日　午前：墨によるスケッチ　午後：墨による表現、中間鑑賞
第 3 日　午前：墨によるスケッチ　午後：墨によるスケッチおよび講義
第 4 日　午前：墨による制作　午後：墨による制作
第 5 日　午前：墨による制作　午後：墨による制作
第 6 日　午前：墨による制作　午後：講評・まとめの講義

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「絵画研究Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
「絵画研究Ⅰ」、「絵画研究 Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『絵画研究Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

通信授業課題（油性系）に取り組む際の補助教材として、Webキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」、「混合技法　テンペラメディウムの作り方」、「混合技法　テンペラ絵具の作り方」、「混合技法　吸収性下地パネルの作り方」、「混合技法　油メディウムの作り方」、「混合技法　デッサン・下図（カルトーネ）の制作」、「混合技法　アンダードローイング・白色浮き出し・グレーズ」を視聴することを薦める。

科目名	絵画研究 Ⅲ						
授業コード	2300	授業科目名	絵画研究 Ⅲ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、小尾修教授、鈴村敦夫講師、菅原智子講師、米内則子講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

学1課程「絵画研究Ⅰ」・学2課程「絵画研究ⅠB」を履修した者が、同科目で選択しなかったテンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの４つの技法から１つを選択し、さらに研究を重ねることを目的とした科目。授業としては「絵画研究Ⅰ」「絵画研究ⅠB」 と同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

西洋中世からルネッサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に留まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典技法等の実習」
1-1　「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの４つの表現技法の中から１つを選択し、制作する。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（各古典技法による制作）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作
第４日　午前：制作／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
学1課程の学生は「絵画研究Ⅰ」の単位を修得していること。
また、「絵画研究Ⅰ」で選択していない技法を選択すること。
学2課程の学生は「絵画研究ⅠB」の単位を修得していること。
また、「絵画研究ⅠB」で選択していない技法を選択すること。

○備　　考
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画研究 Ⅳ						
授業コード	2310	授業科目名	絵画研究 Ⅳ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、小尾修教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

油性系、水性系選択。

絵画研究Ⅱを履修した者が、同科目で選択した油性系または水性系と異なる系の選択で学習することを条件に、さらに研究を重ねることを目的とし、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。授業としては絵画研究Ⅱと同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

油性系は、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。また、絵具を不透明や半透明、透明の層として捉え、塗り重ねることで色彩や空間創りにも影響することを知る。油絵具による古典絵画の模写を通して、素材と表現の関連を学ぶ。

水性系は、水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶ。通信授業は指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること彩色することを学んでいく。また、水を利用することや基底材がもたらす表現の可能性を、様々な手法を体感しながら構築すること表現をすることを知る。面接授業では絵画表現における造形研究として、伝統的な素材としての墨がもたらす白黒の色調の幅と、和紙の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用法から応用までを学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題

＜油性系＞「古典模写」
1-1　ルーベンスやレンブラント等の 17 世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユを用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

＜水性系＞「墨で描く作画」
1-1　墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150 号程度の作品を描く。

【授業計画】

○面接授業

＜油性系＞
第 1 日　午前：前提講義及び制作（古典模写）／午後：制作（下層描き）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：講義／午後：講義
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：採点・講評

＜水性系＞
第 1 日　午前：前提講義および手本学習　午後：手本学習（附立て）
第 2 日　午前：墨によるスケッチ　午後：墨による表現、中間鑑賞
第 3 日　午前：墨によるスケッチ　午後：墨によるスケッチおよび講義
第 4 日　午前：墨による制作　午後：墨による制作
第 5 日　午前：墨による制作　午後：墨による制作
第 6 日　午前：墨による制作　午後：講評・まとめの講義

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「絵画研究 Ⅱ」の単位を修得していること。
「絵画研究 Ⅱ」で選択していない系統を選択すること。

○備　　考
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

補助教材として、Webキャンパス「動画視聴」内の「混合技法　テンペラメディウムの作り方」、「混合技法　テンペラ絵具の作り方」、「混合技法　吸収性下地パネルの作り方」、「混合技法　油メディウムの作り方」、「混合技法　デッサン・下図（カルトーネ）の制作」、「混合技法　アンダードローイング・白色浮き出し・グレーズ」を視聴することを薦める。

科目名	版画研究 Ⅰ						
授業コード	2320	授業科目名	版画研究 Ⅰ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。

授業は面接授業のみで行い、「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、版種の特性と表現の関係を体感しながら、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで造形的課題を明確にする。

【課題の概要】

○面接授業課題「技法と表現の発展①」
1-1　「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。
・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm
・「リトグラフ」：イメージサイズ：30cm×40cm 程度

【授業計画】

○面接授業
・「木版」または「リトグラフ」（選択）
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作
第４日　午前：制作／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「版画 I」の単位を修得していること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	版画研究 Ⅱ						
授業コード	2330	授業科目名	版画研究 Ⅱ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版画は紙やキャンバスに直接描くのではなく、「版」という媒体を使った間接的な表現である。そこには様々な魅力や偶然性、造形的発見などが混在している。

授業は面接授業のみで行い、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで、イメージの膨らみや発想の広がりを体感し、造形上の課題を明確にする。

【課題の概要】

○面接授業課題「技法と表現の発展②」
1-1　「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。
・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm
・「スクリーンプリント」：イメージサイズ：A4 程度、30cm×42cm 程度（各１点）

【授業計画】

○面接授業
・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作
第４日　午前：制作／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「版画 Ⅱ」の単位を修得していること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	彫刻Ⅰ(塑造クラス) (旧科目名:彫塑Ⅰ)						
授業コード	0640	授業科目名	彫刻Ⅰ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体頭部を観察し、粘土(塑造)及び石膏(直付け)でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

人体頭部は古くから彫刻の主題として取り扱われてきました。人体頭部を制作することは、かつて彫刻を学ぶ者にとって、全身像を制作するための予備的あるいは初歩的な修業と捉えられることもありました。しかし、この授業において人体頭部を対象に制作する理由は、みなさんが彫刻の初心者だからではありません。この授業の1つの目標は、彫刻制作を通して、自分の顔の特徴や頭の形はもとより、家族、通りすがりの町の人々など、「毎日見るものだから私は知っている」と思い込んでいる「人体頭部」の全てをあらためて観察しなおして見ることにあります。人体頭部の観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
この授業において重要なことは、「人体頭部」という概念をまとめ上げることではなく、目の前にいる生身のモデルの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分が作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土(塑造)及び石膏(直付け)で彫刻を制作します。
授業前半では粘土(塑造)により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏(直付け)により継続して制作します。

【授業計画】

[面接授業]
第 1 日　午前:前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後:制作(塑造)
第 2 日　午前:制作／午後:制作
第 3 日　午前:制作／午後:石膏型取り作業　夜:石膏型取り作業(～ 18:30)
第 4 日　午前:石膏型取り作業／午後:石膏型取り作業　夜:石膏型取り作業(～ 18:30)
第 5 日　午前:清掃、制作(石膏直付け)／午後:制作
第 6 日　午前:制作／午後:清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者、学2課程受講者ともに「塑造クラス」を先に受講することが望ましい。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着(長ズボン)・作業靴(運動靴可)を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。(様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます)
※「彫刻Ⅰ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅰ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ⅰ）						
授業コード	0640	授業科目名	彫刻Ⅰ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20 ㎝の立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。
木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。木彫は、かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に制作することが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、たとえ初学者であったとしても、全ての制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる助けにもなることを体験してください。
木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。
動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
＊この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。（木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います）

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者、学2課程受講者ともに「塑造クラス」を先に受講することが望ましい。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着（長ズボン）・作業靴（運動靴可）を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻I」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅱ（旧科目名：彫塑Ⅱ）						
授業コード	0650	授業科目名	彫刻 Ⅱ			担当者	保井智貴教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現実的（アクチュアル）な世界は、「変化して止まぬ不定性」と「揺るぎない不動性」という両面性を持つ。彫刻の制作には、この両面への探究が不可欠である。触覚はしばしば言われているような手で触れる感覚ではない。見えないが、実在的（リアル）な対象であるエモーション（情動）を実体化する働きを持ち、正確には「内触覚」と呼ばれる。量塊は、内触覚の働きによって、豊かな両面性を獲得する。

この課題は、量塊の問題について考察し、立体表現を追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題
製作者（受講生）が聴いてきた曲、あるいは読んできた詩を各自で１つ用意し、それを契機にイメージしながら作品制作を試みる。
曲あるいは詩に内包する感覚を造形的に解釈し、粘土塑造と石膏型取り、及び石膏彫刻により作品を制作する。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：オリエンテーション、技法説明／午後：制作準備
第２日　午前・午後：制作
第３日　午前・午後：制作
第４日　午前・午後：制作
第５日　午前・午後：制作
第６日　午前：清掃・展示／午後：講評

【成績評価の方法】

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議の上、採点評価を定める。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

教材は実習時に配付する。道具は実習時に指示する。

【その他】

油絵学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する専門的事項」として取り扱われる。

科目名	彫刻Ⅲ(塑造クラス) (旧科目名:彫塑Ⅲ)						
授業コード	0660	授業科目名	彫刻Ⅲ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体頭部を観察し、粘土(塑造)及び石膏(直付け)でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

人体頭部は古くから彫刻の主題として取り扱われてきました。人体頭部を制作することは、かつて彫刻を学ぶ者にとって、全身像を制作するための予備的あるいは初歩的な修業と捉えられることもありました。しかし、この授業において人体頭部を対象に制作する理由は、みなさんが彫刻の初心者だからではありません。この授業の1つの目標は、彫刻制作を通して、自分の顔の特徴や頭の形はもとより、家族、通りすがりの町の人々など、「毎日見るものだから私は知っている」と思い込んでいる「人体頭部」の全てをあらためて観察しなおして見ることにあります。人体頭部の観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
この授業において重要なことは、「人体頭部」という概念をまとめ上げることではなく、目の前にいる生身のモデルの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分が作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土(塑造)及び石膏(直付け)で彫刻を制作します。
授業前半では粘土(塑造)により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏(直付け)により継続して制作します。

【授業計画】

[面接授業]
第 1 日　午前:前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後:制作(塑造)
第 2 日　午前:制作／午後:制作
第 3 日　午前:制作／午後:石膏型取り作業　夜:石膏型取り作業(～ 18:30)
第 4 日　午前:石膏型取り作業／午後:石膏型取り作業　夜:石膏型取り作業(～ 18:30)
第 5 日　午前:清掃、制作(石膏直付け)／午後:制作
第 6 日　午前:制作／午後:清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者、学2課程受講者ともに「塑造クラス」を先に受講することが望ましい。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着(長ズボン)・作業靴(運動靴可)を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。(様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます)
※「彫刻I」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅲ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ⅲ）						
授業コード	0660	授業科目名	彫刻Ⅲ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20 ㎝の立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。
木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。木彫は、かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に制作することが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、たとえ初学者であったとしても、全ての制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる助けにもなることを体験してください。
木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。
動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
＊この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。（木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います）

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者、学2課程受講者ともに「塑造クラス」を先に受講することが望ましい。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着（長ズボン）・作業靴（運動靴可）を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻I」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅳ（旧科目名：彫塑Ⅳ）						
授業コード	0670	授業科目名	彫刻 Ⅳ			担当者	伊藤誠教授、冨井大裕教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

○「抽象彫刻のA/B/C」：スマートフォンのカメラ機能、石膏型取り、アーク溶接（鉄の溶接）の技法を使い、３人の彫刻家（A：アルプ〈Arp〉/B：ブランクーシ〈Brancusi〉/C：カロ〈Caro〉）の、制作プロセスから考え出した３つの課題の制作を行う。
○「抽象彫刻」とはなんでしょうか。それらは具象彫刻に対して一般的にはそのように呼ばれています。
しかし、各々の抽象彫刻はいったい「何が」違うのでしょうか。そして「何を」目指してきたのでしょうか。ここでは３人の彫刻家（ハンス・アルプ/コンスタンチン・ブランクーシ/アンソニー・カロ）を取り上げ、よく知られた彼らの作品の解釈よりも、なぜこの表現に至ったのかを、現代の視点で捉え直してみて、少し実験的な課題を作ってみました。そこから３種類の作品の制作を行います。彫刻制作の経験は問いません。３人の作家の作品制作のアプローチを、様々な観点から捉え直してみることによって、よく知られた美術史とは少し違った視点の可能性を探ること、自身の制作のための実験や課題を発見する力をつけることをを目標とします。

【課題の概要】

課題Ａ： 写真から抽象形体を導き出す実習と、それを立体にする実習（石膏型取り）。
課題Ｂ： 抽象形体を、日常にあるものから見つけ出す実習（デジタル写真）。
課題Ｃ： 鉄筋（6 ～ 9 ㎜径の鉄棒）を溶接して言葉（文字）を作り、空間的に構築させる実習（アーク溶接）。

＊各課題の詳細は当日のオリエンテーションで説明

【授業計画】

○面接授業
第１日　課題Ａオリエンテーション：３人の彫刻家について。課題の概略説明。分析するための3つのキーワードについて。
　　ハンス・アルプ (1886～1966) についてのリサーチ。写真とドローイング開始。
第２日　課題Ａドローイングの継続、石膏を使用した実習。展示と講評。
第３日　課題Ｂオリエンテーション。コンスタンチン・ブランクーシ（1876～1957） についてのリサーチ。
　　チェスのルールと６種類の形体の設定。
第４日　課題Ｂ写真撮影、展示、講評
第５日　課題Ｃオリエンテーション。アンソニー・カロ (1924～2013) についてのリサーチ。アーク溶接の実習。
第６日　課題Ｃ作品制作、展示、講評（日程が変更する可能性あり）

【成績評価の方法】

制作された作品とプレゼンテーションから以下の基準で採点します。
評価基準：各プロセスが各自の判断で正確に行われていたか。制作の結果、新たな観点が獲得できたか。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ｉ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

設備と指導体制の関係上、スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。
下記の条件を満たす端末（スマートフォン・携帯電話・iPad など）を所有・持参し、利用できること。
・写真を撮影できること。
・撮影した写真を即時に送信できること。

【教材等】

・各課題のオリエンテーション時に配布する。
・５日～６日目はアーク溶接機を使用します。保護具は準備しますが強い紫外線が発生することをご了承ください。

【その他】

芸術文化学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する専門的事項」として取り扱われる。

科目名	彫刻Ｖ（塑造クラス） （旧科目名：彫塑Ｖ）						
授業コード	2340	授業科目名	彫刻Ｖ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

この授業では、「彫刻Ⅰ」や「彫刻Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、塑造制作をさらに広げ、深めてください。
指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。
※「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】と「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】の授業の概要と目標については、 それぞれのシラバスを参照してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土（塑造）及び石膏（直付け）で彫刻を制作します。
授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏（直付け）により継続して制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後：制作（塑造）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第 4 日　午前：石膏型取り作業／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第 5 日　午前：清掃、制作（石膏直付け）／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～
○履修条件
「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】または「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。
○備　　考
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着（長ズボン）・作業靴（運動靴可）を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）

科目名	彫刻Ｖ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ｖ）						
授業コード	2340	授業科目名	彫刻Ｖ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

この授業では、「彫刻 I」や「彫刻Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、木彫制作をさらに広げ、深めてください。
指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。
※「彫刻Ｉ」【木彫クラス】と「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】の授業の概要と目標については、それぞれのシラバスを参照してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～
○履修条件
「彫刻Ｉ」【木彫クラス】または「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。
○備　　考
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【参考文献】

『彫刻の教科書1　わからない彫刻　つくる編』 武蔵野美術大学出版局　2023年
『彫刻の教科書2　わからない彫刻　みる編』 武蔵野美術大学出版局　2024年
『ぺらぺらの彫刻』 武蔵野美術大学出版局　2021年

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着（長ズボン）・作業靴（運動靴可）を着用してください。
※半ズボン・スカート・サンダル不可。長い髪は必ずまとめること。
・この授業は、「彫刻Ｉ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）

科目名	工芸 Ⅰ						
授業コード	0680	授業科目名	工芸 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、柴田克哉講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

私たちの暮らしは、衣食住のさまざまな局面で西欧化の道を辿ってきた。しかし、一方では日本の伝統的な習慣や事物も根強く受け継がれ、今日の生活文化を豊かなものにしている。様々な生活用品も、大量生産による工業製品によってその多くを占められているが、日本の各地で発展継承された地域の産業によって供給されているものも少なくない。しかし、生活様式などを含めた社会の激しい変動は、この地域の産業と生活者の関係を希薄にし、将来を楽観できない状況にまで追い込んでいる。デザインの役割の一つはこの伝統的産業に現代的意味を見いだし活性化させることだと言える。それには、地元産業への深い理解とともに、良質の生活観から提言される新たなライフスタイルと産業が濃密に関係することが重要である。

この授業は、日本各地の地域の工芸に注目し、その調査から「工芸」の現代的意味を探るとともに、ハンドクラフト、工業製品などとの関係、地域の工芸の将来、製品デザインの在り方を考察することを内容としている。なお、教職「工芸」の鑑賞に対応している。

【課題の概要】

○面接授業課題
工芸について博物館、美術館などの見学と、図書館での資料収集をします。工芸で自分の関心を持ったものを取り上げて、私たちの生活にどうあるべきかを考察します。最終日に互いに気付いたところを話し合い、「これからの工芸のあり方の提言」を２０００字程度（画像、図を含めＡ４用紙３～４枚程度）のレポートにまとめる。

○通信授業課題
「デザイン調査」　居住する地域や近在の産業として営まれている工芸を俯瞰し、また生産現場を見学して記録するとともに、自分自身でその製品を使用してデザインを分析、考察しレポートにまとめる。

＊課題については学習指導書『工芸Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業
・教科書「工芸」を読むこと。
・通信授業課題は学習指導書をよく読んで、取り組むこと。

○面接授業
第１日　美術館、工芸館、工場見学
第２日　講義及び図書館での資料集め
第３日　授業のまとめ
面接授業の内容は受講者数や見学先の都合、面接授業の日程により変更することがある。

○通信授業
工芸品の産業的調査及び製品のデザイン的調査・分析をし、レポートとしてまとめる。

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
１～４年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱ等の履修を勧める。
本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『工芸Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

学外見学とワークショップ等の場合もある。

科目名	工芸 Ⅱ						
授業コード	0690	授業科目名	工芸 Ⅱ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、野田昇一郎講師、宗像重幸講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作することである。そこでは、材料の特性を生かし、合理的に用途を満たしつつ、生活に潤いをもたらす造形の美しさが求められてきた。今日では、手工業的に制作されてきた用具の大半は機械工業的生産方法に代わってしまった感じすらある。新しい材料が開発され、工業的な生産技術による量的規模が拡大しても、人と用具との関係は変わることなく、その造形的な美しさに生活の潤いを求めている。この科目では、日本の伝統的な自然素材を使用し、工芸的手法を活かしながら、用具（照明器具）と現代の生活の関わりを考察して新たなデザイン提案と制作をする。なお、教職「工芸」の学習に求められるプロダクト制作とデザイン表現に対応している。

【課題の概要】

○面接授業課題「照明器具（スタンドライト）のデザイン」
面接授業で、日本の伝統的素材である和紙を主材料に、生活空間の照明器具（スタンドライト）をデザインし制作する。照明は、その使われる場や用途（玄関や居間といった）によって様々な性能や効果が求められる。その照明が使用される状況を良く想像しながらデザインし、和紙の特性、風合いを生かした造形性と共に、あかりを点灯した時の光の効果も含めた創造性ある照明器具を制作する。その際には少量でも良いが、生産性を考慮に入れたプロダクトデザインの考えで実施する。

○通信授業課題「照明器具（スタンドライト）のリデザインとその説明資料の作成」
面接授業で制作した照明器具を講評にしたがって改良（リデザイン）し、デザインの主旨や特徴、図面、写真などを内容とするデザインの説明書を提出する。プロダクト制作に求められるのは、デザインの主要な要件（目的性、機能性、生産性、流通、造形様式など）への見識であり、またデザインの表現（製図など）技術の習得でもある。ここではその基本的な技術に触れつつ各自のデザインの全体像を構築する。

＊課題については学習指導書『工芸Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

予習課題→面接授業→通信授業

面接授業で具体的な現物の制作を行い、続いて通信授業でそのデザインを総括するという順序で学習する。
尚、面接授業の受講前には予習課題があるので、学習指導書・工芸Ⅱの面接授業前予習課題の項を予習する。

○予習課題
予習課題では、照明器具（スタンドライト）に関するコンセプトの作成と、そのアイデアのスケッチを5 点作成し、面接授業初日に持参する。
※初日に予習課題を持参しなければ面接授業を受講することはできないので、必ず持参すること。

○面接授業
面接授業では、前提講議で照明の基礎的知識と和紙について講議があり、続いてスケッチによる照明器具の構想、現物の制作を展開し講評に至る。和紙や器具などの主要な材料は大学が用意する。

○通信授業
面接授業における講評をふまえ、自宅でデザインの改良を試み、その結果を図面や写真を添付したリデザインの説明資料で報告する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価と通信授業の評価の平均を原則とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、「工芸Ⅰ・Ⅱ」及び、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱ等の履修を勧める。
本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。

【教材等】

○教科書
横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『工芸Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

通信授業課題は、面接授業受講後 2 ヶ月を目途に提出する。

○参考資料
横溝健志監修、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	ガラス基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2350	授業科目名	ガラス基礎実習 Ⅰ			担当者	大村俊二教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、加熱することで液体状態に柔らかくなるガラス素材の特性を理解し、ガラスの粉末、粒、板などをキルン（電気炉）内で加熱し、変形、熔着による成形加飾する技法を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
キルンワークによる「菓子器」のデザイン・制作。

【授業計画】

○面接授業
・菓子器のデザインスケッチと配色イメージの作成
・型作り
・ガラス素材を配色イメージに合わせて配置
・キルンで加熱成形

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品とイメージボードで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	ガラス基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2360	授業科目名	ガラス基礎実習 Ⅱ			担当者	大村俊二教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、板ガラスの加工方法と接合方法を習得し、伝統的なステンドグラスの手法、また接着技法による照明器具を制作することで、ガラス素材の特性、光の透過による効果を理解し、場と「あかり」の関わり方を考察する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
生活用品としての機能を持った「あかり」のデザイン・制作。

【授業計画】

○面接授業
・「あかり」のデザイン、イメージスケッチ
・スケッチから、型紙図を作成しガラス板をカット
・コパーテープの貼り付けと半田付けにより組立、又は接着剤を用いて組立

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品とイメージボードで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2370	授業科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅰ			担当者	高橋理子教授、後藤大樹講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、オフルームによる制作をとおして、その歴史と技法を学ぶ。オフルームとは織機（LOOM）を使わない織りの技法で、木枠の道具を使い、織る、結ぶなどの技法により表現の違いを学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」素材別テキスタイルクラスの〈OFF LOOM〉とほぼ同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
アートやプロダクトへの展開を想定したテキスタイルの制作。

【授業計画】

○面接授業〈OFF LOOM〉
1．タペストリーの技法の講義、フリードローイングから制作
2．OFF LOOM による製織
3．作品制作、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」テキスタイルクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、工芸 I・II の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

科目名	テキスタイル基礎実習 II						
授業コード	2380	授業科目名	テキスタイル基礎実習 II			担当者	高橋理子教授、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、布（織物）の構造としての組織を学び、織組織と色彩効果の理解を深め、織りの風合いを生かしたマフラーを制作する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」素材別テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の〈織〉とほぼ同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
布を成立させる〈織〉の構造〈組織〉と並置混色研究。

【授業計画】

○面接授業〈織〉
1. 織の構造と色彩の講義／製織準備
2. 卓上機による製織
3. 作品制作、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

科目名	金工基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2390	授業科目名	金工基礎実習 Ⅰ			担当者	鈴木洋教授、高橋勇一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、金属加工用の槌、当金等を使用し、銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し、平面から立体へ成形する鍛金技法を習得する。板金絞り加工による器の制作を通して金属の焼鈍による組織の軟化、展延性の向上と、加工硬化の特性を理解し、鍛金による造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別金工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
鍛金技法により銅板素材から容器を制作する。

【授業計画】

○面接授業
・容器のデザインと型紙の作図、制作
・銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し行い、容器を制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸 III」金工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	金工基礎実習 II						
授業コード	2400	授業科目名	金工基礎実習 II			担当者	鈴木洋教授、高橋勇一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、ガラスが金属に焼き付くと言う特性を理解し、七宝技法のひとつである、有線七宝を学んでいく。これにより、基礎知識、技法の習得、色彩造形を体験し、探求することを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
有線七宝による平面作品の制作。

【授業計画】

○面接授業
ガイダンス、技法について
エスキースチェック、素地作り、下地焼成
銀線植線→焼成
釉薬施釉→焼成（3 回）
研磨
仕上げ

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	陶磁基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2410	授業科目名	陶磁基礎実習 Ⅰ			担当者	西川聡教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。手びねり・板作り・彫り・印花などの技法を使い、道具立てを制作する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
日常的に使う事務用品、洗面用具、調理具等を立てておく器（歯ブラシ立て、箸・スプーン立て等）のデザインと制作。

【授業計画】

○面接授業
・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
・手びねり、ヒモ作り、輪積み、板作り、接合、印花、布目、押し出し等の技法を実習し、課題を制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	陶磁基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2420	授業科目名	陶磁基礎実習 Ⅱ			担当者	西川聡教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。ここでは、造形表現の面白い可能性を持っているさまざまな土の板の作り方を実習。粘土板（たたら）による成型法と造形表現を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
粘土板（たたら）成形法による花器のデザインと制作。

【授業計画】

○面接授業
・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
・花器のデザインと制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	木工基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2430	授業科目名	木工基礎実習 Ⅰ			担当者	熊野亘准教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では木の加工の原初的手法である鑿、鉋などを使用した手彫りによる制作を通して、木が繊維素材であることを理解する。また、刃物を使い木の塊を削り出すことで、木の温かさ、硬さ、など木材の性質を知る。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別木工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
くりもの技法によるサラダボール、コンポートなどを制作。

【授業計画】

○面接授業
・デザインのアウトラインを木の塊に描く
・鋸、鑿等を使用し、器の形の荒削りを行う
・豆鉋などを使用して仕上げる

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、工芸「I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	木工基礎実習 II						
授業コード	2440	授業科目名	木工基礎実習 II			担当者	熊野亘准教授
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、木の薄板の巻き上げ技法による器の制作を通して、木が繊維素材であることの理解と、造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別木工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
帯状の単板を使用し、巻き上げ技法によりサラダボール、コンポートなどを制作する。

【授業計画】

○面接授業
・器のデザインと断面図により、形を整える台（治具）を作る
・器の底板を作る
・帯状の単板を作り、底板に単板を巻き締める
・治具に合わせて形を整える
・内側、外側を豆鉋で削る
・サンディングにより仕上げる

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	デザイン Ⅰ						
授業コード	0720	授業科目名	デザイン Ⅰ			担当者	上原幸子教授、小笠原幸介講師、風間純一郎講師、吉田二朗講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

デザインⅠおよびデザインⅡは、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げて学習します。
デザインⅠでは、従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアを軸に学習します。
現代の社会を成り立たせている膨大な量のさまざまな情報は、主に大量伝達を可能にした印刷物によってもたらされました。この授業は、ヴィジュアル・デザインの原形ともいうべき広報を目的とした印刷の特性を踏まえ、さまざまな印刷媒体に求められる役割を認識し、その企画やイメージ表現の方法などを学習します。
印刷デザインの手法も今やデジタルが主流ですが、従来の手作業による制作（アナログ）も変え難い表現方法としてヴィジュアル・デザインの世界を支えています。さまざまな画材は、文字やイラストレーションに個性を与え、微妙な情感を表現してきました。デジタルとの違いや、手作業のもつ魅力が再認識されつつあるといえます。授業では、手作業で課題制作を行います。

【課題の概要】

○面接授業課題
「各自が生活している地域、グループなどのイベントを企画し、それを伝える印刷物をデザインする」というテーマで、文字やイラストレーション、写真などを駆使して制作します。
画材を用いる制作は、主にパネルに水張りしたケント紙を用います。

【授業計画】

○面接授業
授業の前半は教員とディスカッションをしながらイベントの企画立案をし、プレゼンテーションを行います。そして、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなどの中から企画内容に合った適切な媒体を選定します。後半は企画時に決めた印刷媒体を制作します。

【成績評価の方法】

制作したイベント企画書、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなど完成作品の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン Ⅱ						
授業コード	0730	授業科目名	デザイン Ⅱ			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、丸田直美講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業（web提出）						

【授業の概要と目標】

デザインⅠおよびデザインⅡは、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げ学習します。
デザインⅠでは従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアからポスターの制作を内容としましたが、デザインⅡでは、今やコミュニケーション手段として主流となったコンピュータ・ネットワークをテーマとします。
コンピュータ・ネットワークの利用は、私達の日常生活に欠かせないものとなり、その特性を理解し、より良いデジタル環境を整えることがデザインに求められています。この授業は、Webデザインの制作を通して日々変化しつつあるインターネットの特性を認識し、テーマの構築や Webデザインの可能性を探ることを目標にしています。また、デザインに求められる基本的な要件、企画力や表現力、インターフェイスとしての機能などについてあわせて学習します。

【課題の概要】

◯通信授業課題 1
Webページの企画と設計
「身の回りで見過ごしてしまうような事柄を掘り起こす」というテーマで Webページの企画を発案し、企画内容と設計方法を考えて企画書を作成します。Webキャンパスのネットフォーラムを開設し、任意でテーマの選定や企画についての意見交換を行います。
Webページには「個人的な表現媒体」であることが特徴として挙げられますが、課題ではその特質を生かし、個人の趣味や生活、住環境などからテーマを定め、コンセプトに合わせて内容を構成し、相応しい設計や表現を企画、制作して公開します。

◯通信授業課題 2
Webページの制作と公開
課題 1 で立案した企画をもとに Webページを制作し、各自の用意した Webサイト用領域にアップロードして公開します。
Webページの制作方法は、学習指導書を参考に各自の企画内容と経験に合わせた最適な方法を選択します。

※ 課題については、学習指導書『デザイン Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

◯通信授業
事前に教科書を精読し、学習指導書『デザイン Ⅱ　2024 年度』に従って、Webページのテーマの発案、企画、設計、制作、公開を行います。

【成績評価の方法】

各課題の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わない。日常的にパソコンでインターネットを利用し、Webサイトの閲覧や文書作成などの基本操作に親しんでいること。インターネットに接続でき、Webブラウザ、テキストエディタ、画像のソフトウェアを利用できること。可能であれば、Webサイト作成、ファイル転送のソフトウェアを利用できること、Webページをアップロードする自分の Webサイト用領域を用意できることが望ましい。

【教材等】

◯教科書
『Webインターフェイスで学ぶ　インタラクションと情報のデザイン』（若林尚樹　オーム社　2011）

◯学習指導書
『デザイン Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	ブックバインディング						
授業コード	0740	授業科目名	ブックバインディング			担当者	金子伸二教授、近藤理恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

【授業の概要と目標】
「ブックバインディング」面接授業では、手製本の制作を通し、「もの」としての本の構造を知ること、紙などの素材を扱う基本的な作業を習得すること、製本作品として装丁を表現することを目標とする。
　身近な存在である「本」について、受講者各自が改めて考えてみる機会にもしたい。西洋で4世紀頃に定着した冊子の製本は、中世の手写本から活版印刷、ルネサンスの時代、19世紀末の機械製本の始まりを経て、現代まで続いている。紙の本の存続が問われる今、手製本の意味や可能性について考えるきっかけとなることを望んでいる。
前提講義では、製本構造の種類や、古代からの製本の歴史や伝統的な製本工房の仕事について概観する。

【課題の概要】

○面接授業課題 1
文庫本（ソフトカバー）の角背ハードカバー製本への改装。

○面接授業課題 2
和綴じ製本の製作。

○面接授業課題 3
折丁を糸綴じし、丸背ハードカバー製本を製作。保存函の製作。

【授業計画】

○面接授業
1）　導入講義／本の構造を分析。本の歴史概説（製本工芸作品や現代手製本の紹介を含む）。紙の製法と分類概説。
　課題 1　文庫本の中身の処理
2）角背ハードカバーの表紙をつくり、中身に合わせる。課題 2　和綴じ製本。
3）課題 3　①丸背ハードカバー製本の折丁を用意し、糸綴じをする。
4）②丸背をつくり、背の処理をして中身を仕上げる。
5）③ハードカバーの表紙をつくり中身と合わせて組み立てる。
6）保存函の製作。タイトル入れなどの仕上げ作業。午後講評。

※ 注　各課題の工程は、準備段階を含め、平行して行われる場合もある。
※ スクーリング前に、参考書に限らず、本に関する図書に目を通しておきましょう。
　自分と本の関わり、思い出深い本についても考えてみましょう。

【成績評価の方法】

講評による。課題 1 と課題 3 の 2 冊が評価の対象となる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
学1課程在籍者は「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得していること（3 年次編入学生を除く）。
学2課程在籍者は「造形基礎Ⅰ」「造形基礎ⅡA」「造形基礎ⅡB」「造形基礎ⅢA」「造形基礎ⅢB」「造形基礎Ⅳ」のいずれかの単位を修得していること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（一開講につき 40 名程度）。

【教材等】

なし

【その他】

〇参考書
ブリュノ・ブラセル『本の歴史』木村恵一訳（創元社（「知の再発見」双書）　1998 年）
岩波書店編集部編『本ができるまで』（岩波ジュニア新書　2003 年）
坂川栄治『本の顔』（芸術新聞社　2013年）
ナカムラクニオ『本の世界をめぐる冒険』（NHK出版　学びのきほん　2020年）
髙宮利行『西洋書物史への扉』（岩波新書　2023年）

科目名	映像メディア表現 Ⅰ						
授業コード	0750	授業科目名	映像メディア表現 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、篠原規行教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

映像とは、写真、映画、テレビ、ビデオなどを中心とした、比較的新しい表現方法であり、その特性は記録性、再現性、現実性、訴求力の高さである。また伝達媒体、メッセージ、言語という側面も持っている。
この授業では、動的映像設計を主体とした表現について、その歴史をひもとき、特徴を理解し、映像制作の過程を丁寧に演習しながら、作品構成のプロセスを学ぶ。実地でのカメラによる撮影や編集作業などは授業課程中には含まれないが、単なる「ビデオ制作のハウツー」ではなく、「動画による表現」の核心に触れることを目的とする。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1
テキストに含まれる参考作品を分析する。

〇通信授業課題 2
テーマに沿った映像作品を企画立案し、構成する。

【授業計画】

〇通信授業
テキストと学習指導書をよく読んでから取り組むこと。
・課題 1
テキスト付属の DVD に収録されている作品の構成を分析する。
学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、規定の書式で分析をまとめる。
・課題 2
課題 1 の分析結果を生かして、自作の映像作品の企画構成を行う。
学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、作品の企画を他者に伝えやすくまとめる。

【成績評価の方法】

課題 1 と課題 2 の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わない。
実技演習は含まれない。

【教材等】

〇教科書
板屋緑、篠原規行監修『映像表現のプロセス』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

〇学習指導書
『映像メディア表現Ⅰ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	映像メディア表現 II						
授業コード	0760	授業科目名	映像メディア表現 II			担当者	上原幸子教授、山内道彦講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

映像メディア表現Ⅱは写真を使った映像表現を面接授業課題と通信授業課題２つの制作課題を通して学びます。写真は私達にとって大変身近なメディアです。デジタルカメラの普及と更に携帯電話等の様々なモバイル機器にもカメラの機能が搭載されて、写真を使ったコミュニケーションは日常化しています。写真は私達の生活で益々不可欠なメディアになっています。その一方で写真の表現自体は貧弱なものが少なくありません。このような状況にあって写真表現というものを改めて考え直しながら学ぶことは今日の美大生にとって有意義だと考えられます。本科目では写真を撮ることと見ることを通して日常で撮る写真とは違う写真を学び、写真で映像表現をする基礎的な思考を得ることを目標とします。

【課題の概要】

〇面接授業課題
セルフポートレート（自画像）を撮影して、16 枚の写真で構成した作品を制作します。

〇通信授業課題
以下の言葉の中から１つ言葉を選んで、４枚の連続する写真で言葉を表現する作品を制作します。

日本人・21世紀・宇宙・たまご・携帯・東京・光と影・男と女・驟雨（にわかあめ）・宗教・黙示録・時空・鍵・ブラックホール・IT・亜麻色（あまいろ）・親と子・境界・原子力・0（ゼロ）・東風（こち）・夢

＊課題の詳細は学習指導書『映像メディア表現Ⅱ　2024 年度』を参照してください。

【授業計画】

面接授業→通信授業

学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

〇面接授業
面接授業を受講する前に学習指導書の内容をよく読み、可能ならば実際に自画像を撮ってみてカメラの操作などを事前に確認しておいてください。更に作品のアイデアを幾つか考えておくことが望まれます。また撮影で着る服やその他必要な小道具などがあれば用意してください。

第１日　午前　前半： 前提講義。学生の参考作品などを紹介しながら課題制作の手順と本科目の学習で必要な基本知識の手引き。
第１日　午前　後半：クラスに別れて習作（コラージュ）を制作。
第１日　午後：習作（1 枚の自画像）を制作。
第２日　午前：本作品の制作／午後：本作品の制作。
第３日　午前：本作品の制作（写真のレイアウトと仕上げ作業）。
第３日　午後：作品のプレゼンテーション、ディスカッションと学生による作品の評価、講評（採点）。

〇通信授業
学習指導書の内容をよく読み、また面接授業で学んだ内容を確認してから制作に取り組んでください。
１：言葉を選び言葉の意味を確認する。
２：言葉から映像をイメージする。
３：絵コンテの制作１（イメージを基に絵を描くラフな絵コンテ）。
４：撮影１（絵コンテを基に写真撮影をする）。
５：コンタクトシートの制作と写真の確認。
６：撮影２（先の写真の結果から、写真の特徴を考えた撮影を心掛ける）。
７：作品のテーマと表現方法の決定（5、6 を繰り返してテーマと表現方法を見つける）。
８：写真の選択と印刷（作品に係わる写真を選んで印刷する）。
９：映像構成と作品の仕上げ（時間軸に沿う映像進行を考えて写真を配置する）。
10：絵コンテの制作２（最終作品を元に改めて提出するための絵コンテを制作する）。
11：作品のテーマと意図について分かり易い文章で書く。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の評価の平均点とします。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

〇備　　考
履修年次は問いません。

【教材等】

〇教科書
なし
※面接授業時に教員から必要に応じて配付。参考作品などはスライドや他の機器を使用して解説します。

〇学習指導書
『映像メディア表現Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	レタリング						
授業コード	0770	授業科目名	レタリング			担当者	福井政弘教授、木村文敏講師、本多育実講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

情報化社会におけるコミュニケーションは、さまざまな媒体による幅広い展開がみられるが、その基本的なツールとして文字があげられる。文字によって人類の英知は記録され文明は発展してきた。この文明の発祥とともにそれを支えてきた文字は、今日の情報化社会においてもコミュニケーションの基本的ツールの意味は変わることがない。デザインの観点からみれば、マス・コミュニケーションを可能にした印刷による文字、ひいてはその組版（タイポグラフィ）として文字が常に大きな関心事であった。時代は印刷文字のもつ訴求力やイメージや可読性を要求したが、コンピュータのディスプレイに表示される文字が馴染み深い文字になりつつある今日においても、そこに求められる要件に変わりはない。したがって、文字のデザインについて深い見識を得ることはデザインに関わる上での必須の技能といえる。

この科目はそのような意味から、デザイン全般の主要な基礎学習として位置付けられる課題が設定されている。日本で使用されている文字は、いうまでもなく漢字と平仮名・片仮名であるが、ラテン・アルファベットも多用されている。ここでは、印刷やディスプレイ上の基本とされるそれぞれの代表的な書体を書くことによって文字造型の原理を学びたい。また、汎用される書体（フォント）とは異なり、個性的でイメージの差異が求められるロゴタイプなど、広く文字デザインの世界の一端に触れることを意図した課題を出題している。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1
和文・欧文・ロゴタイプのレタリング
1-1. 自分の姓名を和文の基本的印刷書体である明朝体とゴシック体で書く。
1-2. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体であるローマン体とサンセリフで書く。
1-3. 自分の名前のロゴタイプを制作する。

〇通信授業課題 2
和文と欧文のスペーシングの実習。

＊課題については学習指導書『レタリング　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
1. 課題 1（和文・欧文・ロゴタイプのレタリング）を、示された書体サンプルなどを参考にし、まず下書きを行う。3 点とも下書きの段階で提出し、指導を受ける。（1 次提出）
2. 返却された課題 1 の下書きの指導をもとに、課題 1 の作品を完成させる。
3. 課題 2（スペーシング実習）を行う。
4. 完成した課題 1・課題 2、および指導を受けた課題 1 の下書きを提出する。（2 次提出）

【成績評価の方法】

1 次提出は課題 1 の下書きのチェックのみとし評価は行わず、2 次提出（仕上げた作品とチェックされた下書き）で総合的に評価する。科目の評価はすべての作品の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

◯教科書
後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』（武蔵野美術大学出版局　2002年）

◯学習指導書
『レタリング　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

◯DVD 教材
『レタリング』

【その他】

なし

科目名	タイポグラフィ						
授業コード	0780	授業科目名	タイポグラフィ			担当者	清水恒平教授、富田真弓講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

タイポグラフィは活版印刷からDTPまで長い歴史の中で様々な技術的な変遷をたどってきた。数々のルールがあり、習得するには長い時間と訓練が必要である。この授業では、まずタイポグラフィの入口として「文字」の楽しさを感じてもらい、身体を通して文字を学んでもらいたいと考えている。またレポートを作成することで、論理的思考を身につけることも目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題1
文字に関する2つの小課題
文字を観察し模写をする課題とスペーシングの課題により文字を観察する目を養い、文字の世界を広げてもらう。
2つの小課題の制作とレポートをまとめて提出する。

○通信授業課題2
俳句ポスターの制作
提示された俳句を元に、アナログの素材を使って文字のポスターを制作する。
ポスターとレポートをまとめて提出する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『タイポグラフィ　2024年度』に従い、課題を制作する。

【成績評価の方法】

提出された課題評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
・履修年次は問わない。
・以下のコンピュータ環境があること。
1. Illustrator、Photoshopなどの DTP 関連アプリケーションが使える環境が望ましい。
2. インターネットに接続できる。

【教材等】

○教科書
後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』（武蔵野美術大学出版局　2002年）

○学習指導書
『タイポグラフィ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	イラストレーション						
授業コード	0790	授業科目名	イラストレーション			担当者	金子伸二教授、大竹紀美代講師、貞弘和憲講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

制作を通じて、イラストレーションでの表現の幅と可能性を考える。目に見えない現象、内面世界やイメージの世界を視覚化する技法を学ぶ。また、自らが持つ表現技法を拡大し、独自の表現スタイルの確立を目指す。教科書を参考に、イラストレーションのルーツや、現在の可能性、世界観を学び、第三者の鑑賞に耐えうる作品の制作方法を修得する。

【課題の概要】

〇通信授業課題１「写真とイラストレーション」
写真の内容をイラストレーションと文章を使って表現する。一見ばらばらに思える「写真」「文字」「絵」を一枚の紙に構成することで、3 つの表現のバランス感覚を養いながら、イラストレーションの技術を習得する。

〇通信授業課題２「いまの“わたし”に至るまで」
美術を志すきっかけとなった出来事を、イラストレーションと文章を使って表現する。自らの創造の原点を探し、それらを第三者へ伝えるための技術を習得する。

＊課題については学習指導書『イラストレーション　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
・描かれる世界
（イラストレーションとは／未知の世界へのまなざし／見えないものを描く）
・書物とイラストレーション
（書物と挿絵の出会い／書物の中の挿絵／書物と挿絵の出会い／諷刺画がつくり出したイメージと擬人化／挿絵と印刷技術の深いかかわり／挿絵からイラストレーションへ―挿絵本と絵本）
・ことばとイメージ
（絵本におけることばとイメージ／ことばとイメージの相互作用／ことばの視覚化／イメージの視覚化／イメージのひろがり）

【成績評価の方法】

課題作品の評価の平均による。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

◯教科書
今井良朗編著『絵本とイラストレーション―見えることば、見えないことば―』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

◯学習指導書
『イラストレーション　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	絵本						
授業コード	0800	授業科目名	絵本			担当者	金子伸二教授、上原幸子教授、吉川民仁教授、野崎麻理講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

面接授業では、造形的な絵本の制作を通して、文字と図像のレイアウト、造本のしくみなどを実際に体験して学習する。
通信授業では、グラフィック表現による絵本の制作実習を通して、表現として具体化するための方法論と編集デザインの視点から絵本の構造や表現の特性、イラストレーションの表現について学習する。

【課題の概要】

〇面接授業課題「絵本 ―言葉からのイメージ表現」
初めに、見どころのある絵本を実物や映像などで紹介し、展開のおもしろさやイラストレーションと文字の表現、造本の工夫などを学ぶ。そこから学んだことを基に、与えられた素材とテーマに基づいてはさみとのりと色鉛筆による表現で絵本を制作する。
課題は、テーマとして「明るい・暗い」、「うれしい・かなしい」、「曲線・直線」、「高い・低い」など各自、自由に反対語を 1 つ選び、それを基にして構想したストーリーを 12 ページの本の中に表現する。素材は用意された約 30 色ほどのラシャ紙（色画用紙）の中から選び、A4 変形の判型の本の形に製本をしてまとめる。

〇通信授業課題「絵本の制作」
編集デザインの視点を重視したオリジナルの絵本を制作する。1. 既刊の絵本の研究、2. オリジナルのストーリーの作成、又は文章作品の選択、文章と絵の編集、3. 造本計画、4. 素材の選択、5. イラストレーションの制作、レイアウト、6. 製本作業、という手順を通して実際に自己表現を 1 冊の本にまとめる。本の編集、制作を実体験することから本におけるイラストレーションのあり方とブックデザインの成り立ちを考える。
判型は、B4 以内自由、本文 16 ページを綴じて表紙、見返しをつけ、装幀のデザインを施し、本としてまとめられたものとする。素材、内容、表現方法は自由。制作物と共に本の制作過程についての 600～ 800 字程度のレポートを添付する。

＊課題については学習指導書『絵本　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

アイデアスケッチプラン→面接授業→通信授業

面接授業課題を合格してから通信授業課題へ進むこと。

〇面接授業
事前に学習指導書をよく読み、授業にアイデアスケッチプランを持参すること。
第 1 日　午前：参考絵本についての講義・課題説明／午後：絵本制作の実習
第 2 日　全日：絵本制作の実習・製本についての講義
第 3 日　午前：絵本制作の実習／午後：講評

〇通信授業
・教科書を読み、絵本に関する基礎的知識を習得する。
・教科書や学習指導書を参考にすぐれた絵本を鑑賞し、絵本への見識を高める。
・学習指導書に従って、通信授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次〜

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

◯教科書
今井良朗編著『絵本とイラストレーション―見えることば、見えないことば―』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

◯学習指導書
『絵本　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	パッケージデザイン						
授業コード	0810	授業科目名	パッケージデザイン			担当者	福井政弘教授、山﨑淳也講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

我々に最も身近なデザインの一つであるパッケージデザインは広範な知識と技能が常に要求されるデザイン分野である。それは、パッケージデザインが形態・意匠・材料・加工といった要素を多く含み、それらが複雑に作用し成立しているからである。また、パッケージデザインはその対象のほとんどを一般消費者としており、時代によって変化するニーズが常に反映されるものである。

この科目では、パッケージデザインの実際、パッケージの基本概念、パッケージの目的と機能、パッケージの構造デザイン、パッケージのグラフィックデザインを学ぶ中で「パッケージデザインとは何か」を理解していく。さらに現代社会での包装の意味、今日的課題でもある環境問題についても考えていき、パッケージデザインの基本的知識と製作感覚の両方を理解してもらうことを目標とする。

【課題の概要】

〇通信授業課題

1.自分の興味のあるパッケージを 2 つ購入して、それを観察、レポートしなさい。
・パッケージを選んだ理由をそれぞれに述べ、そのパッケージが対象としている人（購買層）、内容物との関連性、価格との関連性、材質・形態・デザインとの関連性について分析する。
・購入したパッケージはレポートに同封すること。
2. 身近にある『米』『あずき』『珈琲豆』『ジェリービーンズ』から一つを選び、包装してこぼれないようにして郵便で送りなさい。
・サイズは、10 センチメートル角の立方体。
・ 材質は限定しない。

＊課題については、学習指導書『パッケージデザイン　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業

通信課題を行う過程で、以下の切り口を段階的に学んでゆくことが求められる。
・パッケージデザインの実際
・パッケージの基本概念
・パッケージの目的と機能
・パッケージの構造デザイン
・パッケージのグラフィックデザイン

【成績評価の方法】

提出された課題の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

◯教科書
白尾隆太郎監修、福井政弘＋菅木綿子著『パッケージデザインを学ぶ　基礎知識から実践まで』（武蔵野美術大学出版局　2014年）

◯学習指導書
『パッケージデザイン　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
・フミ・ササダ『CIKTMUPS パッケージデザインのすべて』（宣伝会議ビジネスブックス 2011年）
・岡秀行『包：日本の伝統パッケージ、その原点とデザイン』（コンセント　2019年　新装再編集版）
・小玉文『パッケージデザインの入り口』（エムディエヌコーポレーション　2021年）

科目名	ファッションデザイン						
授業コード	0820	授業科目名	ファッションデザイン			担当者	荻原剛教授、上原幸子教授、中澤小智子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

ファッションを単なる身体装飾と考えず、身体をめぐる芸術表現と捉えて研究します。
美術大学ならではの、アートやコミュニケーションまた空間演出など、隣接する領域との融合を視野に入れて、作品制作に取り組みます。
より豊かな発想力としなやかで柔軟な感性を目指し、個性に磨きをかけ、技を鍛え、表現のトレーニングを続けることで、立体的な思考と空間的な表現が出来ることを目標としています。
あなた独自の視点で課題に取り組むことで、ファッションの新たな可能性を発見すると共に、表現手段としてのファッションは、奥行きのある多様性豊かな領域であることを体感してください。

【課題の概要】

〇通信授業課題（素材研究）
面接授業でのスカーフ制作に必要な素材研究とは、材料の布に限らず、色、形、質感や機能も含む制作しようとするスカーフの全てに関わる事を意味している。スケッチブックをもとにサンプラーを作成し、春期スクーリング初日（5 月 24 日）もしくは冬期スクーリング初日（11 月 22 日）に持参、提出する。
※ 提出期日厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

〇面接授業課題（スカーフ制作）
通信授業でつくったスケッチブックをもとに、自由な発想でオブジェ感覚の表現としてのスカーフ「身につけるアート」を制作する。面接授業の前に授業時間内に完成可能なデザインのラフ案および素材をいくつか準備しておく事が望まれる。尚、材料は布に限らない。制作したスカーフを身につけて発表する。

【授業計画】

通信授業→面接授業

〇通信授業
学習指導書『ファッションデザイン　2024 年度』を参照。
通信授業課題はスクーリング初日に持参すること。
※ 事前提出不可

〇面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の制作過程及び制作結果を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

〇学習指導書
『ファッションデザイン　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

面接授業では、最終日に発表がある。

科目名	図法製図 Ⅰ						
授業コード	0830	授業科目名	図法製図 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、柴田克哉講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

―情報の視覚化―
我々の身の回りには、様々な「モノ」が互いに関係し合いながら機能し、我々の生活を支えている。これらの「モノ」たちは、多くの人の手や様々な過程を経て我々の手元に届くが、それら「モノ」たちの生産にあたっては、客観的で正確な情報のやり取りがあって初めて可能になる。
図法製図Ⅰでは、情報を正確に伝えるための表現手法である製図について、その図法原理に触れながら基本的な考え方と表現の方法を学ぶ。また、我々にとって自らが思い描いた立体、空間のイメージを絵画的な表現として表すことは、製図表現と合わせて欠くことの出来ない伝えるための技術であることから、図法的な原理である透視図法の基本的な考え方についても学ぶ。

【課題の概要】

図法原理に則った製図と透視図法の諸規則の理解と修得。

○通信授業課題 1
平面図形の描き方と立体図形の図面表記。

○通信授業課題 2
図法原理に則った図面表記と透視図法に則った立体図形の絵画的表現。

＊課題については学習指導書『図法製図Ⅰ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書『図学・製図』及び、学習指導書『図法製図Ⅰ』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

2 通の第 1 回作図レポートの評価と第 2 回作図レポートの評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
堤浪夫『図学・製図』（武蔵野美術大学　2002 年）、補遺

○学習指導書
『図法製図Ⅰ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	図法製図 II						
授業コード	0840	授業科目名	図法製図 II			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、柴田克哉講師、永井賢講師、平野佳乃講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

―情報伝達とスケッチ―

我々の身の回りでは、様々な「モノ」が互いに関係し合いながら機能し、我々の生活を支えています。これらの「モノ」たちは、多くの人の手や様々な過程を経て我々の手元に届きますが、それら「モノ」たちの生産には多くの人々が関与し、その関与の連鎖は「客観的で正確な情報のやり取り」があって初めて可能になります。
図法製図IIでは、図法製図Iで修得した図法的な原理を踏まえ、製図表現と透視図法の理解を深めると共に、自らのアイディアを育て定着させ、提案に至るために必要な立体・空間の把握と、それらを表現するために必要なスケッチの描き方を、課題制作を通して学びます。

【課題の概要】

製図と透視図法の諸法則について理解を深め、より広い活用方法を修得する。

○通信授業課題
＜製品の実測と製図＞
身の回りにある工業製品を実測し製図におこす。

○面接授業課題
＜スケッチ、三面図、展開図による立体表現の学習＞
ペーパーモデルの制作と立体把握の学習。

通信授業課題と面接授業課題の受講順序は問いませんが、面接授業→通信授業を推奨します。

＊課題については学習指導書『図法製図 II 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『図法製図II』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

○面接授業
第１日　前提講義 課題説明
　　模型製作
第２日　制作した模型を実測し図面表記とスケッチ表現
第３日　制作した模型を実測し図面表記とスケッチ表現
　　講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 ～ 4 年次

○履修条件
「図法製図 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。または相当の学習歴を有すること。

○備考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

＜面接授業での持参物について＞
別冊の「スクーリング持参物」を参照し、製図を行う基本的な道具は各自用意すること。

＜面接授業でのPCの利用について＞
図法製図IIの面接授業課題では紙と鉛筆を使用した作図（製図）を行いますが、PCも筆記具のひとつと捉えてPCでの作図も許可します。PCでの作図を行いたい方は各自PCを持参してください（通信授業課題は手描きで行ってください）。

・PCでの作図は原則Adobe Illustratorで行うものとします。
・授業では教室に設置したPC（Mac）とプリンターを使用して出力します。
・PCの授業ではないためIllustratorの使い方はサポートしません。PCでの作図を行う場合は、最低限、デジタル造形基礎IとIIの履修、もしくは相応のスキルセットがある状態で取り組んでください。
・PCはWindowsでもMacでも構いませんが、WindowsユーザはUSB-Cでデータをやりとりできる記憶媒体を持参ください。

【教材等】

○教科書
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

○学習指導書
『図法製図 II　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

○参考文献
堤浪夫『図学・製図』（武蔵野美術大学　2002 年）（「図法製図 I」の教科書）

科目名	マルチメディア基礎						
授業コード	0850	授業科目名	マルチメディア基礎			担当者	清水恒平教授、渡辺真太郎講師
開講期間	通年	単位数	3単位 （T2、S1）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　面接授業						

【授業の概要と目標】

テレビ・PC・スマートフォン・タブレットなど、情報との接触機会は社会生活の多くの場面で非常に多様化してきています。また、Google 検索、YouTube、Facebook、LINE、X、etc…といったWeb サービスや SNS などから、様々なマルチメディアコンテンツ（映像・写真・音・テキスト）に触れる機会が増えてきています。

本科目では、そのようなマルチメディアを取り巻く環境と特性を把握した上で、「作り手としてマルチメディアと向き合うこと」の基礎となる映像・写真・音・テキストを使ったデジタル表現の入り口に触れ、主に PCを中心とした触覚・聴覚・視覚に作用する心地よい表現のノウハウと手法の基礎を学びます。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1
学習指導書『マルチメディア基礎　2024年度』に提示されるテーマから、10 個以上の事例を探してレポートを作成する。
主に PC ／スマートフォン向けの様々な Web サイトを閲覧し、マルチメディアの表現手法をテーマに沿って読み解くことを目的とする。

〇面接授業課題
課題発見ワークショップと、それを元にしたマルチメディア作品の制作。
3 日間のうち、初日はムービーを使用したレポートの制作・発表を行い（グループワークを想定）、残り2日間で PC 用アプリケーションを使用したマルチメディア作品の制作・発表を行う（具体的な内容はスクーリング当日に告知）。

〇通信授業課題 2
学習指導書『マルチメディア基礎　2024年度』に提示されるテーマで、シンプルなアニメーション作品を制作。規定の Web サービス上（YouTube、Vimeo、Tumblrなど）にアカウントを開設し、作品をアップロードする。
本カリキュラムを通じ、マルチメディアコンテンツで行われている表現の工夫に触れ（通信授業課題 1）、マルチメディア表現の入り口となる制作を実践し（面接授業課題）、テーマに沿って制作した作品をインターネット上に公開する（通信授業課題 2）この一連の流れを体験・学習することで、制作者としてのマルチメディアコンテンツへの向き合い方の基礎を作ることを目的とする。

【授業計画】

面接授業では、通信授業課題 1 の成果を前提とした学習を行うので、予め提出しておくことが望ましい。

【成績評価の方法】

通信授業・面接授業の課題評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
履修年次は問わないが、1 ～ 2 年次までに履修するのが望ましい。
以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
・ Macintosh または Windows で、Web ブラウジング・電子メール送信が可能な環境を有すること。
・ レポート作成の編集作業ができるソフトウェア（PowerPoint、Word、Keynote など。Google ドライブなどの Web アプリケーションでも構わない）。
・ 画像加工・動画編集が可能なソフトウェア（Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Animate、iMovie など）。
・スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。
・スクーリングの約 1 週間前にWebキャンパス上で資料のURLを掲載する。資料は事前に確認をしておくことが望ましい。またスクーリング当日もアクセスできるよう準備すること。

【教材等】

〇教科書
清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局　2016年）

〇学習指導書
『マルチメディア基礎　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

〇面接授業について：グループワークを行う可能性があります。

科目名	コンピュータ基礎 Ⅰ						
授業コード	0890	授業科目名	コンピュータ基礎 Ⅰ			担当者	清水恒平教授、須田拓也講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日常生活のみならず美術やデザインの分野においてもコンピュータの利用は不可欠であるが、各分野の専門や個々人でその利用方法は様々であるのが現状だろう。色々な用途に使用できるがゆえに、コンピュータを日常的に使用している人たちの間でも理解の範囲に差が生じることがある。この科目では特定のソフトウェアの使用方法に主眼は置かず、日常生活や各専門分野でコンピュータを利用する上で、最低限理解しておいた方が良い基礎知識・技能の習得を目指す。それは他の分野の人々と共にコンピュータを利用する場面があったとしても、同じ言葉で話せるようになることを目標とすることでもある。

コンピュータサイエンスの分野では、一般の使用者がわからないままにしがちな基礎として、ハードウェアやソフトウェアの仕組み、プログラミングの基礎知識や技能、情報通信の基本、情報理論やコンピュータの歴史などがある。またそれらの応用としてコンピュータの社会・研究などへの活用事例、例えば美術やデザインの分野での先進的利用、情報機器による計測及びその制御、モデル化とシミュレーション及びその可視化などといった事例を知っておくことも重要である。

授業では美術やデザインの分野で必要なコンピュータ関連の基礎知識の習得はもちろんのこと、上記のようなコンピュータサイエンスの分野におけるコンピュータの基礎に関する講義、実験などを適宜盛り込みつつ、それらの総合的な理解を目標とする。その理解は美術やデザインの専門分野において、基礎的な知識を応用しコンピュータを有効に利用できるようになることにつながると考えている。

【課題の概要】

〇面接授業課題
前半は、小課題が出題される。また全日を通じ各種データを作成する課題制作を行う。

【授業計画】

〇面接授業
各日、ハードウェアの性能、コンピュータで扱う数値・文字・色・画像・音、ネットワーク、プログラミングなどのテーマを設定し、講義、実習、課題制作を行う。主な実習内容は以下の通り。
・各種ハードウェア機器・部品の性能調査
・バイナリエディタを使用したテキストファイル、画像ファイルの作成
・音声ファイルの編集
・動画ファイルの作成
・ネットワーク環境の調査
・Processing を使用したプログラミング実習
その他、補足的な講義・実習も併せて行われる。

【成績評価の方法】

各課題の評価を総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

◯備　　考
・履修年次は問わないが「コンピュータリテラシーⅠ」程度の知識は有していること。学1課程は「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」学2課程は「デザイン基礎ⅡA・B」を受講する学生は事前に本科目を履修していることが望ましい。
・授業で使用するコンピュータは Macintosh を予定しているが、授業内で基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Web ブラウザを使用した Web の閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
・「基礎」イコール「簡単」というわけではない。基本操作に自信がない人は必ず事前に「コンピュータリテラシーⅠ」を履修すること。
・スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

◯参考文献
・ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト　久保田晃弘監訳　吉村マサテル訳『FORM ＋ CODE　デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ビー・エヌ・エヌ新社　2011年）
・佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局　2018年）
・Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン　2011年）

◯面接授業について：テーマによりペアワーク・グループワークを行う場合があります。

科目名	コンピュータ基礎 II						
授業コード	0900	授業科目名	コンピュータ基礎 II			担当者	清水恒平教授、井上智史講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

現在では、コンピュータを使用するといっても、ソフトウェアの使用方法を覚えれば、ある程度の作業はできてしまう。しかし、専門的な分野におけるコンピュータの活用方法を考えるためには、ソフトウェアが行う処理、プログラムへの理解が必要となる。その理解は、美術やデザインの分野でいえば、他人が作った道具だけによらない作品制作やデザイニングの可能性を開くことにつながるだろう。

この科目では、コンピュータ・プログラムによって平面作品を制作する。その作業を通じ、プログラミングの基本はもちろんのこと、制作の手順そのものに自覚的な態度を身につけること、コンピュータを制作に使うことのメリットや意義について考えること、を目的とする。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1
プログラムでヴィジュアルを作ろう
［基本：コンピュータ・プログラムを使う面白さを意識する］

〇通信授業課題 2
プログラムでヴィジュアルを作ろう
［応用：作品の作り方を作ることを意識する］

＊課題については、学習指導書『コンピュータ基礎 II　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業

学習指導書や教科書の該当箇所を確認しながら課題を進めることになる。教科書や学習指導書だけで課題の進行が困難な場合には、Web サイトやその他の参考文献を各自参照し、課題を進めること。

【成績評価の方法】

各課題の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
なし

〇備　　考
・履修年次は問わないが、「コンピュータ基礎 I」を事前に履修するか、同程度の知識を持っていることが望ましい。
・学1課程は「情報システム基礎 I・II」、学2課程は「デザイン基礎 IIA・B」を受講する学生は本科目を履修することが望ましい。
・下記の条件を満たすコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。
・インターネットに接続でき、Web ブラウザを利用できること。
・テキストエディタ、ワープロなど、文章を編集できるソフトウェアが利用できること。
・プリンタを所有するか、利用できることが望ましい。

【教材等】

◯教科書
『［普及版］ジェネラティブ・アート―Processing による実践ガイド』（マット・ピアソン著　久保田晃弘監修　沖啓介訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2014）

◯学習指導書
『コンピュータ基礎 II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
・『Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平』（Hartmut Bohnacker、 Benedikt Gross、 Julia Laub　Claudius Lazzeroni 編　THE GUILD（深津貴之、国分宏樹）監修　安藤幸史、杉本達應、澤村正樹訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2016）
・『FORM ＋ CODE　デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト　久保田晃弘監訳　吉村マサテル訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2011）

科目名	デジタルファブリケーション実習						
授業コード	2490	授業科目名	デジタルファブリケーション実習			担当者	清水恒平教授、成田達哉講師
開講期間	通年	単位数	1単位（S1）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

近年のものづくりは、デジタル機器の発達により、大きく変化しています。3D プリンターやレーザー加工機といったデジタル加工技術が急速に発達し、これまでの手作業によるもの作りとは違う可能性が広がっています。また、Arduino のような小型のマイコンボードを使用することで、モーターやサーボといったアクチュエーター、距離センサーや圧力センサーなどを比較的簡単に扱うことができるようになりました。これらの技術を利用することで、これまでは難しかった実際に体験出来るプロトタイプを比較的短い時間で組み上げることが可能になりました。このような流れは近年ますます活発になっています。

本科目は、そのようなデジタル技術への導入となるものです。作品制作を通して、簡単な電子工作やレーザー加工機を扱うためのデータ作成方法を学ぶことで、デジタルファブリケーションの基礎的な知識を習得することを目的とします。

【課題の概要】

○面接授業課題

人の動きに反応するデバイスを制作しなさい。制作はプログラミング可能なマイコンボードと人の動きを検知するセンサーや電子部品などを用いて、動きの取得や振る舞いをプログラミングし、3D プリンタを始めとするデジタルファブリケーション機器を用いて外装や固定治具を製作すること。

【授業計画】

○面接授業

1 日目　前提講義 ／アイデア発想および中間発表
2 日目　制作
3 日目　制作 ／プレゼンテーション／講評

【成績評価の方法】

制作した作品と制作過程、プレゼンテーションの内容によって評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
・履修年次は問わないが、プログラミング（Arduino)やAdobe Illustratorによるデータ作成を行うため、学1課程は「コンピュータリテラシーIII 」 学2課程は「デジタル造形基礎I 」程度の基本的なコンピュータ操作ができること。
・学1課程は「情報システム基礎I 」、学2課程は「デザイン基礎IIA」、両課程ともに「コンピュータ基礎I 」「コンピュータ基礎II 」を受講済みであること、あるいはProcessingなどの初歩的なプログラミングスキルを有することが望ましい。
・スクーリング時に、 受講人数を制限する場合がある。
・受講に際して、バックアップ用のUSBメモリを持参すること。
・この授業では、自己の制作物のため、貸与品以外の資材を購入、持参することがあります。（購入を強制するものではありません。）

【教材等】

グループに一台ずつデバイス開発キットを貸与します。

【その他】

○面接授業について：グループワークを行う。

科目名	絵画 Ⅰ						
授業コード	0920	授業科目名	絵画 Ⅰ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科絵画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

静物を描く。

物の見方や造形の考え方を学ぶ上で、最も普遍的なモチーフに静物がある。初めは、食物、植物の自然形態や器物等により、モチーフの造形的性格や意味を知り、また相互の組立てや構図構成を心ゆくまで追求することができる静物画を学ぶ。

通信授業、面接授業を通して、静物をモチーフに制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題　「静物を描く」
1-1　植物や器物などの静物を対象に様々な視点から取材をする。
1-2　1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　植物や器物などの静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

○面接授業課題　「静物を描く」
1-1　組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由。
1-2　組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。15～20号キャンバス。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画Ⅰ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（木炭デッサン）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（油彩）
第５日　午前：講義・制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
油絵学科絵画コース指定科目。
絵画コース進学希望者は 1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。
絵画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

科目名	絵画 Ⅱ						
授業コード	0930	授業科目名	絵画 Ⅱ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科絵画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。
何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（６日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

○通信授業課題　「人を描く」
1-1　自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。
1-2　1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンバス１点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

○面接授業課題「人物を描く」
1-1　人物(ヌード)1名を配置し、油彩またはアクリルで制作する。15～20号キャンバス、または同等サイズの任意の用紙1点以上。
1-2　人物(着衣)1名を配置し、油彩またはアクリルで制作する。15～20号キャンバス、または同等サイズの任意の用紙1点以上。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）
　　午前：裸婦　午後：着衣
第２日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第３日　制作　午前：裸婦　午後：着衣→中間講評
第４日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第５日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第６日　制作　午前：裸婦　午後：着衣→講評
※ 上記の日程は、開講時期により異なる場合があるために、スクーリング持参物冊子を参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「絵画 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科絵画コース指定科目。
絵画コース進学希望者は2年次に履修すること。絵画コース 3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「絵画 I」を同時に履修する場合は、「絵画 I」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画 Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には学習の冒頭（通信授業課題に取り組む前、スクーリング受講前）にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

科目名	日本画 Ⅰ						
授業コード	0940	授業科目名	日本画 Ⅰ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科日本画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な初歩としての基礎知識、素材と道具の種類、名称、扱い方を学び、日本画独自の材料である岩絵具、和紙、墨、筆、膠等に親しむ。

通信授業では、制作に必要なデッサンとして、モチーフの見方、観察の仕方、制作のためのデッサン法を学ぶ。面接授業では、日本画制作に取り組むことで、墨による骨描き、たらし込み、彫り塗り等の基本として日本画の表現法を学び、制作に必要な使用法を習得、準備から完成までを体験することで、制作手順及び素材の扱い方を知る。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「デッサン」
モチーフを良く見て観察し、画用紙に鉛筆デッサンをする。
・5 種類の花をモチーフにデッサンをする（部分的、クロッキー的、記録的な要素をふまえる）。
・花をモチーフに、細密描写をする。
・季節の野菜や果物をデッサンする。

○通信授業課題 2「筆の使い方」
筆の使い方、特性を知ることを目的に日本画筆を用いて描く。
・筆を用いて墨で描く。
・筆を用いて彩色する。

○面接授業課題「日本画を描く」
・与えられたモチーフをもとに日本画絵具を使い、F15 号以上の画面に紙本彩色を通して、用具の扱い方及び制作するための基礎となる準備から完成までの工程を行う。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画 Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』の「日本画 Ⅰ」、教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」をもとにした授業。

○面接授業
第1日　　午前：前提講義／午後：制作のためのデッサン
第2日　　午前：トレース・水張り／午後：転写・骨描き
第3日　　午前：下地作り／午後：制作
第4～5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
油絵学科日本画コース指定科目。
日本画コース進学希望者は、１年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。日本画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画 Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 Ⅱ						
授業コード	0950	授業科目名	日本画 Ⅱ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科日本画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

風景をテーマに、自然と向き合いながらその美しさを体感し、日本画の扱い方や表現方法を学びながら独自の視点で捉えた制作を試みる。

通信授業では、風景デッサンと日本画制作を行う。面接授業では、日本画制作を通して、小下図、大下図の作り方等の基礎的なプロセスをさらに深め、岩絵具の発色の工夫、基底材としての和紙、マチエール等、画面上で日本画の素材がもたらす効果を研究し、描き方としての基礎知識の再確認と、素材を十分に扱いこなす描法を習得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「風景デッサン」
身近な風景をモチーフに、自己が美しいと思う場所を探し、画面の中にどの様に入れて描けば風景としての広がりや対象物の面白さが出るかを考え、次のテーマでデッサンをする。
・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
・興味深い場所や、特徴的な視点で選んだ対象をデッサンする。
・風景をモチーフに、色を用いてデッサンをする。

○通信授業課題 2「風景制作」
描いたデッサンをもとに小下図、大下図及び日本画絵具を使い、F15号の紙本彩色による制作をする。

○面接授業課題「風景制作」
風景をモチーフに写生と日本画絵具を使い、F15号以上の紙本彩色による制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画 Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』の「日本画Ⅱ」、教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
第1日　　午前：前提講義および制作のための風景デッサン／午後：デッサン
第2日　　午前：前提講義および下図・下地作り／午後：制作
第3日　　午前：制作／午後：制作
第4～5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評
※ 学内取材あり。第 1 日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「日本画Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科日本画コース指定科目。
日本画コース進学希望者は 2 年次に履修すること。日本画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「日本画Ⅰ」を同時に履修する場合は、「日本画Ⅰ」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅰ						
授業コード	0960	授業科目名	版画 Ⅰ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科版画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念によって結ばれている。

通信授業では、拓摺り、紙版画という凸版の表現を中心に、試行する。凸がかたちづくる形象を紙へと写し取り、これを体感することで版表現の基礎として学習していく。拓摺りでは乾式と湿式の異なる方法を試行する事によって凸版の可能性を探り、紙版画の版制作では、レリーフ状の画面を作る。このレリーフの凸部を写し取ることによって表象される形態をいかに紙の上へ導き出すか、表現として取り組むことが前提にある。面接授業では、「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。版を使うことにより、まず造形的課題を明確にすることを目標にする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「拓摺り（乾拓・湿拓）とコラージュ」
1-1　任意の形に拓摺りし、台紙上にそれらを貼り合わせて作品を制作する。
1-2　拓摺りや印刷物を組み合わせてコラージュした作品を制作する。

○通信授業課題 2「紙版画」
2-1　紙版の制作とその拓摺りをする。
2-2　紙版画を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」
1-1　「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。
・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm
・「リトグラフ」イメージサイズ：28cm×40cm 程度

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「版画Ⅰ」、教科書『新版 版画』の第 2 章「拓摺り・コラグラフ」を参照して、制作を進める。

○面接授業
・「木版」または「リトグラフ」（選択）
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
油絵学科版画コース指定科目。
版画コース進学希望者は 1 年次に履修すること（２年次編入学生は 2 年次）。版画コース３年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（版画コース進学希望者を除く）。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅱ						
授業コード	0970	授業科目名	版画 Ⅱ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（油絵学科版画コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

版画は直接的に紙やキャンバスなどの支持体に描くのではなく、「版」という媒体を使って間接的に絵を作っていく技法である。そこには様々な魅力や造形的発見があり、また「版」を用いることで造形上の問題点が明確化したりする。

通信授業では、「木版画による色見本」制作をとおして、摺り取られた図像の色や表情の多様さを知る。「板目木版」では、多くの素材、技法に触れて木版画の基礎を学ぶ。面接授業では、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。版を使うことにより、まず造形的課題を明確にすることを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「板目木版による色見本」
1-1　「木版画による色見本」を制作する。

○通信授業課題 2「板目木版」
2-1　「板目木版画」を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」
1-1　「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。
・「銅版」イメージサイズ：15cm×18.2cm
・「スクリーンプリント」イメージサイズ：A4 程度、30cm×42cm 程度（各 1 点）

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「版画 Ⅱ」、教科書『新版 版画』の第 2 章「木版画」を参照して、制作を進める。

○面接授業
・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「版画 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科版画コース指定科目。
版画コース進学希望者は 2 年次に履修すること。版画コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「版画 I」を同時に履修する場合は、「版画 I」のスクーリングを先に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（版画コース進学希望者を除く）。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画 I・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	プロダクトデザイン Ⅰ						
授業コード	0980	授業科目名	プロダクトデザイン Ⅰ			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、森史子講師、山本博一講師、奥村梨枝子講師、永井賢講師、三澤直也講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

生活環境の考察―ヒト、モノ、コトの関係から学ぶ―
我々の身の回りには様々な「モノ」が存在し、互いが密接に関係し合いながら我々の生活を支えている。言い換えれば、我々の身の回りには、暮らしをより便利に、快適に過ごすために様々な機能を持った生活機器や建築物が用意され、我々の多様な暮らしを可能にしている。
プロダクトデザインⅠの通信授業課題では、実際の機器デザインや空間デザインを行うにあたって、求められる様々な要件とはどのようなことなのか、生活者の視点から「ヒト、モノ、コト」の関係を調査し、問題の抽出から始まる思考のプロセスについて、課題の制作を通して体験的に学び、デザイン行為の基本的な方法を学ぶ。
面接授業課題では、自身のアイディアを定着させ、提案に至る造形的なコミュニケーションの手段である「描く」「示す」といったスケッチや図面的 表記の技術を高め、提案者としての基礎力を養う。

【課題の概要】

〇通信授業課題１
身近な生活空間や生活機器を選出し、自分自身との関係を明らかにする中で、生活空間や生活機器の機能や役割を考察し、自分自身と生活機器との関係を調査し、その結果を考察し、評価する。

〇通信授業課題２
暮らしの起点となる身近な空間を調査し、実態を明らかにする。その後、「居心地の良さ」をテーマに改善点をワークシートにまとめて提出する。

〇面接授業課題
立体・空間デザインを行うにあたって必要となる表現技術の重要性を認識し、課題制作を通して表現技術のトレーニングを行う。

【授業計画】

〇通信授業
教科書および学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

〇面接授業
前半(第１日・第２日)　前提講義・課題説明
　　透視図法を応用したスケッチトレーニング１
　　(図面化された立体図形の描き方)
後半(第３日・第４日)　透視図法を応用したスケッチトレーニング２
　　(図面化された空間図形の描き方)
　　講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業それぞれの評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備考
工芸工業デザイン学科 生活環境デザインコース指定科目（学籍番号の上3桁が186、190、197、202、212の学生は生活環境デザインコースに進学することはできません）。
生活環境デザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『プロダクトデザインⅠ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	プロダクトデザイン Ⅱ						
授業コード	0990	授業科目名	プロダクトデザイン Ⅱ			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、森史子講師、相野谷威雄講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

立体物や空間のデザインにおいては機能と用途を根幹とした形態のあり方と同時に、感性に応える美しい造形も求められる。「プロダクトデザインII」の通信授業科目では道具や空間の用途や構造、寸法と使い勝手や美しさの関係を分析・理解することで、自らの発想の源泉となる立体物や空間の「分かり方」を学ぶ。

面接授業では自ら道具を作り出すことで、「分かり方」から発想していくデザインの基本的なプロセスを学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題１［手の動作と機能の関係考察］
・道具の機能と用途と形態の関係を考察しレポートする。
・道具の機能と手の動作の関係をスケッチで表現する。

○通信授業課題２［空間と印象の関係考察］
・身近な空間（あるいは興味のある空間）を選び、その実態を調査しレポートにまとめる

＊詳細は学習指導書『プロダクトデザインⅠ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

○面接授業課題
機器に求められる機能、造形的な美しさ、身体性との調和など、制作の前提となるテーマ、コンセプトを立案する。モノづくりの楽しさと基本プロセスを、具体的なモデル制作を通して体験する。

・「はこぶ」という具体的な体験を通して、機器デザインに必要な条件を抽出し、造形の美しさとの調和を図りながら「はこぶ器」を提案する。
・はこぶモノ、はこぶ人、はこぶ状況など、シーン（場面）によって、はこぶ造形は変わる。「水」を「はこぶ」という行動からどのような造形が提案できるか。具体的なシーンを想定し、はこぶ造形を考える。
・どのようにしたらより安定させて、より遠く、より早く、楽しく、はこぶことができるか。いろいろな方法を試しながら精度を高めていく。

【授業計画】

○通信授業１
・機能の異なる道具を使う手の様々な使用状態をスケッチで表現する。
・道具の使い勝手を評価しレポートする。

○通信授業２
・身近な空間（あるいは興味のある空間）を選び、その実態を調査しレポートにまとめる。

○面接授業
前半
第１日　前提講義・課題説明、シーン設定、スケッチ・ラフモデル制作
第２日　スケッチ・ラフモデル制作

後半
第３日　ファイナルモデル制作・評価
第４日　プレゼンテーション計画・準備、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
「プロダクトデザイン I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
工芸工業デザイン学科 生活環境デザインコース指定科目（学籍番号の上3桁が186、190、197、202、212の学生は生活環境デザインコースに進学することはできません）。
3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

○学習指導書
『プロダクトデザイン I・II　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

・面接授業の作業に際し、濡れても構わない服装を考慮すること。

科目名	インテリアデザイン Ⅰ						
授業コード	1000	授業科目名	インテリアデザイン Ⅰ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、奥村梨枝子講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

私たちは、毎日様々な空間で暮らしているが、優れた空間は便利さや快適性に加え、時には、安らぎや安心感を与えてくれる。空間とは、そこに暮らす人、使う人、感じる人、すべての人の行為があって初めて空間として認識されるものである。

ここでは、我々の暮らしの起点となる身近な空間のデザインを通して、空間とは、機能とは、表現とはという空間デザインの基本的な考え方と表記の基礎を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「住空間のリサーチ」
普段なにげなく見過ごし、暮らしている空間を意識して独自に評価してみることで、“視る事”そのものがデザインの基本であることを学ぶ。

○通信授業課題 2「空間製図とイメージスケッチ」
空間デザインを学んでゆく上で基本的な空間表記の基礎を学ぶ。

○面接授業課題「身近な空間のデザイン」
身近な空間の模型制作を通して、テーマ、コンセプト、プランニングまでの基本的な考え方を学ぶ。

【授業計画】

○通信授業
通信授業課題 1「住空間のリサーチ」
写真と図面等で少なくとも 3 点以上の住空間をリサーチし、それぞれに独自の批評を加えて、レイアウトを含めたレポートを作成する（スケッチ可）。

通信授業課題 2「空間製図とイメージスケッチ」
面接授業で制作した身近な空間の制作意図、平面図、立面図（4 面）、断面図、イメージスケッチを制作する。

○面接授業「身近な空間のデザイン」
指定された空間を自由にイメージし、イメージに叶う模型を制作する。
第 1 日　オリエンテーション、テーマ、コンセプト、プランの作成
第 2 日　モデル制作
第 3 日　モデル制作
第 4 日　モデル制作、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

○通信授業
評価軸を発想、展開、表現に分け、さらに総合的に評価する。

○面接授業
上記に加え、制作プロセス（過程）を評価する。成績評価は総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目（学籍番号の上3桁が186、190、197、202の学生はスペースデザインコースに進学することはできません）。
スペースデザインコース進学希望者は 1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。
スペースデザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある（スペースデザインコース進学希望者を除く）。

【教材等】

○教科書
寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『インテリアデザインⅠ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

面接授業の中で、デザインや製図に必要な道具など基礎的な説明があります。空間デザインに関して初めての学生は、通信授業よりも先に面接授業を受講するのもよいかもしれません。

科目名	インテリアデザイン Ⅱ						
授業コード	1010	授業科目名	インテリアデザイン Ⅱ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、竹中義明講師、奥村梨枝子講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

我々の身の回りに存在する空間は、我々の求めに応じ様々な工夫がなされ、我々の暮らしを支えている。
インテリアデザインⅡの面接授業では、集い、憩い、楽しむといった空間全般に見られる様々な現象や出来事を、観察を通して読み解き、そこから生まれる印象(イメージ)を造形表現するまでの過程を体験し、デザインの原初的な生成のプロセスを学ぶ。 通信授業では、身近な街(商店街など)を対象に、その実態観察を通して把握し、課題制作を通して提案に至る基本的な方法論を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題１「身近な空間のデザインサーヴェイ」
課題図書の中から一点を選び、自分なりの評価をし、その手法に倣い地域の調査を行い、その成果を提出する。

○通信授業課題２「デザインサーヴェイから導かれる空間の提案」
通信授業課題１の成果を踏まえ、地域の特性や人々の活動に配慮した具体的な空間提案を行う。

○面接授業課題「印象の造形化」
本学鷹の台校キャンパスの調査（デザインサーヴェイ）を通して、空間やそこを行き交う人々の実態を客観的に読み取り、その印象を造形表現として提案する。

＊課題については学習指導書『インテリアデザインⅠ・Ⅱ 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

［面接授業4日間］
前半
第１日　前提講義・課題説明
　　現地調査・ワークショップ
第２日　現地調査・ワークショップ
　　作品制作

後半
第３日　作品制作
第４日　作品制作
　　発表、講評

【成績評価の方法】

○通信授業
評価軸を発想、展開、表現に分け、さらに総合的に評価する。

○面接授業
上記に加え、制作プロセス（過程）を評価する。成績評価は総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
１年次～

○履修条件
「インテリアデザインⅠ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース指定科目（学籍番号の上3桁が186、190、197、202の学生はスペースデザインコースに進学することはできません）。
スペースデザインコース進学希望者は 2 年次に履修すること。
スペースデザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「インテリアデザインⅠ」を同時に履修する場合は、「インテリアデザインⅠ」のスクーリングを先に受講すること。
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある（スペースデザインコース進学希望者を除く）。

【教材等】

○教科書
寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『インテリアデザインⅠ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

・学内実習(現地調査とワークショップ)あり。
・キャンパスの調査ではスマートフォンのカメラを使用します。プリントアウトにあたり、AndroidユーザはデータをAndroidユーザはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-AもしくはC)を各自用意ください。デジタルカメラの使用も可能です。
・制作に必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
・検討に必要であれば、自らのノートPCやタブレット類の持ち込みを可とします。

科目名	グラフィックデザイン基礎 Ⅰ						
授業コード	1020	授業科目名	グラフィックデザイン基礎 Ⅰ			担当者	福井政弘教授、木多美紀子講師、山口弘毅講師、上田和秀講師、高崎葉子講師、和田明広講師、竹山加奈子講師、清水 智子講師、野呂麻美講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

コミュニケーションのための有効な手段として発達してきたグラフィックデザインの総合的な基礎概念を把握し、その目的とさまざまな方法論を考察する。ここでは、「見ること」「伝えること」という具体的な事例を探求しながら、印刷メディアの登場から現在のマルチメディアに至る流れを学習する。特にグラフィックデザインを「自ら学ぶ」という姿勢と、見ること、観察することに重きを置き、科学的な理解のうえでの視覚的習熟を目的とする。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、デザインの実務において必須となる色・形・構成やグラフィックデザインの基礎を指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題１　色・形・構成１「オリジナル・パレット」
身近なところからさまざまな素材を色として採集。集めた物質としての色を基に、色を再現し、その関係性と構成を考える。

〇通信授業課題２　色・形・構成２「動物園に行こう」
架空の動物園を想定してバナー等のデザインをする。動物の形態や色彩構成を考える。

〇面接授業課題
・ピクトグラム［歩く・走る・跳ぶ］
講義とワークショップを通して、「ことばによる伝達」と「見ることによる伝達」の差異を把握する。
学習のポイントは視覚的伝達を他者と「共有」することである。
・コンピュータ表現［蝶課題］
アイデアを図像にするという課題を通して、コンピュータによる表現を学習する。
※ オンラインプラス［準備］―面接授業事前説明動画配信
Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

＊課題については学習指導書『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書及び学習指導書による。

〇通信授業
「オリジナル・パレット」と「色と文字の構成」の制作。

〇面接授業
講義及び、ピクトグラム、コンピュータグラフィックスの制作。

〇通信授業
動物園のバナー・コースターのデザイン制作。

【成績評価の方法】

〇通信授業
通信授業では、提出作品の総合評価とする。

〇面接授業
面接授業では、制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次〜

〇履修条件
なし

〇備　　考
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目。
コミュニケーションデザインコースへの進学希望者は、1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリングではコンピュータ（Macintosh）、グラフィック系ソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を使用する。初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「コンピュータリテラシーⅢ」を先に受講することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（コミュニケーションデザインコース進学希望者を除く）。
オンラインプラス（Web で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

〇教科書
白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）
『PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L』（日本色研）

〇学習指導書
『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

面接授業について：グループディスカッション・発表を行う場合がある。

科目名	グラフィックデザイン基礎 Ⅱ						
授業コード	1030	授業科目名	グラフィックデザイン基礎 Ⅱ			担当者	福井政弘教授、木多美紀子講師、山口弘毅講師、高崎葉子講師、和田明広講師、上田和秀講師、中村孝太郎講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T2、S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

文章の持つ機能と視覚的情報の持つ機能を理解する。さらにタイポグラフィにおける文字の視覚的側面を考察することにより、言葉と視覚表現の関係を考える。
また写真などの視覚的要素を言葉を使わないメッセージとして捉え、ビジュアルな表現だけを使って、他者にメッセージを伝えることを学ぶ。それらは、言語の領域を越えインターナショナルなコミュニケーションへのステップとしてあらゆる人々に共通の理解を求めるグラフィックデザインの基礎と言える。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、デザインの実務において必須となる文字組、ダイアグラムを指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題１　「ビジュアル・カルタ」
50 音で始まるキーワードを 44 個考え、45×60mm の写真でそれぞれのキーワードを撮影する。44枚の写真を台紙に貼り提出する。また、一つのキーワードを 5 枚の写真で表わし、構成する。

〇通信授業課題２　「ビジュアル・オピニオン」
今までに学んだ図像・地図・イラストレーション・写真・コンピュータ表現などの技法を総合し、日常生活や社会問題に対する意見を言葉を使わずに視覚表現で他者に伝える。

〇面接授業課題
・「文字組」
あたえられた文章をコンピュータを使って組版、文字組として完成させる。
※オンラインプラス［準備］―面接授業事前説明動画配信
Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。
・「ダイアグラム」
目には見えない人の歴史や生様を資料をもとにデザインする。
※オンラインプラス［準備］―面接授業事前説明動画配信
Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

＊課題については学習指導書『グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書及び学習指導書による。

〇通信授業
50 音で始まる 44 個のキーワードを 44 枚の写真構成として制作。また、一つのキーワードを 5 枚の写真で構成する。

〇面接授業
文字組・ダイアグラムの制作。

〇通信授業
今までに学んだグラフィック表現を活用した「ビジュアル・オピニオン」の制作。

【成績評価の方法】

◯通信授業
通信授業では、提出作品の総合評価とする。

◯面接授業
面接授業では、制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
2 年次～

◯履修条件
「グラフィックデザイン基礎 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

◯備　　考
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース指定科目。
コミュニケーションデザインコース進学希望者は 2 年次に履修すること。
コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「グラフィックデザイン基礎 I」を同時に履修する場合は、「グラフィックデザイン基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（コミュニケーションデザインコース進学希望者を除く）。
オンラインプラス（Web で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

◯教科書
白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）

◯学習指導書
『グラフィックデザイン基礎 I・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	情報システム基礎 Ⅰ						
授業コード	1040	授業科目名	情報システム基礎 Ⅰ			担当者	清水恒平教授、小川修一郎講師、坂本優子講師
開講期間	通年	単位数	4単位（T2、M2）	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目）						
授業形態	通信授業（Web提出）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

「デザイン・アートのためのプログラミング入門」
現在、あらゆる事象の情報化が進み、世界には大量のデータが生成、蓄積されている。デザインの分野でもwebサイトやWebサービスの構築、マイコン基盤を使用したプロトタイピングや、データビジュアライゼーションなど、直接的にプログラミングのスキルが求められるものも少なくない。この科目ではその基礎となるプログラミングの習得を目指すと同時に、デザインに必要な論理的な思考を鍛えることを目標とする。なお、言語はビジュアルデザインやアートに向いたプログラミング言語として知られている Processingを使用する。教科書の「動き」の章まで程度の内容の学習を想定しているが、もちろん、それ以上の作品を制作しても構わない。

メディア授業では通信授業での学習をベースにさらに発展的な内容を扱う。
プログラミングの基本的なスキルを理解したことを前提に、マウスやキーボードによって、反応するオブジェクトを制作する。単純に動かすだけでなく、鑑賞者やユーザーの視点から、どのように反応することが適切なのかを考慮して、作品に触れた人に新鮮な驚きを与えるインタラクションを考える。いわば、UX、UIの基本的な要素の一つを考える科目と捉えてもよいだろう。
プログラミングの理解を深めることも目的の一つだが、難しいコードを書くことを求める科目ではない。自分自身が作品の最初の鑑賞者（体験者）として、客観的に作品と向き合う姿勢で臨んでほしい。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、プログラムの作成を通してデザインとシステムの基礎的な理解を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題
［課題１］静止画像作品の制作
［課題２］動きを伴う作品の制作
それぞれ、プログラムファイルの他にレポートを作成する。

○メディア授業
［課題1］
ジェネラティブアート作品の企画書作成（個人ワーク）
ジェネラティブ作品に関する調査や考察をおこなったうえで、ジェネラティブアート作品の企画書を作成する。

［課題2］
ジェネラティブアート作品の制作（個人ワーク）
メディア授業課題1で作成した企画書をもとに、ジェネラティブアート作品を制作する。
※Slack上での中間アドバイス
コミュニケーションツール「Slack」にて、メディア授業課題1に対して中間アドバイスを行う。

【授業計画】

○通信授業
まずは学習指導書を一読し、課題の全体像をつかむ。（［課題１］、［課題２］に分けて、最初は［課題１］だけを読んでも構わない）それぞれの課題は教科書の内容に沿っているため、教科書を読み、実際に手を動かしながら、作品を制作していく。プログラミングは初学者にとっては、敷居の高いものである。そのため、教科書、学習指導書以外にも自分に合った資料や動画教材などを活用して取り組む必要がある。

○メディア授業
・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
・スクーリングの約１週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「面接授業[スクーリング]日程表　メディア授業[リアルタイム]日程表」を参照すること。
・４日間全ての出席が必要。

（前半）
・前提講義
・グループディスカッション
・［メディア授業課題１］［メディア授業課題２］の説明
・［メディア授業課題１］制作
（中間）※Slack利用
・［メディア授業課題１］提出／アドバイス
（後半）
・［メディア授業課題２］制作
・［メディア授業課題２］のピアレビュー／講評
上記の流れを前提に受講者のレベルを鑑みて適宜内容を調整する。

【成績評価の方法】

通信授業とメディア授業［リアルタイム］の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次〜

◯履修条件
なし

◯受講環境・機材
・インターネット接続環境があり、本学Webキャンパスに接続できること。
・プログラミングするためのコンピュータが必要である。カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。カメラやマイクが内蔵されていない場合は、外部マイクや外部カメラをコンピュータに接続しても良い。
・OSはMac/Windowsどちらでも構わない。
・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）の使用も可。Zoomクライアントソフトを利用する場合は、最新バージョンを使用すること。

◯備考
・受講者はプログラミング未経験者でも構わないが、「コンピュータ基礎 I」修得程度のスキルを持っていることが望ましい。Webキャンパスを通じてオンライン提出してもらう。
メディア授業は、通信課題を提出できる程度まで学習を進めていなければ、この科目での単位習得は難しい。

【教材等】

◯教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processingをはじめよう』（オライリージャパン　2011年）

◯学習指導書
『情報システム基礎 I・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

【その他】
◯参考文献
『Generative Design―Processingで切り拓く、デザインの新たな地平』Harmut Bohnacker、Benedikt Groß、Julia Laub、Claudius Lazzeroni編、THE GUILD（深津貴之、国分宏樹）監修、安藤幸央、杉本達應、澤村正樹訳（ビー・エヌ・エヌ新社　2016年）
『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのための Processing 入門』Casy Reas, Ben Fry 著、中西泰人監訳（ビー・エヌ・エヌ新社　2015年）

科目名	情報システム基礎 II						
授業コード	1050	授業科目名	情報システム基礎 II			担当者	清水恒平教授、植木基博講師、小川修一郎講師
開講期間	通年	単位数	4単位（T2、M2）	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目）						
授業形態	通信授業（Web提出）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

「情報システム基礎 I」 では、ユーザーの入力に対するアウトプットの方法を様々学んできました。マウスやキーボードからの入力は、なんらかのアルゴリズムによって別の形でアウトプットされます。他方、現実の情報システムでは、蓄積されたデータを別の形へと加工しアウトプットすることも多々あります。「情報システム基礎 II」 では、実際のデータを利用して、データを情報へと変換し表現することを学んでいきます。

メディア授業では、あらかじめ用意したデータを利用し、データベース管理システムによる抽出と、Processing によるビジュアライゼーションの手法を学びます。通信授業では、インターネット上で入手出来るデータにどのようなものがあるかを調査し、その調査結果から得られたデータを利用して、情報表現を試みます。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、データ抽出およびビジュアライゼーションを実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1
オープンデータ、API による外部データの取得方法の調査

〇メディア授業課題
データベース（SQLite）を利用したビジュアライゼーション
※オンラインプラス［中間］―Slack上での中間アドバイス

〇通信授業課題 2
外部データを利用した情報表現

【授業計画】

〇通信授業課題 1 はメディア授業の前に取り組むことが望ましい。

〇メディア授業課題
・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
・スクーリング約 1 週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「面接授業[スクーリング]日程表　メディア授業[リアルタイム]日程表」を参照すること。
・４日間全ての出席が必要。

【成績評価の方法】

メディア授業[リアルタイム]及び通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
2 年次～

〇履修条件
「情報システム基礎 I」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

◯備　　考
・デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目。
・「情報システム基礎 I」を同時履修する場合は、「情報システム基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。
・デザインシステムコース進学希望者は、2 年次に履修すること。
・デザインシステムコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
・インターネット接続環境があり、PC及びタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続できること。
・受講するにあたり、「コンピュータ基礎 I」の修得に相当するスキル、情報検索や電子メールが利用可能なインターネット環境を有すること。

◯メディア授業
・PDF 形式で保存可能なレイアウトソフトまたはワープロソフトなどのソフトウェアと、それを利用できるコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。前半では Processing を使用する予定。Processing は「情報システム基礎 I」で学ぶ。授業ではプログラミングの基礎的なレクチャーは行わないので、不安な人は事前にProcessing を予習／復習して、基礎的な内容を習得しておくこと。公式サイト（https://processing.org/）やプログラミング学習サイト「ドットインストール」（https://dotinstall.com/lessons/basic_processing）などをお勧めする。
・「コンピュータリテラシーⅠ」程度の知識は有していること。授業内でコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。
・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
・ZoomはWebブラウザで利用できます。サインアップ（アカウント取得）は不要です。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

◯教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン　2011年）

◯学習指導書
『情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
・Casy Reas, Ben Fry 著、中西泰人監修 『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのためのProcessing 入門』（ビー・エヌ・エヌ新社 2015年）

◯メディア授業［リアルタイム］について：グループワークを行う。

科目名	デザインリサーチ Ⅰ						
授業コード	1060	授業科目名	デザインリサーチ Ⅰ			担当者	金子伸二教授、小池利佳講師、臼井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目（芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「考現学」の手法を応用して、日常の生活風景や風俗・人物行動などの観察記録を行い、特徴的な傾向やタイプ（類型）を比較分析して、新たな発想を得たり、現代の生活文化への理解を深めていく。本科目で行うデザインリサーチとは、特定の製品開発を目的とした調査ではなく、人間の行動や身の回りの状況を調査するものであり、目の前の現象を様々な角度から観察・分析することで、創造的な発想にいずれ結びつくような「新鮮な発見や気づき」を得ることに目標がある。

【課題の概要】

〇通信授業課題「『通行人』の考現学的調査」
自分の住む街（市区町村）で任意の道を選び、そこを通る人々の風俗・行動・属性などを考現学の手法を用いて調査して、その結果を B4 判の白無地用紙 1 枚以上に「調査報告書」としてまとめる。何を調査するか＝調査テーマ・調査対象（調査項目）は自分で設定。調査結果は、スケッチ、図解、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

〇面接授業課題「身近な生活環境における『現代の日本らしさ』調査」
事前の準備として、身近な日常生活において、街の風景や風俗、習慣、人の行動などに見いだされる「現代の日本らしさ」を調査しておく。面接授業では、調査したデータや写真あるいはスケッチなどを持参して、その調査結果や分析から気づいた点を B4 判の「調査報告書」1 枚以上にまとめる。調査結果は、スケッチ、図解、写真、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

＊課題については学習指導書『デザインリサーチⅠ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

事前準備→面接授業→通信授業　または　通信授業→事前準備→面接授業

〇面接授業
教科書と学習指導書をよく読み、事前の準備（「現代の日本らしさ」の調査）をしておく。
第 1 日午前：前提講義
考現学と課題についての講義、調査報告書制作のための事前調査の各自概要報告、グラフ表現の方法など
第 1 日午後：調査報告書の作成
第 2 日：調査報告書の作成と完成

※オンラインプラス［結果］―BBS 上での面接授業振り返り
Web 上にアップロードした完成作品をもとに、ディスカッションを行う。

〇通信授業
教科書と学習指導書をよく読んだうえで、通信授業課題に取り組むこと。
教科書の目次より
第 1 章 今和次郎・考現学の方法を起点として
1. 考現学への道のり
2. 考現学の誕生
3. 考現学とは何か
4. 考現学の手法
第 2 章 考現学の復興と継承
1. 1970、80 年代の考現学再認識と研究グループの誕生
2. 1990 年代以降・考現学の系譜、その多彩な拡がり
第 3 章 考現学の手法を生かしたデザインリサーチ
1. 武蔵野美大の学生によるフィールドワーク
2. 調査研究事例紹介〈a〉街並みの記録と都市の調査〈b〉風俗調査〈c〉人物行動調査〈d〉その他

【成績評価の方法】

面接授業及び通信授業における各々の報告書制作物で総合評価。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目。
造形研究コース・文化支援コース進学希望者は、1 年次に履修すること。（2 年次編入学生は 2 年次）。
造形研究コース・文化支援コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（造形研究コース・文化支援コース進学希望者を除く）。
オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

◯教科書
田村裕、臼井新太郎、中尾早苗『デザインリサーチ』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

◯学習指導書
『デザインリサーチⅠ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	デザインリサーチ Ⅱ						
授業コード	1070	授業科目名	デザインリサーチ Ⅱ			担当者	金子伸二教授、小池利佳講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目（芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

現在、私たちの住む都市は急激な変貌を遂げている。その中で、変わらない本質的なものを発見するとともに、その背景を理解する必要がある。
デザインリサーチ Ⅱ では、都市景観に関する問題を多角的に捉えるとともに、街並み景観調査を切り口として都市景観のあり方を分析・考察し、各自の「見方」を構築することを目的としている。

【課題の概要】

〇面接授業課題「街並み景観調査―過去・現在・未来―1」
過去とは自身の生育地、現在とは今の居住地、未来とは今後住んでみたい街を選び、街並み景観調査を行う。面接授業では、次の通信授業課題での本調査を行う前に各自のテーマを設定し、調査の目的、調査の方法等を考察して、A3 用紙 3 枚にまとめ発表する。事前準備として 3 地区の写真、概要等の資料を収集しておく。テーマ、未来の街の選定方法等については、各自に合わせて指導する。面接授業を通して多様な捉え方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

〇通信授業課題「街並み景観調査―過去・現在・未来―2」
面接授業課題に基づいて通信授業課題では 3 地区の本調査を行い、各地区の特徴を捉え比較する方法を学ぶ。まとめでは、自身の街の「見方」を考察しよう。街並みは多様な構成要素の集合体であり、調査結果からは気付きや発見が得られるであろう。

＊課題については学習指導書『デザインリサーチ Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

事前準備→面接授業→通信授業

面接授業課題に合格してから通信授業課題へ進みます。

〇面接授業
事前の準備（3 地区の写真、概要、資料収集等）。
第 1 日　前提講義、課題説明、制作
第 2 日　制作、発表及び講評
※オンラインプラス［準備］―面接授業参考資料ダウンロード
Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて面接授業参考資料をダウンロード配付する。

〇通信授業
教科書の「デザインリサーチ Ⅱ」の第 3 章「中央線沿線の街並み景観調査」、第 4 章「歴史性、地域性から見た街並み景観調査」及び、学習指導書の参考作品 4、5、6 を参照すること。

【成績評価の方法】

面接授業、通信授業における課題作品を総合評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
2 年次～

〇履修条件
「デザインリサーチ Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

◯備　　考
芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目。
造形研究コース・文化支援コース進学希望者は 2 年次に履修すること。
造形研究コース・文化支援コース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。
「デザインリサーチ I」を同時に履修する場合は、「デザインリサーチ I」のスクーリングを先に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（造形研究コース・文化支援コース進学希望者を除く）。
オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

◯教科書
田村裕、臼井新太郎、中尾早苗著『デザインリサーチ』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

◯学習指導書
『デザインリサーチ I・II　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

造形専門科目

科目名	絵画表現 Ⅰ						
授業コード	1080	授業科目名	絵画表現 Ⅰ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての線と面の働きをテーマとして学ぶ。どのようなモチーフであっても、それをキャンバスや紙の上に表現するには、線や面などの造形要素として捉えることが重要になってくる。

モチーフを漫然と見たまま描くのではなく、画面を構成する要素として捉えた場合、実際のモチーフにはない線や面が意識されてくる。そういった画面の自由な空間構築を通して単なる再現的な表現ではない、新たな表現の展開を通信授業と面接授業を通して模索する。

【課題の概要】

○通信授業課題「線と面」
1-1　身の周りにあるもので、線的、面的要素として捉えやすい無機的なものを中心にモチーフを組み立て、「線」による構成を主としてクロッキーする。
1-2　「1-1」と同じモチーフを「面」による構成を主としてクロッキーする。
1-3　「1-1」と同じモチーフから「線」と「面」による空間構成を意識してデッサンする。

○面接授業課題「造形要素としての面と線の働き」
1-1　無機的なものを中心に組み合わせたモチーフを設置し、造形的要素としての「線」や「面」による空間構成を意識して、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画表現Ⅰ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科３年次編入学生を除く）。

○備　　考
油絵学科各コース３年次必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年））

○学習指導書
『絵画表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 Ⅱ						
授業コード	1090	授業科目名	絵画表現 Ⅱ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての明暗と色彩の働きをテーマとして学ぶ。対象として設定した空間には、光による明暗の変化とともに、モチーフ個々の形態や色彩が生み出すフォルムなどが、相互に関わり合いながら存在している。また、モチーフだけでなくモチーフと床や壁との関係や、モチーフ相互を取り巻く空間などにも注意を払うことが必要となる。これら様々な造形要素を自分が設定した空間から感じ取り、画面上で用いられる色彩と形態の関係を、色の使い方（絵具どうしの混色や画面上での配色など）に留意して描きながら、造形的な絵画空間を構築していく。

通信授業、面接授業ともに明暗の構成と色彩の構成をテーマとして制作する。

【課題の概要】

○通信課題授業「明暗と色彩」
1-1　卓上の静物をモチーフに、光によって生ずる陰影の差と、モチーフ個々の色彩の明度差を同時に比較し、明暗による構成を主としてデッサンする。
1-2　「1-1」と同じモチーフを明暗と色彩の関係を意識して、水彩または油彩で制作する。

○面接授業課題「造形要素としての明暗と色彩の働き」
1-1　人物を配置し、色彩の構成を意識して、水彩または油彩で制作する。B2 画用紙または 20 号キャンバス。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具、油彩等。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「絵画表現Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（彩画）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科３年次編入学生を除く）。

○備　　考
油絵学科各コース３年次必修科目。
「絵画表現Ⅰ」、「絵画表現 Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講が出来ない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名	複合的表現 Ⅰ						
授業コード	1100	授業科目名	複合的表現 Ⅰ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、袴田京太朗教授、小林耕平教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース選択科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。

通信授業ではフォト・コラージュによる「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作とし、面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題「フォト・コラージュ」
1-1　「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について 200 ～ 400 字で解説をする。

○面接授業課題「内的空間の表出」
1-1　「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。2 種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら　B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『複合的表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「複合的表現Ⅰ」を参照。
教科書『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義及びドローイング／午後：ドローイング
第２日　午前：ドローイング／午後：中間講評及び立体制作
第３日　午前：立体制作／午後：立体制作
第４日　午前：立体制作／午後：立体制作
第５日　午前：立体制作／午後：立体制作
第６日　午前：立体制作／午後：立体制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画表現Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科各コース選択科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『複合的表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	複合的表現 Ⅱ						
授業コード	1110	授業科目名	複合的表現 Ⅱ			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、袴田京太朗教授、小林耕平教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース選択科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」をテーマとする。ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してみることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。このような経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。

通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とし、面接授業では平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

【課題の概要】

○通信授業課題「場所と観察と表現」
1-1　スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。
1-2　「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから 1 点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について 200 ～ 400 字で解説する。

○面接授業課題「場所から生まれるもの」
1-1　「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『複合的表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』の「複合的表現 Ⅱ」を参照。
教科書『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義およびドローイング／午後：ドローイングおよび場所選び
第２日　午前：制作／午後：制作（中間指導）
第３日　午前：制作／午後：制作（中間指導）
第４日　午前：制作／午後：制作（中間指導）
第５日　午前：制作／午後：制作および記録集制作
第６日　午前：記録集制作／午後：採点・講評・撤去作業

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「複合的表現Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科各コース選択科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『複合的表現Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	絵画 Ⅲ						
授業コード	1120	授業科目名	絵画 Ⅲ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。対象をじっくりと観察し、そこで得られた発見を基に制作を進め、それぞれの表現を探る。通信授業では身近な人物や自然を取材し、観察して得られた様々な発見を通して、表現に結び付けていく。面接授業では人物と植物の組み合わせで制作し、表現の多様性を知る。

【課題の概要】

○通信授業課題
「観察と表現」
1-1　「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　「1-1」を基に、エスキースを制作する。
1-3　「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

○面接授業課題
「観察と表現」
1-1　人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、クロッキーまたはドローイングをする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙の大きさのエスキースを制作する。描画材は自由。 クロッキー、ドローイングを複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。支持体は 30 号キャンバス。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「絵画Ⅲ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第 4 日　午前：制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画 Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（絵画コース 3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
油絵学科絵画コース 3 年次必修科目。
「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 Ⅳ						
授業コード	1130	授業科目名	絵画 Ⅳ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。絵画における空間表現の変遷は、奥行きのある三次元空間はもとより、あくまで平面であるとする考え方、画面自体が現実の立体物であるという捉え方、そして時間をも含む空間など、さまざまな表現が試みられてきた。この科目では、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標で、その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○通信授業課題
「空間と構成」
1-1　植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　「1-1」を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。
1-3　エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

○面接授業課題
「空間と構成」
1-1　人物（ヌード）の固定ポーズ、短時間ポーズ、ムービングなどを通して、さまざまな取材をする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙の大きさに構成したエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー等を複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。30～40号程度キャンバス。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「絵画Ⅳ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー・エスキース）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第 4 日　午前：制作／午後：制作（油彩又はアクリル）
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科絵画コース 3 年次必修科目。
「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 V						
授業コード	1140	授業科目名	絵画 V			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「色彩とマチエール」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結び付けることを試みる。また、絵具をはじめとするマチエールの働きも理解する。

【課題の概要】

○通信授業課題
「色彩とマチエール」
1-1　身の回りの複数の器物を中心に静物を組み、明暗を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。明暗（陰影）は立体感や存在感、奥行きのような、物質的な存在を表すには有効であるが、色彩はむしろ感覚や感情などの内的世界を表しやすい。これを突き詰めれば、画面上での色彩や絵具としての物性（マチエール）が重要な役割を担う表現にもなる。この課題では色彩と絵具自体の物質感（マチエール）を意識した表現を考えて制作する。

○面接授業課題
「色彩とマチエール」
1-1　組まれた静物の色彩とマチエールを意識した平面作品を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。また、絵具以外の素材を使用しても良い。30～40号程度1点提出。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「絵画Ⅴ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「絵画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科絵画コース 3 年次必修科目。
「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 VI						
授業コード	1150	授業科目名	絵画 VI			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かが展開するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する。描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付きようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、通信授業、面接授業を通して各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

【課題の概要】

○通信授業課題
「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
1-1　人、物、風景、空間、印刷媒体、写真などから「描いてみたい」と感じるものを見つけ、クロッキーをしながら取材をする。
1-2　「1-1」を基に構成的なドローイングとエスキースを制作する。
1-3　「1-2」を基に表現の可能性を試みながら平面作品を制作する、また、テーマやモチーフについて考えたことや感じたことを400字程度にまとめる。

○面接授業課題
「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
1-1　複数枚のドローイングと大エスキース（B2サイズ以上）を最低1枚制作する。描画材は自由。制作したすべてのエスキースを提出。
1-2　「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩又はそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で30～40号の大きさ。1点提出。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「絵画Ⅵ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第 4 日　午前：制作／午後：制作（平面作品）
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
絵画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 Ⅶ						
授業コード	1160	授業科目名	絵画 Ⅶ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「自主制作」。造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。

通信授業、面接授業を通して、各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自由制作」
1-1　卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等あらゆるものを F10 号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。
1-2　「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。

○面接授業課題「自由制作」
1-1　通信授業課題で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）で B1 または倍判木炭紙大。描画材は自由。
1-2　「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で 40 ～ 50 号程度、描画材は自由。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「絵画Ⅶ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（制作ノート・エスキース制作）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第 4 日　午前：制作／午後：制作（平面作品）
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
「絵画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
絵画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。
「絵画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「絵画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。
スクーリングに「制作ノート」を持参すること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	卒業制作						
授業コード	1810	授業科目名	卒業制作			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業制作は通信教育課程での基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタート地点でもある。そのためにも結果を恐れず、それまでの学習体験を活かし、各々の資質にあった表現に向けての、精一杯悔いのない制作が望まれる。また、デッサンやエスキース等を積み重ねながら、テーマを絞り込み、それを画面にどのように組み立てて行くか、しっかりと手順を踏んで制作することも大切である。

【課題の概要】

自主制作（絵画作品）２点を制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。
支持体は木枠やパネルなどの丈夫なもので、サイズは 80 ～ 100 号（長辺162cm以内）。壁面に取り付け可能で、厚さ 15 ㎝以内とする。描画材は油彩等、その他自由。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「卒業制作」、　教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現―絵画からの展開―』を参照し、制作を進める。

○面接授業
卒業制作における中間指導として、制作途中の作品を基にした指導を中心に、エスキース指導、制作工程計画、技術的問題、各種絵画的対処法等の指導を受けながらの制作。
・前半　　第１～２日　　午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導
・後半　　第３～４日　　午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・絵画コースに在籍していること。
・ 絵画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
・「絵画Ⅵ」、「絵画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。
面接授業の受講条件は以下のとおり。
今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	日本画 Ⅲ						
授業コード	1170	授業科目名	日本画 Ⅲ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

古来の作品の鑑賞も含め古典模写をおこなうことにより、日本画の素材がどのように扱われ使用されてきたかを探り、その中にある様々な技法や様式を再現することで、基本としての日本画の素材を扱う方法や描法や工程の研究をする。

通信授業では、線の美しさや勢いのある線の練習をして筆力を養う。面接授業では、鳥獣戯画等の絵巻物を模写することで、各種の線描法と上げ写し法を学び、彩色模写では、障壁画等に見られる多種多様な技法や技術、工程法などを知り、地作りから仕上げまでをおこなう。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」
筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドーサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法で描く。

○面接授業課題「古典模写」
古典の模本をもとに線描による模写、彩色による模写をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』の「日本画Ⅲ」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作・講評
第４日　　午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
第５日　　午前：講義及び制作／午後：制作
第６日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「日本画 Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（日本画コース 3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
油絵学科日本画コース 3 年次必修科目。
「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 Ⅳ						
授業コード	1180	授業科目名	日本画 Ⅳ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

通信授業では、身近な人をモデルにイメージを捉えることを重点に学び、面接授業では、デッサンと制作を通して人を描くための下図の作り方、人体と空間の関係、構成等を学び、更に、独自の表現をするための岩絵具による色彩の研究、支持体、マチエール等、日本画の様々な技法を研究して人体制作をする。

【課題の概要】

○通信授業課題「人物を描く」
身近な人、又は自己をモデルに次の条件でクロッキー及びデッサンをする。又、デッサンをもとに日本画制作をする。
・ 人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
・ 身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
・ クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「身体を描く」
人体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』の「日本画Ⅳ」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン）
第 2 日　　午前：制作（デッサン）／午後：制作（デッサン）
第 3 日　　午前：制作（準備・下図）／午後：制作（下図）
第 4～5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「日本画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科日本画コース 3 年次必修科目。
「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 Ⅴ						
授業コード	1190	授業科目名	日本画 Ⅴ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

和紙、絹本等、様々な基底材の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。

通信授業では、和紙の特性を知り、染める、加工する等の基底材を考察したものを利用して制作する。面接授業では、基本としての絹の扱い方を学び、制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「素材と技法」
天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを基底材とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。
・ 身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
・ 染めた和紙を使い、日本画制作をする。

○面接授業課題「絹に描く」
尺八サイズの絹に日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』の「日本画Ⅴ」、教科書『日本画・表現と技法』の「自由に描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　　午前：制作／午後：制作
第 3 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「日本画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科日本画コース 3 年次必修科目。
「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅲ～Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 VI						
授業コード	1200	授業科目名	日本画 VI			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠（＝形象化）と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。

通信授業では、デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。面接授業では、箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

【課題の概要】

○通信授業課題「意匠研究」
対象物を形象化、又、制作工程を意識した日本画制作をする。
・ 制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
・ 制作工程を意識した日本画制作をする。

○面接授業課題「自己表現研究」
素材と意匠を考え、構成による独自の形で 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画VI・VII／卒業制作　2024 年度』の「日本画VI」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義（箔講義）及び制作／午後：制作（下図研究）
第 2～5 日 午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
日本画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 Ⅶ						
授業コード	1210	授業科目名	日本画 Ⅶ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法を探り、自己のオリジナルな表現へと展開していく。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材である和紙と布との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を追求する。

通信授業、面接授業ともに、卒業制作取り組み前の科目として自己の課題の研究に取り組む。

【課題の概要】

○通信授業課題「自由制作」
自己の制作をする為の資料として、各自それぞれの手法でデッサンをし、又は素材の引用などを行い下図やアイデア画を描く。さらにそれをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「自由制作研究」
「自由に描く」をテーマに、自己の課題を考え、高い完成度を目標に 50 ～ 100 号の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024 年度』の「日本画Ⅶ」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義（裏打ち講義）及び制作／午後：制作（下図研究）
第 2～5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
「日本画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
日本画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。
「日本画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「日本画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1820	授業科目名	卒業制作			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画の素材を使い自己の表現したいものをテーマに取り組む。学習の成果で得たものを十分出し、新しい日本画の可能性を示唆するような姿勢で、自己にとっても今後の指針を示せるような制作をおこなう。

【課題の概要】

日本画の素材を使っての作品制作 2 点とする。通信授業・面接授業を通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。描画材は日本画絵具。基底材は自由で、サイズは 80 ～ 100 号。壁面取り付け可能な木製パネルとする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024 年度』の「卒業制作」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
卒業制作における中間指導と、後半は完成に向けての指導をおこなう。
・前半　第 1 日　　午前：前提講義及び中間指導／午後：中間指導
　　第 2 日　　午前：中間指導／午後：中間指導及び中間講評
・後半　第 3 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作
　　第 4 日　　午前：制作／午後：制作及び中間講評

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・日本画コースに在籍していること。
・日本画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
・「日本画Ⅵ」、「日本画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。
面接授業の受講条件は以下のとおり。
今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅲ						
授業コード	1220	授業科目名	版画 Ⅲ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「自然」をテーマにして、各自が自由な解釈により、描く行為（ドローイング）を基に、版表現に結び付ける。また、版画作品は 4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）のうちから 1 版種を選び学習する。版画制作のためのドローイングの重要性を認識するとともに、素材（版材、紙、インクなど）との関わり、技法の特性等を充分理解し、版技法をどの様に自己の表現に結びつけるかを考察する。面接授業では、「版画Ⅰ」と同様の「木版」「リトグラフ」を開設する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自然」
1-1　「自然」をテーマに指定された順番でドローイングする。
1-2　4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、
　　課題 1-1 のドローイングをもとに版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」
1-1　「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。「版画 I」で選択していない版種を選ぶこと。
・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm
・「リトグラフ」イメージサイズ：28cm×40cm 程度

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「版画Ⅲ」を参照して、制作を進める。
教科書『新版 版画』第 2 章「モノタイプ」を参照。

○面接授業
「木版」または「リトグラフ」（版画Ⅰにて選択してない方の版種を選択）
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（版画コース 3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
油絵学科版画コース 3 年次必修科目。
スクーリングは「版画Ⅰ」で受講していない版種を選択すること。
「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。
通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅳ						
授業コード	1230	授業科目名	版画 Ⅳ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「空間」をテーマにして、各自が自由に解釈し版表現に結び付ける。平面上にできる（絵画）空間は、奥行きのある空間、平面的な空間、錯綜した空間等、様々である。ここでは各自の表現としての空間とはどのようなものなのかを版を通して探っていく。面接授業では、「版画 Ⅱ」と同様の「銅版」「スクリーンプリント」を開設する。「版画 Ⅱ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。ここで 4 版種すべてを修得したことになるので、改めて各版種の特性とは何かを考えてみる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間」
1-1　4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、「空間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。
1-2　自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」
1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。
・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm
・「スクリーンプリント」イメージサイズ：30cm×42cm 程度

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「版画Ⅳ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

○面接授業
「銅版」または「スクリーンプリント」（版画 II にて選択していない方の版種を選択）
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「版画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科版画コース 3 年次必修科目。
スクーリングは「版画 Ⅱ」で受講していない版種を選択すること。
「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。
通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 V						
授業コード	1240	授業科目名	版画 V			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

自己の表現を見つめて版や材料の特性を学び、「版画Ⅵ」以降の取り組みの中で専門性と造形表現を高める版種を明確にする。

通信授業では、「時間」をテーマにして、各自が自由な解釈を加え、版表現を試みる。「版画Ⅳ」までの履修によって、4 版種の基本技法の習得を終えたことになる。ここからは積極的に表現方法を見出し、充実した研究制作が望まれる。面接授業では、各自が選択した版種の専門技法や特殊な製版などの実習を行い、基本的実習とは異なる視野を与えながら各自の表現を追求する（面接授業は開講する時期によって実習の内容が変わる）。

【課題の概要】

○通信授業課題「時間」
1-1　4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、「時間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。
1-2　自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「版種の専門技法の実習」
1-1　4 版種の中から 1 版種を選択し、自由テーマで制作する。版種ごとに行う専門性を高める実習を通して、以降の研究課題、表現内容、選択版種などを明確にする。
＊ 4 年次の学習を視野に入れた版種を選択すること。
＊スクーリングの実習内容は開講時期により異なる（下記参照）。
【夏期スクーリング】
・木版［油性・水性プレス機刷り］
・リトグラフ［感光法（PS 版）］
・銅版［メゾチント］
・スクリーンプリント［油性インク刷り（ブロッキング法）］
【冬期週末スクーリング】
・木版［木口木版］
・リトグラフ［石版］
・銅版［フォトエッチング］
・スクリーンプリント［写真を使った作品制作］

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』の「版画Ⅴ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

○面接授業
「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」（1 版種選択）
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作及び指導
第 2 日　午前：制作及び指導／午後：制作及び指導
第 3 日　午前：制作及び指導／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
「版画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科版画コース 3 年次必修科目。
「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは「版画 I～V、版画研究 I・Ⅱ」で基本技法を習得した版種を選択すること。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅲ～Ⅴ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅵ						
授業コード	1250	授業科目名	版画 Ⅵ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

これまで幾つかのテーマについて、課題の中で取り組んできたが、この科目からは通信授業、面接授業ともに自由テーマによる制作となる。自己のテーマと表現に見合った研究課題を設定し、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択する。制作過程で技術的修練を積み重ねることも重要だが、技法や材料への興味を越えて、版の特性を意図的に用いる具体的な取り組みが求められる。そこで、なぜ版を使うのか、如何に自らの表現の中で版を活かすのか、改めて考える機会にもなるであろう。それぞれの主題を決めるところから、版材、紙などの材料を研究し、自己の表現へと結びつけていくことを学習する。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択し、制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自主制作 1」
1-1　自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作に予定している 1 版種を選択し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」
1-1　自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

【授業計画】

制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

○通信授業
学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「版画Ⅵ」、教科書『新版 版画』の第 2 章、第4 章を参照し、制作を進める。

○面接授業
「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」（1 版種選択）
第 1 日　午前：前提講義及びドローイング指導／午後：制作（個別に指導）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評
＊第 1 日に卒業制作についてのオリエンテーションを行う予定。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
版画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科版画コース 4 年次必修科目。
通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 Ⅶ						
授業コード	1260	授業科目名	版画 Ⅶ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

各自の学習プランを基に、独自な版表現の確立を目指し、テーマや表現手法をより明確に示す研究が求められる。プランやテーマなど、この先にある「卒業制作」の軸となる部分が不明確な場合はここで再度、熟考しなければならない。美術として優れた表現とはどのようなものなのか。版を介して何を表現しようとしているのか。様々な課題に向かって各自が真剣に取り組み、確認作業をしていくことであろう。それは表現者としての基礎であり、最も重要な姿勢である。これまで積み重ねてきた制作をもとに、卒業制作を見据えた心の準備と、充実した制作を望む。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」で選択する版種を選び制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自主制作 2」
1-1　自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」
1-1　自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「版画Ⅶ」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及びドローイング指導／午後：制作（個別に指導）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
「版画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
版画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備　　考
油絵学科版画コース 4 年次必修科目。
「版画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「版画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。
通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1830	授業科目名	卒業制作			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

版画コースの教育課程においては、技術研究、材料研究を行い、各自のテーマに沿った版表現を考察してきた。「卒業制作」では、これをさらに深めてオリジナリティを導き出すことに取り組み、これまでの学習成果を十分に出し切る制作が求められる。総まとめであると同時に卒業後の創作の基盤になり、活動展開を方向付ける重要な科目でもある。結果を恐れず、これまでの学習体験を活かし、各々の資質に合った表現に向けて、精一杯悔いのない制作が望まれる。

【課題の概要】

4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、版画作品 5 点又はそれに相当するものを制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』の「卒業制作」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

○面接授業
卒業制作における中間指導として、模擬展示によるドローイング指導、制作工程計画、技術的問題、展示形態等の指導を受けながらの制作。
・前半　第 1 日　午前：下図を用いた模擬展示及び中間講評／午後：制作
　　第 2 日　午前：制作／午後：制作
・後半　第 3 日　午前：制作及び中間指導／午後：制作
　　第 4 日　午前：制作／午後：制作

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・ 版画コースに在籍していること。
・ 版画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
・「版画Ⅵ」、「版画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
油絵学科版画コース 4 年次必修科目。
課題制作に必要な設備・機材を使用できる環境にあること。
面接授業の受講条件は以下のとおり。
今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局　2012 年）

○学習指導書
『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	工芸工業デザイン基礎 Ⅰ						
授業コード	1270	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、山本博一講師、萩原千春講師、徂徠友香子講師、朝比奈ゆり講師、永井賢講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン学科において最初に学習する造形専門科目となっている。学科の必須科目ではあるが、スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ課題に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスにはこの科目から各素材別課題に取り組む。つまりここから、各自が目指す専門の学習に入る。
スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系の同じ課題とは、スペースと生活環境、いいかえれば空間とモノ、それぞれの立場で同じ題材に取り組むことをいう。そうすることで、各自が、両者の関係性について包括的に考え、広い視野を獲得することを期待する。

【課題の概要】

〇スペースデザインコース / 生活環境デザインコースプロダクトデザイン系
工芸工業デザイン基礎Iでは、通信課題と面接授業を通じて屋外に存在するモノや空間と人々の生活がどのように関わりをもつのか、ヒトとモノの関わりから発生するコトとその周囲を含めて「シーン」と捉え、現状の観察から想像し提案に至るまでのプロセスを体験的に学ぶ。
通信課題では、身近な屋外の「腰掛けるモノ」とその周囲を対象にデザインサーベイ（調査）を行い、調査結果をレポートとしてまとめる。面接授業内では、屋外の生活の場となるミニパークを対象に机上調査、デザインサーベイ（調査）を行い、調査から得たことと自身の記憶を背景とした場に相応しい「シーン」の提案をおこなう。

〇生活環境デザインコース
クラフトデザイン系
・テキスタイルクラス
面接授業において、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。触覚とサーフェイスというテーマのもとに、素材をイメージ化し、織りによるテクスチャー表現研究を行う。通信授業では、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。素材を無彩色、及び有彩色によるイメージ化をし、テキスタイルとしての使用例を提案する。

・陶磁クラス
通信授業では板づくり技法による器物と装飾に関する調査をし、まとめる。それを参考にして、板づくり技法と印による装飾を施した日常的な用途の器物のアイデアスケッチをする。
面接授業では、アイデアスケッチを基に、さらにデザインを検討して板づくり技法と印による器物を制作する。

＊課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス
通信授業→面接授業

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業→通信授業

〇面接授業
各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。
スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではミニパークをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。
生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

○通信授業
・生活環境デザインコースプロダクトデザイン系・スペースデザインコース
学習指導書をよく確認し、制作すること。

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス
学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業をふまえ、デザイン作業を完成させ提出する。
詳細は面接授業最終日に説明する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
「プロダクトデザインI・II」または「インテリアデザインI・II」の単位を修得していること（工芸工業デザイン学科 3年次編入学生を除く）。

○備考
工芸工業デザイン学科各コース 3 年次必修科目。
クラフトデザイン系の素材別クラスを選択する場合は、1・2 年次において素材別基礎実習 I・II における、同素材実習を履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
横溝健志、小石新八　編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
横溝健志　監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
田中秀穂　監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）
小松誠　監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

○学習指導書
『工芸工業デザイン基礎 I・II　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はグループワークと学外実習等おこなう場合がある。

科目名	工芸工業デザイン基礎 Ⅱ						
授業コード	1280	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 Ⅱ			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、渡辺衆講師、萩原千春講師、馬場美次講師、怡田千枝講師、竹内優美講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン基礎Ⅰに引き続き学科共通の造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、工芸工業デザイン基礎Ⅰと同様にスペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスは各素材別課題に取り組む。

【課題の概要】

スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はインターフェイスをテーマに具体的な機器や空間を事例に研究を深めデザインの提案を行う。
生活環境デザインコースクラフトデザイン系は素材別にそれぞれの課題とする。

〈スペースデザインコース〉
面接授業では、空間のインターフェイスをテーマとした空間と人の出合いの場について考察する。授業の課題は、エキシビジョン（見本市）の企業のブースデザインの設計計画を実習する。

〈生活環境デザインコース〉
プロダクトデザイン系
面接授業において、機器やサービスのデザインをユーザーインターフェイスの観点から調査分析する。使用シーンにそって問題点や顧客要求を明確にする。その上でラフモデルによるデザイン立案と操作の評価を実施する。通信授業では面接授業で作成した提案を修正し再提案する。対象は「音楽・音声放送を一対多で楽しむ機器（ラジオ）」で、web 等の技術を活用する新サービスも是とする。

クラフトデザイン系
・テキスタイルクラス
面接授業において、触覚のビジュアル化を体得する為のシルクスクリーン捺染の実習を行い、リピート効果およびペーパープランにおける表現技法を学習する。
通信授業では、面接授業で実習したパターンの連続性による色彩効果を基に、色彩の面積比を考え、ストライプの分析研究を行う。

・陶磁クラス
通信授業において、ロクロ成形による製品の調査をしてまとめる。それを基に飯碗を制作するためのアイデアスケッチをする。
面接授業では、アイデアスケッチを基にさらにデザインに検討を加え、ロクロ成形による飯碗を制作する。

＊課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス
通信授業→面接授業

スペースデザインコース、生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業→通信授業

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系
予習→面接授業→通信授業

○面接授業
各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。
スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではインターフェイスをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。
生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。
※ 生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は学習指導書をよく確認し、予習を行い、事前調査表を初日に持参すること。

○通信授業
・生活環境デザインコースクラフトデザイン系陶磁クラス
学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。
・スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系テキスタイルクラス
面接授業をふまえ、それぞれのコース、クラスごとにデザイン作業を完成させ提出する。
詳細は面接授業最終日に説明する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
工芸工業デザイン基礎Ⅰの単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
工芸工業デザイン学科各コース 3 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）
牧野良三　編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
横溝健志、小石新八　編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
横溝健志　監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
田中秀穂　監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）
小松誠　監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

○学習指導書
『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は、グループワーク及び学外実習がある。

科目名	生活環境デザイン論						
授業コード	1290	授業科目名	生活環境デザイン論			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、萩野美有紀講師、渡辺衆講師、野田昇一郎講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

私達の生活環境を形成するさまざまな道具や機器のデザインは、便利さや快適さを追求するだけでなく、省資源、リサイクル、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に立った発想が求められるようになった。この科目では、これらの要件に敏感な生活者の視点に立って、人間とモノ、そして使われる環境との関係を多角的に捉え、それらのよりよい関係の在り方を考察したい。

授業は、面接授業において、生活環境に関わるプロダクトデザインの変遷を技術の進化と文化の変化から見た歴史的側面から、現在の状況をスライドによって俯瞰することから始める。また、生産の現場や、関係する施設や展示会などの見学等を折り込み、多角的にデザインを考察する。通信授業では、面接授業で触発されたテーマをもとに実製品のデザインを体験・考察し、その分析とをレポートする。

【課題の概要】

○面接授業
生活を取り巻くプロダクト製品のデザインのあり方について考える。

○通信授業
製品デザインの分析

＊課題については学習指導書『生活環境デザイン論　2023 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業
第１日　前提講義
　　バリアフリーの体験
　　近代椅子コレクションの見学
第２日　前提講義、プロダクトデザインの概観
　　東京都庭園美術館(アールコデ装飾)の見学
第３日　自らの生活を振りかえりプロダクトとの関係考察
　　プロダクトデザイン分析
第４日　プロダクトデザイン分析と報告、まとめ

○通信授業
面接授業をふまえた取り組みが出題されるので、面接授業を先に受講すること。詳細は学習指導書による。面接授業最終日に説明がある。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
「プロダクトデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（生活環境デザインコース 3 年次編入学生を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3 年次必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

○学習指導書
『生活環境デザイン論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

グループワーク及び学外実習がある。

科目名	生活環境計画 Ⅰ						
授業コード	1300	授業科目名	生活環境計画 Ⅰ			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、萩原千春講師、渡来一彦講師、渡辺衆講師、大蔵紗也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行います。
プロダクトデザイン系クラスでは、現代の生活で避けては通れない「地球温暖化」をテーマとし、リサーチを通じて各自が環境問題に対して「提案できること」を考え、プロトタイプ化やプレゼンテーションに至るプロセスを相互に学びあうことを目標とします。
クラフトデザイン系は、テキスタイルクラスにおいては花をモチーフとしたインテリアファブリックの提案を、陶磁クラスにおいては陶土によるユニットタイルの提案を行います。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とします。

○面接授業および通信授業課題
プロダクトデザイン系
地球温暖化をテーマとし「暑さをしのぐ」プロダクトや空間の提案を行います（検討の結果、提案内容がサービスやアプリになっても構わない）。
面接授業ではリサーチを通じた構想、プロトタイプ化、プレゼンテーションまでのプロセスを一通り行い、そのプロセスを相互に学びあいながら進めます。
通信授業では面接授業で提案したデザインを再検証して。コンセプト、図面、レンダリング、モデルの写真等をブラッシュアップしたものを A3 レポートにまとめて提出します。

クラフトデザイン系
・テキスタイルクラス
面接授業において、花をモチーフとしたインテリアファブリック製品のデザイン提案を行います。シルクスクリーンプリント技法を理解し、リピート効果と配色計画を学習します。
通信授業では、インテリアブランドの市場調査を行い、プリント生地の模写とパターンデザインを制作します。

・陶磁クラス
通信授業においては、各地の建造物や壁面に利用されている陶磁器の調査研究を行い、それを基にした、レリーフ表現によるユニットタイルのアイデアスケッチを行います。 面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて、石膏型を用いて陶土によるレリーフ表現のユニットタイルを制作します。

＊課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』を 必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系
面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス
通信授業→面接授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業→通信授業

○面接授業
プロダクトデザイン系
前提講義の後、リサーチとグループセッション、アイデアの検討展開、プロトタイプ作成と検証等、一般的なデザインプロセスを進めプレゼンテーションまでを行います。

クラフトデザイン系　陶磁クラス
前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図、制作を行います。

クラフトデザイン系　テキスタイルクラス
前提講義に続いて、デザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となります。

○通信授業
プロダクトデザイン系
学習指導書を参照し、面接授業で提案したデザインのブラッシュアップを行います。

クラフトデザイン系　陶磁クラス
学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参すること。

クラフトデザイン系　テキスタイルクラス
面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明します。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

○備考
工芸工業デザイン学科生活環境テザインコース 4 年次必修科目。
スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画Iの順で受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』(武蔵野美術大学出版局 2003 年)
横溝健志 監修『工芸』(武蔵野美術大学出版局 2002 年)
田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』(武蔵野美術大学出版局 2007 年)
小松誠 監修『陶磁 発想と手法』(武蔵野美術大学出版局 2009 年)

○学習指導書
『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

【その他】

プロダクトデザイン系
・本課題を選択する者は、夏季の暑い環境下で他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。
・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-C)を用意ください)。

科目名	生活環境計画 II						
授業コード	1310	授業科目名	生活環境計画 II			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、三澤直也講師、渡辺衆講師、萩原千春講師、大蔵紗也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行います。

プロダクトデザイン系では、「体験」のデザインをテーマとし、本学鷹の台キャンパスの所定の空間を対象とした提案を行います。
クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行います。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とします。

○面接授業および通信授業課題
プロダクトデザイン系
鷹の台キャンパスの所定の空間を対象とした体験の提案。
・鷹の台キャンパスのフィールドワークとグループワークを通じた「体験」の構想。
・「体験」を実体化する具体的なアイデアの創出。
・提案したい「体験」が伝わるプレゼンテーションの構想。

クラフトデザイン系
・テキスタイルクラス
面接授業において、インテリアファブリック製品のデザイン提案を行います。織物の構造を理解し、チェックパターンの構築と配色計画を学習し、通信授業では、インテリアブランドの市場調査を行い、それを基にしたパターンを制作します。

・陶磁クラス
通信授業において鋳込製品の調査を行います。それを基にして、注器(ピッチャー)のアイデアスケッチを行います。 面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて石膏による鋳込型を作り、鋳込み泥しょうを用いて注器を制作します。

＊課題については学習指導書『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系
面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス
通信授業→面接授業

○面接授業
プロダクトデザイン系
前提講義の後、リサーチとグループセッション、アイデアの検討展開、プロトタイプ作成と検証等、一般的なデザインプロセスを進めプレゼンテーションまでを行います。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス
前提講義に続いて、デザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評を行います。

クラフトデザイン系、陶磁クラス
前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図制作を行います。

○通信授業
プロダクトデザイン系
学習指導書を参照し、面接授業で提案したデザインの評価（と再検討）を行います。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス
面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出。（詳細は面接授業最終日に説明します。）

クラフトデザイン系、陶磁クラス
学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参すること。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

○備考
工芸工業デザイン学科生活環境テザインコース 4 年次必修科目。
スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画Iの順で受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』(武蔵野美術大学出版局 2003 年)
横溝健志 監修『工芸』(武蔵野美術大学出版局 2002 年)
田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』(武蔵野美術大学出版局 2007 年)
小松誠 監修『陶磁 発想と手法』(武蔵野美術大学出版局 2009 年)

○学習指導書
『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

【その他】

プロダクトデザイン系
・本課題を選択する者は、日頃のスクーリング出校時にキャンパス内を観察し、他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。
・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-C)を用意ください)。

科目名	生活環境デザイン研究						
授業コード	1320	授業科目名	生活環境デザイン研究			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、萩野美有紀講師、萩原千春講師、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。

プロダクトデザイン系では、高齢者や障害がある人を対象とした「バリアフリー」「福祉機器」「ユニバーサルデザイン」や「共用品」など、共に暮らせる社会と生活環境を実現するための具体的な機器の提案およびデザインをを行う。

クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

〇面接授業および通信授業課題
プロダクトデザイン系
予習で行う「日常調査」をもとに、面接授業では分析と問題の抽出、生活のしやすさや楽しさを増すための機器の考案、技術的な裏付けなどから、具体的なデザインの提案を行う。
通信授業では、面接授業での提案をもとに機器のデザインを行う。

クラフトデザイン系
・テキスタイルクラス
面接授業において、格子（チェック）の研究を行い、室内空間におけるタペストリーあるいはスペースデバイダー（間仕切）を織物で制作する。通信授業では、商品計画の為の企画とプレゼンテーションを行う。

・陶磁クラス
通信授業において、花器をデザインする。面接授業では、通信授業でデザインした花器から 1 点を選んで、さらに検討を加えて制作する。

＊課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系
予習（事前調査）→面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス
面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス
通信授業→面接授業

○面接授業
プロダクトデザイン系
前提講義後、予習の「日常調査」を分析、製品の考案、コンセプトの設定、デザイン作業、簡易モデルの制作、パソコンを使用したプレゼンテーションで講評を行う。
※ 面接授業前予習課題を初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス
前提講義に続いて、工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

クラフトデザイン系、陶磁クラス
通信授業課題のデザイン案をもとに検討を加えて花器を制作する。

○通信授業
プロダクトデザイン系
面接授業で考案した製品の検証と、評価を行い、その結果を踏まえた機器のデザインと企画書を作成する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス
面接授業をふまえて、課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス
学習指導書にしたがって学習し、面接授業前、7 月 1 日までに提出する。添削後、返却された課題は面接授業初日に必ず持参すること。
※ 提出期限については月刊誌『武蔵美通信』の「通信教育課程面接授業（スクーリング）受講条件」を参照のこと。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」 II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

○備考
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）
横溝健志　監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
田中秀穂　監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）
小松誠　監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

○学習指導書
『生活環境計画 I・II ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

グループワークあり。学外実習の可能性あり。

科目名	卒業制作						
授業コード	1840	授業科目名	卒業制作			担当者	西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、萩原千春講師、後藤大樹講師、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでに生活環境デザインコースの各選択領域で学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4 年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、クラフトデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作をすることが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

＊課題については、学習指導書『卒業制作　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇面接授業
各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。
※オンラインプラス［準備］― Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談
面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。
※オンラインプラス［中間］― Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス
制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

＊テキスタイルクラスは鷹の台工房が主な会場となる。

〇通信授業
テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

○履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースに在籍していること。
・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。
・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
なし

○学習指導書
『生活環境計画 I・II ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	スペースデザイン論						
授業コード	1330	授業科目名	スペースデザイン論			担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、大野洋平講師、古謝里沙講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

観察と想像―空間構成と表現―

我々を取り巻く環境は、様々な生活機器や建築物がそれぞれの役割を担いながら互いに影響し合い、我々の暮らしを支えている。我々が暮らす環境を日常的な暮らしから離れて、造形的、構成的、空間的な視点で捉えると、そこからは魅力的な表情と豊かなイメージを見いだすことができる。
また、空間を介して「ヒト」と「モノ」とが出会う時、「ヒト」と「モノ」との間にコミュニケーションが生まれる。これは、「モノ」に付加されたイメージを、我々が読みとる（感じ取る）ことで成立するコミュニケーションの一つである。
スペースデザイン論では、我々の思いを誘発する共振力、触発力といった造形の持つ力を認識し、空間と造形の関係について考察する。また、空間構成を行う上で必要となるキーワード（イメージ、プロセス、構成）を手掛かりに、造形表現のための方法を学び、自身の造形表現の方法を見つけ出す契機となることを目指している。

【課題の概要】

○通信授業課題 物語性の発見
Step1 日常の風景を画像として切り取り、画像から想起されるイメージや思いを200字程度にまとめ、コメントとして表す。
Step2 コメントに記されたイメージを定着させるために、エスキーススケッチを繰り返し行い、造形表現のための準備をする。
Step3 イメージ構成として完成させる。
※Step2で描いたエスキーススケッチは総て提出する。

＊課題については学習指導書『スペースデザイン論　2024 年度』を必ず参照する事。

○面接授業課題
指定された楽曲のイメージの造形化、空間化を目標とするが、合わせて制作の過程をコンセプトボードとして制作する。

【授業計画】

○通信授業
　学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

○面接授業
前半
第１日　前提講義　課題説明
　　エスキーススケッチ制作
第２日　エスキーススケッチ制作、コンセプト制作
　　中間発表、コンセプト制作

後半
第３日　模型制作、コンセプトボード制作
第４日　模型制作、コンセプトボード制作
　　発表、講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（スペースデザインコース 3 年次編入学生を除く）。

○備考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 3 年次必修科目。
スペースデザインコース 3 年次編入学生でも、「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」を履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『スペースデザイン論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

インテリア事典、映像イベント事典、現代デザイン事典などがコンパクトな参考書となるが、建築、インテリア、その他の雑誌類も新しい資料として役立つ。
身の回りの空間を見つめ直すためには、様々な作例の情報収集などにも注意しておく。

科目名	空間設計 Ⅰ						
授業コード	1340	授業科目名	空間設計 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、大抜久敏講師、坂本周講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

［商空間の考察と設計］
店舗や商業施設、展示会、ウインドウディスプレイなどにおける商空間の在り方を考える。授業では任意に設定した既存の商空間をリサーチし、その空間におけるデザインの意味や役割を分析し考察する。更にそれらの基礎データをもとに、あらたなデザインを企画し設計する。

商空間には企業やブランドのロゴタイプをはじめ展示される商品や広告映像など多様なデザイン要素が集積する。これらを編集し適正に消費者に伝達することと共に、創造的で個性的な空間も求められている。斬新な発想と現代的な商業価値を合致させるための商空間の新しい方向性を探る。

【課題の概要】

○通信授業課題
店舗のデザインリサーチと分析により商空間を論理的に考察する。

○面接授業課題
通信授業におけるデザインリサーチのデータをもとにあらたな空間設計を行う。

＊課題については学習指導書『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業→面接授業

○通信授業
任意で地域の店舗を選択し、そのデザインリサーチを行う。リサーチの主眼として店舗を構成するデザイン要素を抽出し、分析する。すなわち店舗のサイン（看板）などにおける企業やブランドのロゴタイプ、色彩などのデザイン。店舗で販売される商品のデザイン。販売台や壁面、床など空間のデザイン。
リサーチの成果を面接授業の初日に各自プレゼンテーションを行う。
※ 通信課題を面接授業初日に必ず持参すること。

○面接授業
デザインリサーチに基づき独自の発想で店舗デザインを設計する。店舗のロゴタイプ、色彩、および商品など既存のデザインは通信授業で収集したデータを標準的に使用する。
第１日　前提講義、通信授業のプレゼンテーション
第２日　コンセプトメイキング・アイディアスケッチ
第３日　設計・制作実習
第４日　設計・制作実習・プレゼンテーション・講評

【成績評価の方法】

通信授業および面接授業における課題への取り組み姿勢、プレゼンテーションの内容を主体に、出席状況を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
スペースデザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

○備考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

○学習指導書
『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

教科書の他に、各種の専門誌、商業施設関連の単行本等も、参考書として適宜利用する。
リサーチ、設計等においてデジタルメディアの活用も組み入れていく。

科目名	空間設計 Ⅱ						
授業コード	1350	授業科目名	空間設計 Ⅱ			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

光のデザイン / デザインの振り返り方

光には空気のような体感的な作用があり、影には視覚的な作用がある。光と影、素材と形体という複合的な効果から空間には意味が生まれ、人々の生活を豊かにしたり、空間を演出したりする。空間設計IIでは、空間自体やプロダクト、グラフィックなどの対象物を照らす「光」を題材として捉え、課題作成を通じて基本的な光のデザインと思考プロセスを研究する。
(ここで言う思考プロセスの一部として、作成したものを冷静に分析し、他者との比較や対話を行うことを通じて「いかに振り返るか」についても重点的に取り組む)

【課題の概要】

〇面接授業課題〔光のデザイン〕
一片45cmの立方体の内部空間を題材とし、課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想する。実際に立方体の内部空間を照らしながら、「光のデザイン」についてグループワークを通じて研究する。

・課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想して空間を照らし出す。
・グループワークを通じて狙いどおりの光のデザインが出来ているかを理解する。（デザインの自己点検と他者との対話を通じた「振り返り方」を行う。）
・学びを通じて課題をアップデートし、新たな提案に結びつける。

〇通信授業課題〔計画と構想〕
課題1では面接授業での取り組みを紙面に定着し、光と空間の「伝え方」について取り組む。課題2では、課題1での学びを活かして新たに設定されるコンセプトによる照明計画とその展開を構想する。

＊課題については学習指導書『空間設計I・II /スペースデザイン研究/卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業 → 通信授業

[面接授業4日間]
前半
第１日　前提講義・課題説明
　　テーマ設定とコンセプトの構想、モデルの作成
第２日　モデルの作成とグループワーク

後半
第３日　モデルの作成
第４日　プレゼンテーション準備
　　発表、講評、グループワーク

〇通信授業
写真、図表、図面、見取図等によるレポートの提出。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次〜

〇履修条件
スペースデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

〇備考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇学習指導書
『空間設計Ⅰ・Ⅱ /スペースデザイン研究/卒業制作 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

【その他】

・グループワークあり。
・本授業では、主に紙を使用した立体物の作成を行います。模型製作に最低限必要な、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
・使用する素材は当日の授業内に学内画材店にて購入する計画です。作成には2,000円程度が必要（作成物によって上下する）と理解し、当日の準備をお願いします。

科目名	スペースデザイン研究						
授業コード	1360	授業科目名	スペースデザイン研究			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、大野洋平講師、古謝里沙講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

［劇空間の演出性の考察と表現］
都市には、様々に演出された空間が混在する。例えば、イベントのための空間、演劇等の上演のための空間など特定の目的をもった施設、照明や造形物によって新たな意味を加えていく環境演出など多様な事例がある。その中軸となるのは、空間に劇的要素を加える演劇的手法である。テーマに応じて表現メディアをどのように組み合わせるか、演出手法の分析を通して学習する。

【課題の概要】

○面接授業課題
前半：劇的な空間表現手法の解説と事例の学習。台本分析。
後半：テーマを設定して、イメージを展開していく。

○通信授業課題
面接授業で実習したテーマのイメージスケッチ及び見取図を完成し、提出する。

＊課題については学習指導書『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業
第 1 日 前提講義と課題説明、台本分析
第 2 日 コンセプト作成、中間発表
第 3 日 イメージドローイング
第 4 日 プレゼンテーション準備、講評

○通信授業
面接授業で指定された空間とテーマに則して、スケッチと図面及び完成予想図を作成する。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
スペースデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。
Webキャンパスのフォーラム内に掲載する指定台本を事前に読んでおくこと。

○備考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

〇学習指導書
『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

教科書の他、面接授業では劇場、イベント、テーマパークなどの事例を紹介する。
人工的な空間ばかりでなく都市と自然の関係にも対応して授業を進める予定。

科目名	卒業制作						
授業コード	1850	授業科目名	卒業制作			担当者	荻原剛教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにスペースデザインコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4 年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作をすることが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

＊課題については、学習指導書『卒業制作　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇面接授業
各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。
※オンラインプラス［準備］― Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談
面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。
※オンラインプラス［中間］― Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス
制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

〇通信授業
テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・工芸工業デザイン学科スペースデザインコースに在籍していること。
・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。
・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

〇備考
工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇教科書
なし

〇学習指導書
『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	ミュゼオロジー Ⅰ						
授業コード	1370	授業科目名	ミュゼオロジー Ⅰ			担当者	新見隆教授、河原啓子講師、中島智講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科【学1課程】3年次必修科目【学2課程】3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー（博物館学）」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

【課題の概要】

〇面接授業課題
学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

〇通信授業課題
教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『ミュゼオロジーⅠ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

〇面接授業
・コレクション形成と美術館の成立／美術館と展覧会／学芸員の業務／美術館評価／美術館の動向　等
・美術館見学／学芸員・職員による説明／施設、展示、来場者等に関する調査
・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

〇通信授業
・（教材による学習）ミュゼオロジーの概念／ミュージアム体験の意味／博物館法／博物館の種類／ミュージアムの歴史／各国博物館の特徴と社会背景／設置形態と収集理念／ミュージアムの空間／キュレーターの視点　等
・（学修報告と添削指導）美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

◯教科書
新見隆編『ミュゼオロジーへの招待』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

◯学習指導書
『ミュゼオロジーⅠ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。
また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。
面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	造形民俗学						
授業コード	1380	授業科目名	造形民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

【課題の概要】

〇通信授業課題１「伝統的生活用具の機能と造形」
伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文 2000 ～ 3000字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方等も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

〇通信授業課題２「新しい生活用具の導入と生活の変化」
1960 年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部面とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文2000 ～ 3000 字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

＊課題については学習指導書『造形民俗学　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを充分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

【成績評価の方法】

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

〇備　　考
芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

【教材等】

〇教科書
田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社　1996 年）

〇学習指導書
『造形民俗学　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論			担当者	金子伸二教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1、2
教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『メディア論　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
・（教材による学習）教育におけるメディア活用／視聴覚教育の源流と展開／視聴覚メディアの諸形態／メディアの概念と歴史／メディア「による」教育と、メディア「についての」教育／メディア・リテラシー教育の成立と展開／博物館におけるメッセージ伝達／メディアを活用した展示／教育の情報化／メディアに関わる諸権利等
・（学修報告と添削指導）博物館内における情報発信の取り組みについての調査／博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

【成績評価の方法】

通信授業課題 1 と 2 を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・II」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

〇教科書
佐賀啓男編著『改訂　視聴覚メディアと教育』　（樹村房　2010 年）

〇学習指導書
『メディア論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形大学通信教育課程　2024 年）

【その他】

◯参考文献
『メディア・リテラシー』（菅谷明子著　岩波書店　2000 年）ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	編集研究						
授業コード	1400	授業科目名	編集研究			担当者	金子伸二教授、臼井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（科目試験あり）　面接授業						

【授業の概要と目標】

芸術文化を社会に伝えるうえで出版編集が果たしてきた役割とは何か？　主に出版メディアを対象に、編集意図や主張、恣意性、作為性を読み取り、政治・社会への働きかけや流行・文化との関係、執筆者や読者との関係、編まれ方の変遷などについて、観察と構造的な分析・研究を行なうことで、編集の役割について考える。

【課題の概要】

〇通信授業課題
A6 判 16 ページの小冊子の編集制作および 800 字程度の「制作レポート」（学習指導書参照）。

〇面接授業課題
出席による学習と、雑誌の観察・分析結果をまとめた報告書の作成（所定の「観察・分析シート」に記述）。

＊課題については学習指導書『編集研究　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
教科書に収録された以下の文章を批判的に検討し、自分の考え方を明確にして、小論文執筆の構想を練る。教科書の構成は以下のとおり。
「第一部」編集とは何か、プロデューサー（統括者）としての編集者、《編集》行為からみた宮沢賢治の《文学行為》、美術全集と東山魁夷
「第二部」書籍の装釘の話（内田魯庵、昭和 3 年）、教化機関としての小説及び浮世絵（市島春城、大正 14 年）、『文章世界』のこと（前田晃、昭和 17 年）、挿絵文化の意義（木村毅、昭和 16 年）

〇面接授業
第１日目　前提講義、編集と折・用紙・印刷などとの関係性についての講義、本の観察・分析演習１
第２日目　編集と製本・文字・装丁などとの関係性についての講義、本の観察・分析演習２
第３日目　書籍と雑誌の編集・デザイン、出版、流通の仕組み、電子書籍などについての講義、本の観察・分析演習３（雑誌の比較）

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

〇備　　考
芸術文化学科各コース 3 年次必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

〇教科書
酒井道夫編『教養としての編集』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

〇学習指導書
『編集研究　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	博物館資料保存論						
授業コード	2240	授業科目名	博物館資料保存論			担当者	金子伸二教授、成田朱美講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1、2
教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の２点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

〇通信授業
・（教材による学習）博物館における資料保存の意義（文化財資料に求めるもの／保全をおびやかすリスクとは／臨床的保存の必要性／職業倫理／資料保存を支える専門家）、環境と資料の状態診断（資料の保存公開と環境の関係／環境をモニタリングして状態を評価する／資料の調査診断と記録）、環境と予防保存（環境を改善して資料を保全する／博物館資料を安全に輸送する／保存箱で安全な環境をつくる）、劣化と修理保存（修理を行う前に状態を調査する／対症修理と本格修理の役割／修理報告書を作成する／本格修理の事例）、教育と普及（保存活動の公開／保存教育）、環境保護と博物館の役割（低炭素社会との共存／自然災害への対応／環境と調和する資料保存）
・（学修報告と添削指導）博物館における資料の保存公開活動の事例研究／資料劣化につながる環境因子についての調査報告

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

〇教科書
神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

〇学習指導書
『博物館資料保存論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館展示論						
授業コード	2250	授業科目名	博物館展示論			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1、2
教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

〇通信授業
・（教材による学習）博物館機能での展示の位置／展示の起源と展示学の成立／展示のインタラクティブ化・デジタル化／展示活動のプロセスと体制／展示に関する諸法令／館種等による展示の違い／展示を構成する諸要素／展示における解説活動／展示での資料劣化と管理／映像展示の特徴／展示におけるバリアフリー／展示の政治性・社会性／展示と知的財産権　等
・（学修報告と添削指導）展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究／身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

〇教科書
日本展示学会編『展示論　博物館の展示をつくる』（雄山閣　2010 年）

〇学習指導書
『博物館展示論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館教育論						
授業コード	2260	授業科目名	博物館教育論			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、川延安直講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

【課題の概要】

〇通信授業課題 1、2
・（教材による学習）博物館における教育／博物館教育の基礎理論／博物館での学習論／博物館の教育活動／さまざまな館・園の教育活動の特色／博物館教育プログラムの評価／社会教育施設としての博物館活動／博学連携の意義と課題／博物館教育をになう学芸員の役割

【授業計画】

〇通信授業
・（教材による学習）博物館における教育活動の背景／学校教育との関係／来館者とのかかわり／博物館の種類に応じた取り組み事例／博物館とまちづくり／体験型展示／ワークシートの位置づけと事例／ワークシート開発の流れと留意点／学校における鑑賞教育事業　等
・（学修報告と添削指導）教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究／教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

〇教科書
小笠原喜康ほか編『博物館教育論　新しい博物館教育を描きだす』（ぎょうせい　2012年）

〇学習指導書
『博物館教育論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	造形学概論						
授業コード	1410	授業科目名	造形学概論			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業（web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

造形にかかわる諸学についてその成立事情と問題意識を把握することを通して、造形研究の基本的な視座を獲得することを目的とする。授業では、近・現代日本における造形関連諸学の文献研究を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の読解を踏まえて、美学、芸術学、美術史学等、造形関連諸学の成り立ちについて考える課題。

○通信授業課題 2
近・現代日本における造形関連文献の精読を通して、造形と学問との関係について考える課題。

＊課題については学習指導書『造形学概論　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書による。
第 1 章　美術の枠組み
第 2 章　美的経験と感覚
第 3 章　美をめぐる知識
第 4 章　芸術家という個性
第 5 章　純粋なる作品
第 6 章　生活からの離脱
第 7 章　美術と造形

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

【教材等】

○教科書
金子伸二『造形学概論』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『造形学概論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	資料情報処理						
授業コード	1420	授業科目名	資料情報処理			担当者	堀越洋一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（web提出可）　面接授業						

【授業の概要と目標】

美術を広く人々の「鑑賞」に提供することを企画する者にとって、資料情報処理の理論を学ぶことは不可欠である。美術に関する各種データの研究及び表現の基礎として、美術資料及び情報の処理について研究する科目である。
美術・デザイン分野で扱う資料は文字情報のみならず、作品写真等の静止画像や映画、ビデオ等の動画像、音楽等の音声等多様であり、記録メディアも、印刷物から電子メディアまで多種類にわたるが、最近ではインターネット上での情報提供に見られるように、資料の電子化（デジタル化）が情報共有のために重要になってきている。
この科目では、多様な資料の特性、資料の収集から整理／提示手法、特にデータベース化などの電子化に関して学習する。通信授業では、文献資料の収集、書目、書誌、索引等の参考図書やレファレンスツールを理解し、面接授業では、図書や Web を通じた文献・画像資料の検索演習、個々人で小規模な書目類のデータベースを制作することを通して資料の収集、分析、再構築により様々な情報資源について理解することを目標とする。

【課題の概要】

〇通信授業課題
各自が利用できる図書館に行き、各自が決めたテーマ（美術史、デザイン分野など）についての参考図書を調査し、それを基に、レポート作成する。

〇面接授業課題
個々人で小規模な書目類のデータベースを、市販ソフトウェア（FileMaker Pro.）を使って制作する。収録データについては、手持ちの資料等より各自が選んで収集する。

＊課題については学習指導書『資料情報処理　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
美術を鑑賞に供するとはどういうことか。そのために必要なメディアや技術を理解するため、以下の項目を内容とする。制作にあたっては、学習指導書を精読してから取り組むこと。
・美術・デザイン分野の書目、書誌、索引等参考図書、Web（レファレンスツール）の概要。
・作品情報（作品写真、履歴、展覧会出品履歴等）、作家情報（氏名、生没年、参考文献、年譜等）の実例（記述項目、表記）を所蔵品目録、展覧会カタログ、カタログレゾネで検証するプロセス等。

〇面接授業
・参考図書や Web 上の美術・デザイン分野のデータベースの紹介と検索演習。
・個々人のテーマに沿った小規模なデータベースを制作する。
スクーリング前に各自が制作するデータベースのテーマについてメールで提出すること。提出方法はネットフォーラムを参照すること。

【成績評価の方法】

〇通信授業
課題に関するレポートの調査、考察の深度、完成度（レイアウト等）。

〇面接授業
作成したデータベースの完成度。

以上を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

◯備　　考
芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

◯教科書
藤田節子『図書館活用術　新訂第 4 版』（日外アソシエーツ　2020 年）

◯学習指導書
『資料情報処理　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

面接授業では第 1 日目に学外見学を予定。

科目名	媒体組成研究						
授業コード	1430	授業科目名	媒体組成研究			担当者	金子伸二教授、前多令子講師
開講期間	通年	単位数	3単位 （T2、S1）	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

芸術文化とりわけ造形芸術は、材料やその使用技法という物質的な要素を抜きに存在しえない。この授業では、造形芸術におけるこうした物質的要素を、記録や伝達、表現といった機能を個別的な作品として成立させる媒体としてとらえ、その時代的・地域的な特性や、例えば絵画における壁画・タブロー・挿絵等といった媒体の形式と美術館・印刷物・映像等による作品の鑑賞・受容のあり方とのかかわりを把握することをとおして、造形芸術に対するより深い理解を獲得することを目的とする。通信授業では、造形芸術と媒体とのかかわりについて、近代における複製技術の役割を中心に、理論的・歴史的観点から学習する。面接授業では、研究のケーススタディとして、今日まで造形芸術の主要な媒体の一つとなってきた書物について、その素材や構造を伝統的な書物工芸によりながら学習する。

【課題の概要】

〇面接授業課題
書物工芸の歴史についての理解をもとに、西洋と日本の書物における材料・技法の特性と書物の機能について分析する課題。

〇通信授業課題 1・2
教科書の読解をとおして得られた理解をもとに、近代の造形芸術における媒体の変化および複製の概念について考察する課題。

＊課題については学習指導書『媒体組成研究　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇面接授業
・書物工芸の歴史に関する前提講義と博物館等の見学。
・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（西洋の書物）
・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（日本の書物）
・演習の報告と総括

〇通信授業
教科書（とりわけ、芸術作品におけるアウラの複製技術による凋落についての論述）の精読、参考文献等の資料調査およびレポートの作成。

【成績評価の方法】

〇通信授業
レポートによる。

〇面接授業
演習での報告による。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

〇備　　考
芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。
「ブックバインディング」の単位を修得しておくことが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

◯教科書
ヴァルター・ベンヤミン「複製技術の時代における芸術作品」『ボードレール他五篇』所収（岩波書店　1994 年）

◯学習指導書
『媒体組成研究　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

面接授業では学外見学を予定。

科目名	造形学研究						
授業コード	1440	授業科目名	造形学研究			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	3単位 (T3)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

造形研究の多様な視点を把握し、各自の研究の立脚点を把握する視点を構築することを目的とする。
様々な方法論を、歴史的に遡及して探索したうえで、その今日的な意味を検討する。授業では、研究のための基礎資料の収集と分析を行う。

【課題の概要】

〇通信授業課題１～３
特定の主題に関する基本文献の探索と学説を把握する課題。

＊課題については学習指導書『造形学研究　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
教科書による。
・モダニズムを超えるために
・ヌードのへそ
・通俗造形論
・私的マンガ論
・ノート
・リズム都市・浅草
・「紙のうえの都市」フィールドノート
・20 世紀デザイン運動の意味
・「装釘時代」について

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

〇備　　考
芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇教科書
『造形学研究』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

〇学習指導書
『造形学研究　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1860	授業科目名	卒業制作			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるということである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。
とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

＊課題については学習指導書『卒業制作　2024 年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は 5 月 7 日必着。

〇面接授業
研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・芸術文化学科各コースに在籍していること。
・芸術文化学科各コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
・芸術文化学科各コース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

〇備　　考
芸術文化学科各コース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇教科書
なし

〇学習指導書
『卒業制作　2024 年度（芸術文化学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	加藤幸治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師
開講期間	通年	単位数	2単位 （T1、S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

【課題の概要】

〇面接授業課題
博物館の生涯学習活用について講義と小課題等により指導。

〇通信授業課題
教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『生涯学習概論　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

〇面接授業
スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。
・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館　等
・施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
・発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

〇通信授業
・（教材による学習）生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見　等
・（学修報告と添削指導）社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

◯備　　考
スクーリング時に受講人数制限をする場合がある。
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

◯教科書
神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局　2008 年）

◯学習指導書
『生涯学習概論　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。
面接授業では小課題の作成・提出・発表等を予定。

科目名	ミュゼオロジー Ⅱ						
授業コード	1460	授業科目名	ミュゼオロジー Ⅱ			担当者	金子伸二教授、杉浦幸子教授、足立圭准教授、嘉藤笑子講師、弘中智子講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択必修）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー」概念についての理解を踏まえ、博物館の経営（経営基盤、管理・運営、他機関・地域連携等）と資料（収集、整理保管、活用、調査研究等）に関する基礎的な知識を修得するとともに、美術館を中心とした国内外の博物館の具体的な諸事例を通じて、博物館における機能や事業との関連、今日の動向や課題について学修すること。

【課題の概要】

〇通信授業課題１～４
教材による学習の後、資料収集の意義に関する事例調査、収蔵資料と企画展示との関係、博物館の個性化・多様化傾向の要因、文化行政の変化と博物館の役割を考察する４点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『ミュゼオロジー Ⅱ　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
・（教材による学習）ミュージアムと経営（組織・人材／行財政／使命・評価／施設・設備／教育）、ミュージアムと資料（理念／収集／調査・研究／整理／活用）　等
・（学修報告と添削指導）資料収集の意義に関する事例調査／収蔵資料と企画展示との関係についての考察／博物館の個性化・多様化傾向の要因についての考察／文化行政の変化と博物館の役割についての考察

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
４年次

〇履修条件
（学1課程）
文化支援コース３年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

〇備　　考
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース４年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の３年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース４年次選択必修科目。
芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の３年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

◯教科書
金子伸二・杉浦幸子編『ミュゼオロジーの展開　経営論・資料論』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

◯学習指導書
『ミュゼオロジー Ⅱ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

現場での体験を得るために、美術館・博物館などが募集するボランティア活動などに積極的に参加することが望ましい。インターネットなどを活用し、情報を収集する。
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館実習						
授業コード	1470	授業科目名	博物館実習			担当者	新見隆教授、金子伸二教授、足立圭准教授、榎本寿紀講師、嘉藤笑子講師、山澤千春講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

【課題の概要】

〇通信授業課題
展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

〇面接授業課題
学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調書作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

＊課題については学習指導書『博物館実習　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
・（学修報告と添削指導）学内実習（見学実習）該当　テーマ検討／展覧会の領域決定／対象館の所蔵資料調査／展覧会会場の空間条件考慮／対象館の基礎情報把握／所蔵資料の詳細調査／展覧会趣旨・目的の構想／展覧会の章立てと展示作品確定／展示作品のデータ整理／作家履歴の調査／企画書の作成／対象館の展示状況調査／会場配置と表示構成検討／関連事業立案　等

〇面接授業
・ 学内実習（事前指導）該当　オリエンテーション／実習の目標とテーマ／大学美術館の沿革と所蔵資料　等
・ 学内実習（実務実習）該当　ワークショップの立案・実践に向けた演習／ワークショップの計画／アウトリーチ活動の現状／ワークショップ企画の発表と講評指導／今日の美術と社会をめぐる状況／実習全体についての質疑応答　等
・ 館園実習該当　作品調書の作成／資料の梱包／資料借用の手続き／美術館の広報活動／展覧会の企画／展示作品の解説／展示方法の演習／保存科学と修復／展覧会企画の発表と講評指導　等
・ 学内実習（事後指導）該当　文化遺産の保存／収蔵品管理の諸問題／美術館・学芸員に関するディスカッション　等

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
（学1課程）
文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
（学2課程）
芸術研究コースの学芸員課程履修者で、「ミュゼオロジーⅠ」「メディア論」「生涯学習概論」すべての単位を修得していること。

◯備　　考
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース4年次選択科目。
芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

◯教科書
なし

◯学習指導書
『博物館実習　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

企画書作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。
※ この授業科目の面接授業（スクーリング）を受講する以前に、本学が定める必修科目 8 単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員資格取得証明書」の発行対象となる。
面接授業ではグループワークを予定。

科目名	文化支援研究						
授業コード	1480	授業科目名	文化支援研究			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

来るべき生涯学習社会を目指し、造形の立場に立脚しつつ、文化と社会との関わりを理解し支援するための方法論の探究を行う。
授業では、文化の概念と文化環境の動向把握、今後の展開に向けた検討を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題
今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する課題。

＊課題については学習指導書『文化支援研究　2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・文化の概念と近代以降の文化研究の系譜を把握する。
・今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する。
・データを通して文化施設や文化行動の現状と地域文化環境を把握する。

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

○備　　考
芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
なし

○学習指導書
『文化支援研究　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1870	授業科目名	卒業制作			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるということである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。
とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

＊課題については学習指導書『卒業制作　2024 年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は 5 月 7 日必着。

〇面接授業
研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・芸術文化学科各コースに在籍していること。
・芸術文化学科各コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
・芸術文化学科各コース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

〇備　　考
芸術文化学科各コース 4 年次必修科目。

【教材等】

〇教科書
なし

〇学習指導書
『卒業制作　2024 年度（芸術文化学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】
なし

科目名	メディア環境論						
授業コード	1490	授業科目名	メディア環境論			担当者	上原幸子教授、福井政弘教授、棚橋早苗講師、藪内新太講師、河野奈保子講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

○授業テーマ「メディアを考える／メディアで遊ぶ」
私たちのコミュニケーションを成り立たせている多様なメディアとメディア環境を広く捉え直し、新たなメディアの思考と実践へと繋げることを目標とする。たとえば、メディアを取り巻く環境としては、社会体制・経済・産業・科学・技術・歴史・文化・思想・教育等があり、これらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくっていると考えられる。フィールドワークを通して現在のメディア環境を広く考察し、自らの手で実践的に新たなメディアの制作と提案を試みる。

【課題の概要】

○通信授業課題　課題名　「メディアの解剖」
「メディアを考える」をキーワードに、身近なモノやコトの中からメディアとして考察する対象をひとつ決め、そのメディアとメディア環境の成り立ちや仕組みを深く観察、分析し、「メディアの解剖」を試みる。解剖のプロセスと成果を図説、図解等のビジュアル表現を中心に視覚化し、ビジュアルブック「メディア解剖図鑑」を制作する。

○面接授業課題　課題名　「メディアの発明」
「メディアで遊ぶ」をキーワードに、ワーキンググループで身近な環境のフィールドワークを行いながら、メディアとメディア環境の多様性と可能性を多角的に観察、考察する。授業の共通テーマは「水」とし、「玉川上水周辺」を考察のフィールドとする。フィールドワークをもとに、個人制作で「新たなメディア」のプロトタイプを試作し、プレゼンテーションでは「メディアで遊ぶ」の実践と提案を試みる。

【授業計画】

○通信授業「メディアの解剖」
教科書と学習指導書を読み、学習指導書に沿って「メディア解剖図鑑」を制作し、提出する。

○面接授業「メディアの発明」
具体的な授業進行については、授業初日にオリエンテーションを行う。
・1日目：オリエンテーション、ミニワークショップ、フィールドワーク、グループディスカッション
・2日目：フィールドワーク、個人制作
・中間期間：オンラインプラスによる指導
・3日目：個人制作、仕上げ、プレゼンテーションの準備
・4日目：プレゼンテーション、講評、ふりかえり

※オンラインプラス［中間］― オンライン上で制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

○通信授業課題「メディアの解剖」
提出された「メディア解剖図鑑」の総合評価とする。

○面接授業課題「メディアの発明」
制作した作品と提案内容、プレゼンテーションを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
3 年次～

◯履修条件
「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」または「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（デザイン情報学科 3 年次編入学生を除く）。

◯備　　考
・デザイン情報学科各コース 3 年次必修科目。
・オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境、Facebookのアカウントが必要となる。

【教材等】

◯教科書
『名前のないデザインー世界の日常と社会を動かす思いがけないデザインの話』（Works That Work 編集部　2020年）

◯学習指導書
『メディア環境論　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯面接授業課題「メディアの発明」
授業前半にワーキンググループ（5名程度）で、玉川上水周辺のフィールドワーク（学外見学）およびディスカッションを行う。

◯参考文献
・高橋裕行著『コミュニケーションのデザイン史ー人類の根源から未来を学ぶ』（フィルムアート社 2015年）
・柏木博著『日用品の文化誌』（岩波書店　1999年）
・水越伸著『メデイア・ビオトープーメデイアの生態系をデザインする』（紀伊國屋書店　2005年）
・佐藤卓デザイン事務所著『デザインの解剖』シリーズ全4巻 （平凡社　2001～2003年）
・永原康史著『インフォグラフィックスの潮流ー情報と図解の近代史』（誠文堂新光社　2016年）
・ファン・ベラスコ＋サムエル・ベラスコ著　和田侑子訳『なかみグラフィックスー断面図・分解図・透過図のめくるめく世界』（グラフィック社 2019年 ）
・小林眞理子著＋こばやし ちひろイラスト『煮干しの解剖教室　オリジナル入門シリーズ』（仮説社 2010年）
・佐治康生、上路ナオ子著『種子のデザインー旅するかたち　LIXIL BOOKLET』（LIXIL出版　2012年）
・寄藤文平著『数字のモノサシー絵で見る数字の感じ方』（大和書房　2008年）

科目名	マルチメディア表現						
授業コード	1500	授業科目名	マルチメディア表現			担当者	清水恒平教授、望月重太朗講師、濱田織人講師
開講期間	通年	単位数	3単位（T1、M2）	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

マルチメディアが前提となっている現代社会をあらためて捉え直しながら、ネットワーク、ソーシャルメディア等の技術やサービスの可能性と問題点を考察しながら、マルチメディアコンテンツの企画と提案を行う。

面接授業はグループワークを行う。リサーチやフィールドワーク、テーマ発見、アイデア発想のプロセスを通して、私たちの暮らしに彩を与えるコンテンツを企画する。利用シーンを想定した試作品の制作やプレゼンテーションにも取り組む。

コンテンツの方向性に制限はないが、ICT社会における私たちの暮らしがどのような技術の上で成り立っているのかを知ることで、今、本当に求められるコンテンツは何かを考え、発想する力を伸ばすことを目標とする。

メディア授業［リアルタイム］は全日を通じオンラインのみで行う。各自が自由に、各々のクリエイティビティを発揮できる場所から参加して欲しい（ただし、カフェや公共空間など、雑音の多い場所は避け、参加者同士が静かに集中できる環境が望ましい）。遠く離れた参加者同士が、今の通信環境と制作環境を用いながら、一つの目的に向かってアウトプットを構築していく試みである。

【課題の概要】

〇メディア授業課題　「社会にも経済にもサスティナブルなアイデアをデザインする」
テーマに基づき、「なぜ＝Why」「何を＝What」「どうやって＝How」の流れに沿ってアイデアを考え、アウトプットを導きだしていく。グループワークにて進行し、最終日にプレゼンテーションを行う。

デザイン活動を行う中で「サスティナブル」は大きなキーワードである。つくる、という行為は同時に「すてられるものをつくる」行為とも言える。そこを意識し、無為に消費されるだけではない循環するモデルについて改めて問い直していく。ただし、経済活動と連動しないアイデアは多くの場合において継続せず、どれだけ良いアイデアでも社会には定着しない。社会にも、環境にも、人にも、そして経済的にもサスティナブルとなるアイデア（総じて「サーキュラーエコノミー」と呼ばれることもある）とは何か？に向き合い、具体的なアイデアを構築することを目的とする。

授業内では、Web会議システム「Zoom」を使用して進行し、同時にメッセージ共有ツール「Slack」を用いて各参加者や事務局とのやり取りを行う。またオンラインホワイトボードシステム「miro」や、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」を用いてアイデアを具体化する。よって、受講者自身のパソコン上でこれらのツールを使う前提の元、各ツールがどのようなものか？を科目参加前に各自で把握した上で授業を進めることとする。

〇通信授業課題「任意のテーマによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」
自分自身の問題意識からテーマを設定し、課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画書にまとめる。

＊課題については、学習指導書『マルチメディア表現　2023年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇メディア授業
第１日：オリエンテーション、企画検討
第２日：企画検討、企画案発表
第３日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備
第４日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、総評

・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
・スクーリングの約１週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「面接授業（スクーリング）日程表・メディア授業［リアルタイム］日程表」を参照すること。
・4日間全ての出席が必要。

〇通信授業
教科書『マルチメディアを考える』の全章を範囲とする。

【成績評価の方法】

提出された課題作品によって評価を行うものとする。メディア授業においては出席状況も評価の対象となる。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」または「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（デザイン情報学科 3 年次編入学生を除く）。

〇備　　考
デザイン情報学科各コース 3 年次必修科目。
下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの。
・画像の編集作業ができるソフトウェア（Adobe Photoshop など）
・企画書作成のためのページレイアウト用ソフトウェア（Adobe Illustrator、InDesign など）
・コンテンツのサンプルを Web として作成するためのソフトウェア（テキストエディタあるいは Web ページ作成ソフト）
・指定された Web サイトにアクセスできること。
・Web会議システム「Zoom」が使えること
・メッセージ共有ツール「Slack」、オンラインホワイトボードシステム「miro」、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」について事前に把握し、自身の作業環境で扱えることを確認した上で授業に臨むこと
・授業でも触れていくが、事前に「サスティナブル」や「サーキュラーエコノミー」について調べておくことが望ましい
・「コンピュータリテラシーⅠ」程度の知識は有していること。授業内でコンピューターの基本操作(テキスト入力やマウス操作など)の説明は行わない。
・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。その場合は、最新バージョンを使用すること。

【教材等】

〇教科書
清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局　2016年）

〇学習指導書
『マルチメディア表現　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

〇面接授業について：グループワーク・発表を行う。

科目名	イメージ編集 Ⅰ						
授業コード	1510	授業科目名	イメージ編集 Ⅰ			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、中村孝太郎講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「イメージ編集 I」では、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が、人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。

ここでは、自らの視点から捉えたテーマを、日常の身体を通した、視る・聴く・味わう・触れるなどの体験に基づいて記録する。取材や情報の収集を含め、編集し、表現することのプロセス全体を実践することで、コミュニケーションとしての適切な方法を考える。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、紙によるメディア制作を通して編集デザインを実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
個人の明確な情報の発信を他者に行うコミュニケーションの手段として、「私の博物誌」「私の食文化誌」を A to Z という形式で考え、紙によるメディアを制作する。
A1 サイズ 1 枚分の紙を、折る・切る・束ねる・連ねる、その他自由な形態を考え、自らの視点で編集し、テーマを受け手にわかりやすく伝え、面白いコミュニケーションツールを考える。

〇面接授業課題
通信課題で得られた理解を応用した編集デザインの実習、「文字の本」を制作する。

＊課題については、学習指導書『イメージ編集Ⅰ・Ⅱ　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
日常の中にある物事を改めて自らの視点で眺め、問題や関心を深めていくことから、体験的に集められてくる情報や物事の成り立ちのプロセスを探っていくことでさまざまな発見をする。それらを独自の方法で編集することで、より良好なコミュニケーションの手段を考える。編集デザインの計画をなるべく 9 月上旬までに送り、チェックを受けた後、本制作をする。

〇面接授業
編集デザインを中心とした授業（4 日間）。

【成績評価の方法】

〇通信授業
提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

〇面接授業
制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
3 年次～

〇履修条件
「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生を除く）。

◯備　　考
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目。
コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生は「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

【教材等】

◯教科書
白尾隆太郎・杉山衛編著『新訂 イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局　2024年）

◯学習指導書
『イメージ編集 I・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
石毛直道監修、熊倉功夫編『講座 食の文化 2　日本の食事文化』（味の素食の文化センター 1999年）
芳賀登・石川寛子監修『全集 日本の食文化 第 12 巻　郷土と行事の食』（雄山閣出版　1999年）
石川英輔『大江戸えねるぎー事情』（講談社　1993年）
工藤強勝監修　日経デザイン編『編集デザインの教科書』（日経 BP 社　1999年）

科目名	イメージ編集 II						
授業コード	1520	授業科目名	イメージ編集 II			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、杉山衛講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「イメージ編集 II」は、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。教科書『新訂 イメージ編集』にあげた「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の 8 つのテーマは、それらを分類することによって、背景にある作家の動機や思想を浮き彫りにしようとするものである。その思想に触れることにより、どのようにして表現されたものが成立してきたかを理解し、自らがコミュニケーションの担い手として、自らがイメージの世界を追求する。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、エディトリアルデザインなどの編集デザインの実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
教科書『新訂 イメージ編集』にある「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の 8 つのテーマから、3 つを選んで、あなた自身がそれぞれ　2 種類の作例に相応しいと思われる作品を、デザイン・美術作品・写真・建築・コミックス・音楽などから選択し、図版と解説を指定されたデザインフォーマットにまとめる。また、8 つのうちから 1 つのテーマを選び、作品をつくる。

〇面接授業課題
エディトリアルデザイン「自分図鑑」を制作する。

＊課題については、学習指導書『イメージ編集 I・II　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書『新訂 イメージ編集』と学習指導書『イメージ編集 I・II　2024年度』による。

【成績評価の方法】

〇通信授業
提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

〇面接授業
制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
4年次において「イメージ編集 I 」と同時履修をする場合、スクーリングは「イメージ編集 I 」のスクーリング先に受講することを推奨する。

〇備　　考
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

◯教科書
白尾隆太郎・杉山衛編著『新訂 イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局　2024年)

◯学習指導書
『イメージ編集Ⅰ・Ⅱ　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	コミュニケーション研究 Ⅰ						
授業コード	1530	授業科目名	コミュニケーション研究 Ⅰ			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、薮内新太講師、河野奈保子講師、山田翔太講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究I」では、プロジェクトのデザインについて学ぶ。
デザインを考えるには、対象と目的が明確であることが必須である。具体的な相手と目的を見据えることで漠然とした提案にならず、アイディアを考えることへのモチベーションを高めることにつながる。この授業では、魅力あるプロジェクトを企画立案し、相手に伝わるプレゼンテーションについて考察する。人との共通の体験をとおして、考えた企画を動かすために必要な「デザイン」の手応えを得ること、やったことを可視化し「形」を共有すること、そして自分にフィードバックされるプロジェクトデザインの意義を確認することを目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、ワークショップとメディア制作を通して、情報発信の基礎を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

プロジェクトをデザインする
○面接授業課題　地域再発見のデザインプロジェクト
都内の特色あるコミュニティデザインの主催者をゲストに招き、ソーシャルデザインの社会的な意義や役割、地域での必要性、活動の動機や継続していくための工夫などレクチャーを行う。フィールドワークを元に、その魅力の分析を行い、新たな課題の設定とプロジェクトの提案を行う。
お互いのアイディアを高め合うため、グループでのワークショップやディスカッションを行い、ゲストに対してのプレゼンテーションを行う。

○通信授業課題　日常生活活性プロジェクト
日常生活活性をきっかけに、仲間や家族とちょっとした工夫を楽しむプロジェクトをデザインする。プロジェクトの企画意図、関わるメンバーの紹介・実行の過程・感想や考察など、やったことを振り返り共有することのできる「プロジェクトの記録」を可視化する。

【授業計画】

○面接授業　「三鷹のまちで○○を楽しむ、おもしろがるプロジェクト」
＜前半＞
・ゲストティーチャーによる事例紹介
・フィールドワーク
・対象へのリサーチ活動
・グループディスカッション、ワークショップ
・プロジェクトの素案作成
＜後半＞
・プロジェクトの具体化
・プレゼンテーションに向けての準備、役割分担
・コンセプトシートの作成
・ゲストティーチャーへのプレゼンテーションとふり返り

○通信授業　日常生活活性プロジェクト
日常生活や人間関係をより豊かにするために、身の周りの人たちとできる小さなプロジェクトを企画・実行する
・もっと生活を楽しくしたい、ちょっとした喜びを感じたいと思うところからスタート
・身近な人と、実際にできることを企画する
・プロジェクトの企画と同時に制作物の構成も考える
・企画を楽しくするためのコミュニケーションツールを制作する
・プロジェクトを実行し、記録をとる
・やったことを可視化するデザイン構成を考え制作する
・プロジェクトをふりかえり、メンバーにプレゼントする

※ 授業の前に教科書を熟読すること。
※ 面接授業受講に際しては持参物の確認をすること。
※ 課題内容については学習指導書『コミュニケーション研究I・II　2024年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
3 年次～

◯履修条件
「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生を除く）。

◯備　　考
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目。

【教材等】

◯教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局　2018年）

◯学習指導書
『コミュニケーション研究 I・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

面接授業では、グループワークを行う。

◯参考文献
山崎義人著・清野隆著・野田満著『はじめてのまちづくり学』（学芸出版社　2021
年）
上平崇仁著『コ・デザイン』（NTT出版　2020年）
佐藤郁哉著『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（新曜社 2002年）

科目名	コミュニケーション研究 Ⅱ						
授業コード	1540	授業科目名	コミュニケーション研究 Ⅱ			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、角めぐみ講師、江澤勇介講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究Ⅱ」では、コミュニティーデザインについて学ぶ。
個人と社会のかかわりをテーマに、地域にコミットするための取材・メディア化について発展的に学ぶ。リサーチを元に眠っている資源を掘り起こし、人と人・人と社会など、さまざまな場面でのインタラクティブなコミュニティデザインの可能性を探る。メディアをコミュニケーションの道具として捉え、誰にでもわかりやすい見せ方、企画やテーマが最も生かされる表現手法など、メディアリテラシーの獲得を目指す。
アートとデザインには、まちや人を元気にする力がある。地域の資源を生かしながら、地域社会に於けるアートとデザインの活躍の場を広げていくことを目的に、生きた学び合いの場を創出する。美術大学での学びを活かし、私たちに何ができるかを共に考え、改めて問い直してみる機会としたい。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、ワークショップとメディア制作を通して、情報発信の基礎を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
コミュニティールポ
自分の地域にある自慢したいモノ・コト・ヒトをリサーチし、活動の場に実際に足を運んでのインタビューと取材を行い、その活動を伝えるメディアの提案をする。
誰に対して何を伝えたいのかを明確にすることによって、多様なメディアの形態が考えられる。制作物は取材先にプレゼントし、その報告とともに提出する。

〇面接授業課題　コミュニティデザインセミナー
校友会との連携により、コミュニティデザインに携わっている卒業生をゲストに迎え、グループで授業内オンラインセミナーイベントを企画・開催する。学び合う場づくりをとおして、合意形成のためのコミュニケーションデザイン、プロセスのデザイン、空間のデザイン、広報のデザイン、プロデュースなど、イベントの企画運営に必要な複合的要素を学ぶ。

【授業計画】

〇通信授業
コミュニティールポ
・地域を知る。
・自分の中にあるアンテナの再確認を行う。
・取材をする。
・地域の活動を紹介する編集企画を考えメディアを制作する。
中間指導を受ける（郵送提出）
・制作物を提出し、教員からのアドバイスを受ける。
取材先への報告レポート（web提出）
・アドバイスを元に完成させ、制作物と共に取材先に報告する。

〇面接授業　コミュニティデザインセミナー
（前半）
・ゲストティーチャーによるレクチャー
・コミュニティデザインセミナーの企画を考える
・広報制作
（後半）
・紹介動画の作成
・オンラインセミナーの企画開催
・まとめと記録制作

※ 授業の前に教科書を熟読すること。
※ 面接授業受講に際しては持参物の確認をすること。
※ 課題内容については学習指導書『コミュニケーション研究I・II　2024 年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
※4年次において、「コミュニケーション研究Ⅰ」と同時履修する場合、スクーリングは「コミュニケーション研究Ⅰ」のスクーリングを先に受講することを推奨します。

〇備　　考
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4 年次必修科目。
・面接授業では、受講人数を制限する場合がある。
・スクーリングの約１週間前にWebキャンパス上で資料のURLを掲載する。授業前に資料を確認し、ゲストについてリサーチしておくこと。

【教材等】

〇教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局　2018年）

〇学習指導書
『コミュニケーション研究Ⅰ・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

〇参考文献
・山崎亮著『コミュニティデザイン一人がつながるしくみをつくる』（学芸出版社　2011年）
・渡邉淳司・ドミニク・チェン著『ウェルビーイングのつくりかた　「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド』（ビー・エヌ・エヌ新社　2023年）

・面接授業では、グループワークを行う。

科目名	卒業制作						
授業コード	1880	授業科目名	卒業制作			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにコミュニケーションデザインコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4 年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・Web上のコミュニケーションツール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作をすることが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

＊課題については、学習指導書『卒業制作　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇面接授業
各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。
※オンラインプラス［準備］― Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談
面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。
※オンラインプラス［中間］― Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス
制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

〇通信授業
テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコースに在籍していること。
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

〇備　　考
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4 年次必修科目
・オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。
・5月頃にWEBキャンパス「学生メニュー」のネットフォーラム上にオンラインプラス実施に関する情報を発信する。5月にはネットフォーラムを確認すること。

【教材等】

〇教科書
なし

〇学習指導書
『卒業制作　2024年度（デザイン情報学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。
面接授業について：グループワークを行う。

科目名	情報通信ネットワーク						
授業コード	1570	授業科目名	情報通信ネットワーク			担当者	清水恒平教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位（T1、M2）	学年	3〜4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

情報技術を“学ぶための技術と姿勢”を学ぶことを目標とします。

スマートフォンやインターネットといった情報技術は、わたしたちの生活になくてはならないものとなっています。しかし情報技術はもともとは売上の計算したり便利に買い物するために作られたわけではありません。情報技術はさまざまな問題に立ち向かうための新しい「道具」として進化してきました。そして今も表現活動も含めさまざまな分野において、情報技術はなにかを生み出す道具であるという本質は変わりません。消費者の立場からアプリケーションやネットサービスのような「商品」を使いこなすだけでは、作品の作り手になることは難しいでしょう。

木工を経験したことがある人ならわかるとおり、それぞれの道具は使い手によって洗練され、正しく使うためにはその形態の意味や歴史的背景を学び、身体を訓練する必要があります。洗練された道具を適切に扱うことでしか生まれないものがあるという点においては、情報技術も木工も変わりありません。授業では、作る道具としてのコンピュータとインターネットの歴史に触れるとともに、それらを自力で学び、使い、作るため何が必要かというテーマを掘り下げてみたいと思います。実習を通じて、消費者として触れるのとは異なる世界の道具観、論理的思考、解決に向けた問題の切り分けかた、身体訓練、記録方法といった、個別技術に依存しない学ぶための技術と姿勢を学びます。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、ネットワーク技術について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
Git、GitHubについてのリサーチと実践

〇メディア授業［リアルタイム］課題
前半　サーバ構築の課題にむけて、Linux の基本操作、Markdown による作業記録、AWS（Amazon Web Services）の利用方法、そしてこれらの未知の技術を調べて自力で理解するための基本姿勢を学ぶ。

※オンラインプラス［中間］　slackなどで課題の進捗報告、作業記録公開、ディスカッションを行う。

後半　構築した AWS 上で Python をつかった Web ページのスクレイピングを行う。プログラムの自動実行の仕組みを学び、構築したサーバをデータ収集システムとして利用可能にする。なおこの仕組みは 4 年次にも使用する前提で構築を進める。

【授業計画】

〇メディア授業
・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
・4日間全ての出席が必要。

メディア授業［リアルタイム］の前に、教科書に目を通しておくこと。
質問の仕方について　https://ja.stackoverflow.com/help/how-to-ask を確認すること。

【成績評価の方法】

・メディア授業［リアルタイム］及び通信授業の総合評価とする。
・メディア授業［リアルタイム］ではとくに技術的な到達点ではなく、ドキュメントの内容や論理的思考・問題解決にあたる姿勢を評価する。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
3 年次～

◯履修条件
「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること（デザインシステムコース 3 年次編入学生除く）。

◯備　　考
デザイン情報学科デザインシステムコース 3 年次必修科目。
以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
・macOSであればTerminal、WindowsであればPowershellなどのシェル環境
・インターネット接続環境
・パソコンの購入を検討中であれば持ち運び可能な Mac（MacBook Pro、MacBook Air）を勧める。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

◯教科書
『基本からわかる 情報通信ネットワーク講義ノート』（大塚裕幸　オーム社　2016年）

◯学習指導書
『情報通信ネットワーク 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
・『新しい Linux の教科書』（三宅英明　大角祐介　SB クリエイティブ　2015年）
・『Amazon Web Services 基礎からのネットワーク＆サーバー構築 改訂版』（玉川憲　片山暁雄　今井雄太　大澤文孝　日経 BP 社　2017年）
・『みんなの Python 第 4 版』（柴田淳　SB クリエイティブ　2016年）
・『エンジニアの知的生産術』（西尾泰和　技術評論社　2018年）
・『Git』（http://git-scm.com/book/ja/v2）

○メディア授業［リアルタイム］について：グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	画像表現研究						
授業コード	1550	授業科目名	画像表現研究			担当者	清水恒平教授、青木聖也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　面接授業						

【授業の概要と目標】

本科目では画像表現を通して、人の知覚や認知について考察する。
画像に関する技術を用いて、人が感覚的に捉えている視覚イメージを解析し、尺度化していく。
最終的にその結果をインスタレーションとして表現し、実際に体験することで、人間の認識がどのように影響を受けるのかを確認しながら、背景技術に対する深い理解とその習得を目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、画像表現について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
・画像表現、インスタレーション作品の調査分析と研究提案

〇面接授業課題
・画像表現の実制作とプレゼンテーション。

※ 課題については、学習指導書『画像表現研究　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業
教科書『ビジュアル情報処理 ―CG・画像処理入門―』の全章を範囲とする。

〇面接授業
第１日　オリエンテーション・各自課題設定
第２日　企画制作／カウンセリング（ネットワーク上でヒアリング）
第３日　制作／チェック（ネットワーク上でヒアリング）
第４日　制作／チェック／講評／リフレクション
※オンラインプラス［中間］―　Slack上での中間アドバイス

【成績評価の方法】

提出された課題によって評価を行うものとする。面接授業においては出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
デザインシステムコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。

◯備　　考
デザイン情報学科デザインシステムコース 4 年次必修科目。
下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの
・Adobe Photoshop 等の画像編集ソフトウェア
・Web ブラウザ
・processing
・skype ／ messenger 等
下記の条件のコンピュータネットワーク環境が活用できること。
文字・音声チャットが可能なインターネット接続
※スクーリング時に大学の PC を使用することが可能だが、自分の PC（ノート PC）を持参できる者は、持参することをお勧めする。持参する際には、TouchDesignerのインストールとユーザー登録を事前に行うこと。

【教材等】

◯教科書
『ビジュアル情報処理 ―CG・画像処理入門―』（公益財団法人画像情報教育振興協会 2017年）

◯学習指導書
『画像表現研究　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

◯参考文献
『Beyond the Display：21 世紀における、現象のアートとデザイン』（岩坂未佳著・編　ビー・エヌ・エヌ新社　2015）

◯面接授業について：グループワークを行う。

科目名	データベース						
授業コード	1560	授業科目名	データベース			担当者	清水恒平教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位（T1、M2）	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

データを通して考察できる社会の変化、表現手段、技術的な背景について実習を通じて学びます。

近年データという単語そのものが注目され、メディアでは AI、データ分析という言葉を目にしない日はありません。私たちの社会はビジネス、行政、教育、医療、そして表現活動の分野においてもデータを有効に活用するよう変化しつつあります。この授業ではそうした多様なインパクトをもつデータの世界を技術背景、社会的な影響、さらに表現の視点から掘り下げてみたいと思います。

具体的にはデータ分析環境を構築し、インターネット上に公開されたデータを実際に分析・視覚化する実習を通じてデータとその世界への理解を深めます。特に個人の表現方法の一つとしてデータ分析的な視点を持つことを目標とします。

※この科目は実務経験を有する教員(清水恒平教授)による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員 が、データビジュアライゼーションの手法と実例について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題
データビジュアライゼーションの手法と実例のリサーチ

○メディア授業[リアルタイム]科目
データ分析環境の構築とデータビジュアライゼーション。

【授業計画】

○メディア授業[リアルタイム]
第1日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録
第2日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録
＊オンラインプラス[中間] Slackなどを利用して、インストールした分析環境でのデータビジュアライゼーション、検証、作業記録についてのディスカッションを行う。
第3日 分析環境を用いた制作・ディスカッション。
第4日 分析環境を用いた制作・発表・ディスカッション。

・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
・スクーリングの約一週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
・4日間全ての出席が必要。

【成績評価の方法】

制作・プレゼンテーションした分析内容、論理的思考、問題解決能力などを総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』P.53の特例を除く）。

◯備　　考
デザインシステムコース4年次必修科目。
・LinuxまたはMacのターミナルの基本操作の基礎的な知識があることが望ましい。レベルに応じてクラス分けをする場合もある。 ・事前準備ができる場合は下記の内容をリサーチして作業しておくと良い。
・Python の基本操作
・Dockerの基本操作
・pandas によるデータ操作
・matplotlib によるデータ視覚化 ・以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。 ・macOS, Linux, Windows8 以上のいずれかの OS が動作すること。
・ Python などのプログラミングや Web ブラウズが可能な画面サイズとキーボードを備えていること。 ・購入を検討中であれば(MacBook Pro、MacBook Air)を勧める。
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

◯教科書
『Data Points: Visualization That Means Something』（Nathan Yau 著 Wiley 2013）

◯学習指導書
『データベース　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

【その他】
◯参考文献
・『Python によるデータ分析入門 第 2 版―NumPy、pandas を使ったデータ処理』(Wes McKinney 著、瀬戸山雅人、小林儀匡、滝口開資 訳 オライリージャパン 2018)
・『ビューティフルビジュアライゼーション』 (Julie Steele、Noah Iliinsky 編、増井俊之 監訳、牧野聡 訳 オライリージャパン 2011) ・『ヤバい経済学[増補改訂版]』(レヴィット，スティーヴン．D．著、ダブナー，スティーヴン．J．著、望月衛 訳 東洋経済新報社 2007) ・『エンジニアの知的生産術』(西尾泰和 技術評論社 2018)
・『新しい Linux の教科書』(三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015)
・『スラスラ読める Python ふりがなプログラミング』 (リブロワークス 著、株式会社ビープラウド 監修 インプレス 2018)
・『退屈なことは Python にやらせよう―ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング』(Al Sweigart 著、相川愛三 訳 オライリージャパン 2017)
・Web サイト動画: デビッド・マキャンドレス「データビジュアライゼーションの美」 https://bit.ly/2HEERp3

◯メディア授業[リアルタイム]について:グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	デザインシステム研究						
授業コード	1580	授業科目名	デザインシステム研究			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）　メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

「情報システム基礎」「マルチメディア表現」「メディア環境論」「情報通信ネットワーク」などの科目の学習内容を踏まえ、マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報の提示の仕方など、現在は個別に存在している各分野の知識・技術を組み合わせ、デザイン・美術の分野への有効な活用方法を探求することを目的とする。

「卒業制作」の前段階として、課題においては各自が自由にテーマを設定しレポートを作成する。面接授業ではオムニバス形式の講義や実習を行い、その手法を基にテーマの深堀りを行っていく。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、マルチメディア、ネットワークを活用した表現について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

〇通信授業課題
マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報提示の仕方など複数の分野にまたがる研究テーマを各自が自由に設定し、文献、資料調査、フィールドワークなどを行い、レポートを作成する。

〇メディア授業課題
前半はオムニバス形式の講義や実習を行い、考えをまとめる手法や、レイアウトのシステムを学ぶ。後半はその手法を基にテーマの深堀りを行っていく。発表だけでなく、受講者同士のディスカッションを行う。

＊課題については、学習指導書『デザインシステム研究　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇通信授業

デザイン、情報学の分野から、興味を持ったテーマを複数選び、その分野に関する調査を行った後、課題レポートを制作する。

〇メディア授業

・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
・4日間全ての出席が必要。

各日に設定されたテーマに関する講義と課題制作を行う。
※オンラインプラス［中間］―slack 上での中間アドバイス

【成績評価の方法】

通信授業課題とメディア授業課題、および発表・ディスカッションの発言等の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
デザインシステムコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。

◯備　　考
デザイン情報学科デザインシステムコース 4 年次必修科目。
以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェア、周辺機器を所有するか、もしくは利用できること。
・ Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの
・画像の編集作業ができるソフトウェア（Adobe Photoshop）
・ページレイアウト用ソフトウェア（Adobe Illustrator、Indesign など）
・インターネットに接続して利用できること
・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

◯教科書
『デザイン情報学入門』（日本規格協会　2000年）

◯学習指導書
『デザインシステム研究　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1890	授業科目名	卒業制作			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにデザインシステムコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4 年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・Web上のコミュニケーションツール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作をすることが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

＊課題については、学習指導書『卒業制作　2024年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

〇面接授業
各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。
※オンラインプラス［準備］―　Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談
面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。
※オンラインプラス［中間］―　Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス
制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

〇通信授業
テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
4 年次

〇履修条件
以下のすべての条件を満たすこと。
・デザイン情報学科デザインシステムコースに在籍していること。
・デザイン情報学科デザインシステムコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。
・デザイン情報学科デザインシステムコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

◯備　　考
・デザイン情報学科デザインシステムコース 4 年次必修科目
・オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。
・5月頃にWEBキャンパス「学生メニュー」のネットフォーラム上にオンラインプラス実施に関する情報を発信する。5月にはネットフォーラムを確認すること。

【教材等】

◯教科書
なし

◯学習指導書
『卒業制作　2024年度（デザイン情報学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。
面接授業について：グループワークを行う。

教職に関する科目

科目名	美術教育法 Ⅰ						
授業コード	1640	授業科目名	美術教育法 Ⅰ			担当者	三澤一実教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
身近な幼児・児童（3 歳～ 10 歳）の年齢の違う描画作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2
昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。
新聞、雑誌、WEB サイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』第 I 章と第 II 章、同じく教科書『美術の授業のつくりかた』第 I 章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。
・『美術教育資料研究』第 I 章　美術教育法の目的と意義
・『美術教育資料研究』第 II 章　子どもの造形表現
・『美術の授業のつくりかた』第 I 章　美術科の特徴と今日的課題
・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
・情報収集／新聞、雑誌、WEB サイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

【成績評価の方法】

◎科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実編者『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年、2023 年 第2版）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版　2018 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2018 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

○参考図書
ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社　2001 年）
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅱ						
授業コード	1650	授業科目名	美術教育法 Ⅱ			担当者	三澤一実教授、中村美知枝講師、徳山高志講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法 I」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題　※ 面接授業で提出
「『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を読み，現在の造形美術関係教科等と比較考察し論述すること。」
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

○ 面接授業課題
「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」
講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業　※ 面接授業で提出
教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を精読し、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、現在の造形美術関係教科等と比較し、自身の考察を加えるようにする。
・『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節　チゼックスクール

○面接授業
チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに，近現代の造形美術教育史を概観する。
また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め，中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。
第 1 日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説
第 2 日 自由画教育運動と中学校，高等学校学習指導要領
第 3 日 鑑賞題材の開発と研究発表

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
「美術教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（日本文教出版　2018 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

＊スクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅲ						
授業コード	1660	授業科目名	美術教育法 Ⅲ			担当者	三澤一実教授、濱脇みどり講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育活動の理念やシステムは時代の思潮によって変革され、変容していく。教育実践者はその改革が在るべき姿として正しいものといえるのか、その目指すところは未来の理想となり得るものかを絶えず検証する姿勢を持たねばならない。また造形美術教育はその性格や内容から、社会思潮を積極的に受け止め、時代に対応した教育の意義や価値を検証する必要がある。そのような研究は教育史論をはじめとして、実践論、教育哲学論、造形芸術論などを踏まえた学際的な性格を持つものである。ここでは障害者の造形美術教育にまで視野を広げ、今日的な課題を中心として、研究的姿勢を身に付けることを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1
「身近な中学生の作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること」
実際にその中学生が描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。また、作品は平面でも立体でもよい。
作品のコピーを添付し、作者の学年や性別、素材や技法、出典などを明示すること。

○ 通信授業課題 2
教科書『美術教育資料研究』第Ⅳ章及び『美術の授業のつくりかた』の中から、今日的課題として重要な内容をひとつ選び、その内容について自分の意見や考えを根拠を示し述べること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』第Ⅳ章及び『美術の授業のつくりかた』を精読し、自身の教育観を広げられるようにする。また、現在の教育改革についても情報を集め、考察を深めて行くようにする。
・『美術教育資料研究』第Ⅳ章　現代美術教育の諸相
・『美術の授業のつくりかた』

【成績評価の方法】

◎ 科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
「美術教育法 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程　2024 年）

＊「美術教育法Ⅱ」のスクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3.4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅳ						
授業コード	1670	授業科目名	美術教育法 Ⅳ			担当者	三澤一実教授、中村美知枝講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「開かれた学校」のことばが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけではなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題　※ 面接授業で提出
「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参，提出すること。

○面接授業課題
中学校及び高等学校における学校間連携、地域連携、美術館等との連携を考えた授業計画案もしくは学校行事、特別活動等との連携を考えた指導計画案の作成を基に、中学校美術科、高等学校芸術科美術の将来像を考察し、検討する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』及び『美術の授業のつくりかた』を総覧するとともに、美術館の Webサイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

○面接授業
現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。
第 1 日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視（美術文化）
第 2 日 日本美術教育史／中学校及び高等学校学習指導要領（事例と年間指導計画、学校種による違いなど）
第 3 日 学外連携の学びを基にした造形美術教育の意義や課題を踏まえた題材の開発と発表、検討

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
旧課程登録者は、別表第４（中学、高校１種［美術］）に登録していること。
「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程　2024 年）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（日本文教出版　2017 年）

科目名	工芸教育法 Ⅰ						
授業コード	1680	授業科目名	工芸教育法 Ⅰ			担当者	三澤一実教授、今井陽子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1
幼稚園児、もしくは小学校児童の異年齢の工作作品 2 点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。
実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEB サイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題 2
教科書『工芸の教育』第 3 章手工教育の変遷・第 2 節手工教育のはじまりとしての「恩物」に示されている「フレーベル恩物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。
・『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」／恩物、ネース講習、構成教育、国民学校令
・『小学校学習指導要領解説　図画工作編』　工作領域の学習の目的と内容
・『中学校学習指導要領解説　美術編』　工芸領域の学習の目的と内容
・『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』　工芸科の学習の目的と内容

【成績評価の方法】

◎科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（高校 1 種［工芸］）に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（日本文教出版　2018 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（日本文教出版　2018 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

＊スクーリング時にセット販売
文部科学省検定済 小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』
『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

【その他】

○参考書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年、2023 年 第2版）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

科目名	工芸教育法 Ⅱ						
授業コード	1690	授業科目名	工芸教育法 Ⅱ			担当者	三澤一実教授、波田野公一講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法Ⅰを基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中での工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

【課題の概要】

○通信授業課題　面接授業で提出
身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。
取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。
授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。

○面接授業課題
高等学校芸術科工芸Ⅰにおける表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。
学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業
地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。
・『中学校学習指導要領解説 美術編』　工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
・『高等学校学習指導要領解説 芸術編　音楽編　美術編』　工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い

○面接授業
工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。
第１日　伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際
第２日　デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解
第３日　題材設定の作成、発表、講評

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（高校１種［工芸］）に登録していること。
「工芸教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2018 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目/文化総合科目・教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

※ スクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年、2023 年 第2版）

科目名	教育原理 Ⅰ						
授業コード	1600	授業科目名	教育原理 Ⅰ			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育の理念、教育の歴史、教育の思想など広くについて、学ぶものである。ここで学んだ教育の理念・歴史・思想が、これからの教育実践や教育の社会的意義を深く考えていくための前提となる。教育をめぐって、子どもと大人、学校と家庭と社会、教育学の諸概念を理解して、さらに、古代から近代にいたる教育の歴史と思想を実践の前提となる教養として獲得することが目標である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「子どもにとっての教育」と題して、教科書を理解して、関心のある子どもに関するテーマを論じる課題。

○通信授業課題 2
「歴史からみえる教育の機能と理念」と題して、教科書を理解して、教育の歴史を考える課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 部（第 1 章～第 15 章）を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。必要に応じて第 2 部も参照すること。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書第 1 部（第 1 章～第 15 章）の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一『新しい教育通義　増補改訂版』（武蔵野美術大学出版局　2018年、2023年増補改訂版）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

科目名	教師論						
授業コード	1590	授業科目名	教師論			担当者	高橋陽一教授、桑田直子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義に関する科目」であり、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）」及び「進路選択に資する各種機会の提供等」を内容としている。具体的には教員の役割や歴史、そして特に美術、工芸、情報の教員の職務とその意義について理解を深めることが期待される。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「教員生活や教員社会の特徴について、経験豊かな教員あるいは恩師の教員からヒアリングを行い、それをもとに自分なりの理想的教員像を論じなさい。」
教科書を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「子どもの個性を引き出し、伸ばすということについて、美術・工芸・情報科の教員の役割を論じなさい。」
教科書を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
『新しい教師論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。
教科書を熟読して受験すること。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一編『チーム学校の教師論』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	教育原理 Ⅱ						
授業コード	1610	授業科目名	教育原理 Ⅱ			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育をめぐる社会の在り方や学校教育制度などについて、学ぶものである。「教育原理Ⅰ」で学んだ教育の理念や歴史などを踏まえて、教育が現在社会でいかに機能し、どのような問題をもち、どのように改革されるべきかを考える。教育職員免許法施行規則の定めるとおり教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学び、さらに学校と地域の連携や学校安全という課題も併せて理解するための授業である。とりわけ、現代の日本の学校教育制度と教育行政の在り方など、私たちの教育の在り方を展望するための視野を確立することを目的としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題１
教育基本法における教育の理念について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、現行の教育基本法の全体的な方針、法令上の位置づけについて概要をまとめ、関心のある条文を一つ選んで要約すること。

○通信授業課題２
義務教育の制度について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、義務教育の根拠となる教育制度について概要をまとめ、小学校や中学校などの機能や役割について要約すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第２部を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書第２部各章の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。
「教育原理Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一『新しい教育通義　増補改訂版』（武蔵野美術大学出版局　2018年、2023年増補改訂版）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	教育心理学						
授業コード	1620	授業科目名	教育心理学			担当者	桂瑠以講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育心理学の知見に基づく教授法ならびに学習指導の原理や仕組みに関する基礎的事項の理解、把握を目標とする。なかでも特に、近年の学校教育で重視されている学習者主体の指導・教授について、自主性や主体性を育てる指導・教授に必要な条件、それらが損なわれる際に引き起こされる問題などの観点から考察する。教科書では、1. 様々な学習の仕組みや原理、2.「やる気」と呼ばれる心理状態、3. 教授方法・学習指導の形態、4. 教育評価を中心に、教師による教授と生徒の学習に関する概観を把握する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
自己や他者の経験をふまえ、実際の学習活動において「やる気」が高められた事例、逆に「やる気」が低下させられた事例を分析研究する課題。

○通信授業課題 2
教科書をふまえて、教育心理学的知見から、学習動機を高め、持続させる教授・学習指導法を考察する課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 3 章、第 4 章、第 6 章、第 7 章を使用する。課題に取り組む前に、各章を熟読すること。
第 3 章 ほめることの大切さ
古典的条件づけによる学習／道具的条件づけによる学習／観察による学習／自己強化による学習
第 4 章 「やる気」を考える
期待－価値モデル／統制感／原因の考え方／内発的動機づけ
第 6 章　どのように教えるか
学習指導の形態／発見学習／受容学習／グループ学習と個別学習の具体例／適性処遇交互作用
第 7 章 児童・生徒をどう評価するか
教育の成果を評価する／評価のための情報を得る方法

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分より論述形式の問題を出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2 年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣　1999 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	特別支援教育						
授業コード	1900	授業科目名	特別支援教育			担当者	高橋陽一教授、杉山貴洋講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

特別支援教育全般の理念と理論について教科書を活用して理解する。さらに実践力を養うために、美術教員として特別な教育的ニーズをもつ小学校児童や中学校・高等学校生徒を念頭において、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級における全般的な実践課題を理解し、子どもの理解、教育課程の構想と指導・支援の基本を学ぶ。

目標としては、（1）発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもの障害の特性と心理の発達とインクルーシブ教育を含む特別支援教育の理解、（2）発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法、（3）障害以外の特別の教育的ニーズのある子どもの学習上及び生活上の困難への対応を理解して、特別支援教育の理解と実践力を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「インクルーシブ教育とは何か」
まず教科書第 1 章を熟読し、さらに第 2 章と第 3 章を踏まえたうえで、今日の学校と社会の課題からインクルーシブ教育とは何かを整理すること。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

○通信授業課題 2
「障害や多様なニーズに対応する教育とは何か」
まず教科書第 4 章以後を熟読して、様々な障害や障害以外の特別な教育的ニーズについて考え、学校でどのような配慮をするべきか教師としての立場で実践的に記すこと。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『特別支援教育とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子『特別支援教育とアート』

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	道徳教育の理論と方法						
授業コード	1720	授業科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	高橋陽一教授、亀澤朋恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3〜4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探求するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

【課題の概要】

○通信授業課題１
「道徳とは何であったか」
歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

○通信授業課題２
「学校で道徳をどう教えるか」
中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次〜

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
3年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（教育出版　2017 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

旧科目名：道徳教育の研究

科目名	総合的な学習の時間の指導法						
授業コード	1910	授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			担当者	高橋陽一教授、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことで、子どもたちの課題探求能力やよりよく生きていくための資質・能力を育てるためのものである。美術教員を目指す学生がこの指導法を獲得して、さらにチーム学校で総合学習を牽引するためのアクティブ・ラーニングの効果的な手法であるワークショップの技法を修得することをテーマとする。

到達目標としては、（1）総合的な学習の時間の意義や学校教育における位置づけを理解して美術教員がチーム学校の一員として率先して担うべき志向を体得し、（2）総合的な学習の時間に関する学校としての全体計画、年間指導計画、単元指導案などを作成する能力を獲得して美術教員として言語活動や記録と表現を促進するワークショップ技法に熟練し、（3）生きる力としての思考力・判断力・表現力、課題探求能力や問題発見能力などを子どもたちが獲得するための指導と評価の考え方を理解して、子どもたち自身の記録と表現としての自己評価・ポートフォリオ評価や教師による学習状況の評価方法などの知識と技術を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「総合的な学習の時間の概要と可能性」
教科書をもとに、今日における総合的な学習の時間はどのようなものかを概説すること。その上で、自分自身の観点を含めて、総合的な学習の時間が子どもたちにどのような可能性を提供するかを論じること。

○通信授業課題 2
「総合的な学習の時間で取り組むテーマと計画」
自分自身の知識や関心をもとに、校種・学年などを仮想して、総合的な学習の時間に取り上げるべきテーマを設定すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『総合学習とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子・有福一昭『総合学習とアート』（武蔵野美術大学出版局 2019年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	特別活動の理論と方法						
授業コード	1730	授業科目名	特別活動の理論と方法			担当者	橋本萌講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「特別活動の指導法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。特別活動についての全般的な理解を深めると同時に、特別活動が抱える今日的課題を受講者の問題意識に沿いながら考察する。教科書では、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」のもつ問題点を個々に取りあげながら、特別活動という領域のもつ内容的広がりを多様に構想できるようになることを目標とする。その上で、教育の現状に対する自分なりの視点・視角をもつことができるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を踏まえて、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」について個々の現状を把握する。その上で、「批判」「分析」「提言」の三段階をもって考察し、「私のつくる特別活動」の構想を課題とする。

○通信授業課題 2
教科書を踏まえて、学校教育の抱える今日的課題（特別活動に関する）を自分なりにまとめる。その際に、自分固有の問題意識をもつことを条件とするが、「自主性と共同性」という視点からの考察が望ましい。
＊「問題意識」：自分がこだわっている考え方、価値観など。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。
＊必ず「タイトル」を記載すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『未来の教師と考える特別活動論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1章　特別活動とは何か
第 2章　現行の学習指導要領と特別活動
第 3章　戦前の教科外活動の変遷
第 4章　戦後の特別活動の変遷
第 5章　学級活動とは何か
第 6章　朝の学活
第 7章　学級の問題を話し合う
第 8章　学級活動とアクティブラーニング
第 9章　特別活動とキャリア教育
第10章　生徒会活動とは何か
第11章　学校行事とは何か
第12章　日の丸 君が代をめぐって
第13章　クラブ活動と部活動
第14章　諸外国の教科外活動
第15章　特別活動の現状と課題

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
伊東毅『未来の教師と考える特別活動論』（武蔵野美術大学出版局　2022 年）
文部科学省編『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（東山書房　2017 年）
文部科学省編『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（東京書籍　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

旧科目名：特別活動の研究

科目名	教育方法（ICT活用を含む）						
授業コード	1980	授業科目名	教育方法（ICT活用を含む）			担当者	三澤一実教授、岡田京子講師
開講期間	通年	単位数	2単位（T1、S1）	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

教育計画は教育の理念や目標を具現化し、実践可能な授業としての形を作ることである。その場合、指導方法についての研究や、題材論、素材や用具についての知識、教育環境の整備など多岐に渡る視点が必要となってくる。ここでは、授業を成立させる要素についての理解を深め、美術教育法や工芸教育法、情報教育法などを通して構築した教育の理念を効果的に実践するための方法を研究する。具体的には学習指導案や年間指導計画表、週案の考え方などを学習し、模擬授業へと発展させる。
ICT 活用については、授業内容の充実と深化を図ることを目的として、その意義と理論、授業と校務における活用、児童生徒の情報モラルの育成などを含めた内容を理解し、実践的な指導計画を作成する能力を獲得する。

【課題の概要】

○面接授業課題
「それぞれの履修科目に応じた学習指導案を作成し、模擬授業を行うこと。」
学習意欲こそが基本的な学力であるとする視点に立ち、各題材の導入部分を中心とした模擬授業を実施する。

○通信授業課題　返却用の封筒を同封すること
「生徒の主体性を生かした年間指導計画と、その中の一題材の学習指導案及びその題材で用いるワークシートを作成すること。学習内容の定着と深化を図ることを目的とするため、ICT活用を前提として、情報モラル育成を含む題材及びワークシートとすること。」
学習指導要領に基づいてICT 活用を前提とした授業計画を考える。
面接授業内で、本課題の解説を行うとともに、課題説明プリント、情報通信活用関係ウェブページ一覧、インターネットを活用したワークシート模式例及び課題用紙を配付する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。
＊年間指導計画、学習指導案、ワークシートを一括して提出すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

○面接授業
教育計画の意味や目的を理解し、その具体的な作成方法を学習する。またそれぞれの状況に応じた指導方法を研究し、指導力の育成を図る。
第１日　教育計画の考え方、各種指導案の研究、教育環境の設計
第２日　学習指導案の制作
第３日　模擬授業による討議、講評

○通信授業
面接授業での学習をもとに，武蔵野美術大学出版局刊『美術の授業のつくりかた』、各学習指導要領解説を中心として、学習意欲を引き出す主体的な学習活動を基本とした教育方法を研究する。
・『美術の授業のつくりかた』第２章・3 章・4章　授業の組み立てと学習指導・教科経営・題材開発研究
・各学習指導要領解説
・文部科学省等の情報通信技術活用関連ウェブページ

【成績評価の方法】

面接授業課題及び通信授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「工芸教育法Ⅰ・Ⅱ」などの教育内容の理解が前提となるために、登録している免許に応じてこれらの科目を修得または同時に履修登録をすることが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
三澤一実編『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年、2023 年 第2版）
（美術・工芸免許状登録者） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2018 年）※
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書　2019年）
（情報免許状登録者） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版　2019年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

※ スクーリング時にセット販売
（美術・工芸免許状登録者） 文部科学省検定済中学校教科書『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
文部科学省検定済高等学校教科書『高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』（日本文教出版）
文部科学省検定済高等学校教科書『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

参考図書：大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校美術』
『同　高等学校芸術（美術）』『同　高等学校情報』（東洋館出版　2020年）
※実習校種・科目に応じて準備。

必ず閲覧するウェブサイト（教科書に準じる）
・文部科学省等の情報通信技術活用関連ウェブページ
○ 「教員のICT活用指導力チェックリスト」（平成30年6月改訂） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416800.htm
○ 「教育の情報化に関する手引」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
○ オンライン講座「校内研修シリーズ」 https://www.nits.go.jp/materials/intramural/theme.html#theme05-04
○ 「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html
○「小中高等学校におけるICTを活用した学習の取組事例」（令和２年５月） https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

旧科目名：教育方法

科目名	生活指導の理論と方法						
授業コード	1740	授業科目名	生活指導の理論と方法			担当者	伊東毅教授、滝澤佳奈枝講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導の理論及び方法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。指導の背後にある基本的な理論をふまえ、生活指導の歴史的・社会的意味について考察することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「教員として子どもに関わる立場から、学級崩壊現象について論じなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「児童・生徒の主体性をどのようにのばすかについて述べなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『これからの生活指導と進路指導』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1 章　学校教育における生活指導
第 2 章　学校教育における進路指導
第 3 章　生活指導とは何か
第 4 章　生活指導の方法
第 5 章　進路指導の歴史
第 6 章　進路指導の理論
第 7 章　キャリア教育の理念・実態・課題
第 8 章　不登校とサポート体制づくり
第 9 章　文部科学省のいじめ対策
第 10 章　いじめへの対応と学級活動・生徒会活動
第 11 章　ジェンダーと学校
第 12 章　多文化教育と学校
第 13 章　問題行動と生活指導
第 14 章　十八歳成人と主権者教育
第 15 章　懲戒と指導

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

旧科目名：生活指導の研究

科目名	教育相談論						
授業コード	1750	授業科目名	教育相談論			担当者	伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

具体的な到達目標は、（1）学校における教育相談の意義と理論やこれに関わる心理学の基礎を理解し、（2）生徒の不適応や問題行動の意味を知るとともにそのシグナルを受けとめる方法を理解するとともにカウンセリングマインドの必要性と基礎的技法を理解し、（3）生徒や保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示することができたり、諸問題に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方や各機関との連携の意義や必要性を理解すること、である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1 章　教育相談とは何か
第 2 章　教育相談をめぐる学校教育政策の動向
第 3 章　教育心理学の基本
第 4 章　発達理論の基本
第 5 章　友人関係・社会性の発達
第 6 章　発達障害の理解と支援
第 7 章　カウンセリングの基本
第 8 章　心理療法の理解
第 9 章　いじめの実態と対策の動向
第 10 章　不登校の実態と対策の動向
第 11 章　非行少年の実態とその処遇
第 12 章　問題行動とカウンセリング
第 13 章　道徳教育と教育相談
第 14 章　多文化教育をめぐる教育相談
第 15 章　宗教をめぐる教育相談

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2 年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	教育実習 Ⅰ						
授業コード	1770	授業科目名	教育実習 Ⅰ			担当者	三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。

なお教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの 2 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題
実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業
「教育実習 I」のみの場合は 2 週間又は 3 週間、「教育実習 II」と併せて行う場合は 3 週間又は 4 週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程に登録していること。
「教育実践の理論と方法」の第 1回から第 3回の事前指導をすべて受けた 4年次の者に限る。
その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備　　考
なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実習 Ⅱ						
授業コード	1780	授業科目名	教育実習 Ⅱ			担当者	三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「教育実習 I」に引き続き、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は「教育実習 I」のみの 2 週間又は 3 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題
実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業
「教育実習 I」と「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間となる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程（別表第 1 の中学 1 種［美術］）に登録していること。
「教育実践の理論と方法」第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。
その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備　　考
なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実践の理論と方法　教育実践の理論と方法（1）教育実践の理論と方法（2）						
授業コード	下表参照	授業科目名	教育実践の理論と方法　教育実践の理論と方法（1）教育実践の理論と方法（2）			担当者	三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習の事前事後指導である。教育実習を行うにあたっての基礎的な知識と心構え、実習校との各種手続を含む事務的な連絡などをオリエンテーション形式で行う。

【課題の概要】

○面接授業課題
第 1 回・第 2 回の面接授業を受けるに際して、月刊誌『武蔵美通信』別冊『スクーリング持参物』により告知して予めレポート課題を指定し、当日これを回収する。課題は、教育実習にあたっての準備や心構えなどに関することで、テーマは適宜指示する。

【授業計画】

○面接授業
教職課程登録年次から 4 年次（教育実習受講年度）にかけて合計 3 回の授業すべてに順番に出席すること。

第 1 回　教職課程登録年次
教育実習の理念と実際、教育実習までの日程概要、美術・情報に関する視聴覚教材の上映、第 1 回小論文提出

第 2 回　3 年次（教育実習前年度）
教育実習の事前学習の指導、教育実習についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、教育実習までの各種手続の説明、第 2 回小論文提出

第 3 回　3 年次（教育実習前年度）又は4 年次（当該年度後期教育実習予定者）
教育実習の直前指導、美術・情報についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、各種手続の説明
事後指導　（4 年次　通信の方法による）
教育実習終了報告書の提出

【成績評価の方法】

提出された小論文及び出席状況、教育実習終了報告書によって採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
*次頁〈各年次の履修登録と面接授業の受講回〉表参照

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
次頁〈各年次の履修登録と面接授業の受講回〉表のとおり履修登録し、面接授業第 1 回～第 3 回に順番に 1 回ずつ出席すること。
後期に実習を行う場合は、面接授業第 3 回を実習年度で受講することができる。
教育実習後に本学指定様式の「教育実習終了報告書」を提出し、合格する事によって、単位修得となる。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）※ 第 3 回面接授業時に配付

【その他】

実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において予め行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

旧科目名：教育実践の研究

＜各年次の履修登録と面接授業の受講回＞

年次	授業コード	履修登録科目	受講する面接授業
教職課程登録年次	2100	教育実践の理論と方法(1)	面接授業第1回(春期または夏期)
3年次(教育実習前年度)	2110 1790	教育実践の理論と方法(2) 教育実践の理論と方法	面接授業第2回(春期または夏期) 面接授業第3回(夏期)
4年次(教育実習受講年度)	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(夏期) ※当該年度後期実習者のみ

科目名	教職実践演習（中・高）						
授業コード	2270	授業科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）　面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目（中学校美術、高等学校美術・工芸・情報）にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題
指定された様式に基づいて「教育実習の概要」（Ａ４判１枚）を当日に提出すること。

○通信授業課題
「教科教育以外の教育実習の反省」
上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

○面接授業課題
「研究授業学習指導案」（実際に実施したもの）と「教科教育の教育実習の反省」
上記の課題については、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述し、当日提出すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教育実習　→　オリエンテーション　→　通信授業　→　面接授業
　*教育実習、オリエンテーションは順不同

○オリエンテーション
この授業科目の目的や具体的な学習内容などを説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

○通信授業
教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上ための自分自身の課題を明確にする。

○面接授業
教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上ための自分自身の課題を明確にする。
・前提講義
・設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
・講評

【成績評価の方法】

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。
「教育実習Ⅰ」（中学１種・高校１種）または「教育実習Ⅱ」（中学１種のみ）、「教育実践の理論と方法」の単位を修得しているか、同時に履修登録していること。

○備　　考
オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと（日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能）。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。

【教材等】

○教科書
『求められる美術教育』大坪圭輔編（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『美術の授業のつくりかた』三澤一実監修（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者（旧課程適用者）はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。

科目名	介護等体験						
授業コード	1800	授業科目名	介護等体験			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、介護等体験特例法によって小中学校の免許状授与にあたって義務づけられた介護などの体験とその事前事後指導である。介護等体験では、社会福祉施設や特別支援学校において合計 7 日間の介護、介助、交流などを行う。この授業では、介護等体験をするにあたっての準備を整え、7 日間を自分にとっても高齢者・障害者にとっても有意義に過ごしていくものである。また、介護等体験の終了後にその記録を作成して、これからの教育実践に生かしていくことをも目標とする。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題
オリエンテーション前に『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験を行うにあたっての考えをレポートすること。

○面接授業課題
介護等体験を踏まえて『介護等体験ガイドブック』のなかの日誌部分に記録し、介護等体験終了レポートと共に提出すること。

【授業計画】

○オリエンテーション
『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験の理念や在り方、社会福祉の意義などを考え、これらをレポートにまとめてオリエンテーション時に提出すること。

○面接授業
各社会福祉協議会及び教育委員会の定める手続きに従い、原則的には特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間の合計 7 日間の介護等体験を行う。実際の日程や内容などは、学校や施設により異なる。
この介護等体験にあたっては毎日の日誌をつけ、記録を作成すること。

【成績評価の方法】

提出されたレポート、オリエンテーションの出席状況、介護等体験の内容と記録を合わせて採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（別表第 1 適用の中学 1 種［美術］）に登録していること。

○備　　考
2 年次以降にオリエンテーションを受け、翌年度に介護等体験を行う。オリエンテーション受講年度と介護等体験受講年度に履修登録が必要。

【教材等】

○教科書
なし

○学習指導書
なし

※『介護等体験ガイドブック』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）

【その他】

地域ごとに定められた手続きに従い、各種の調整など学生の責任において行うことが多い。また実施日程は受入施設等の予定にあわせることになる。その他、定められたルールや条件を満たした場合のみ実施が可能となるので、十分な自覚をもって臨む必要がある。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
2024年度　シラバス　学1課程

2024 年 4 月 1 日発行

発行：武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
〒 187−8505　東京都小平市小川町 1−736　14 号館 304
電話　042−342−3401 ～ 5

印刷：株式会社アトミ

©2024 Musashino Art University